

# データヘルス計画（第1期）

## 年次報告書

---

[ 平成29年度 ]

最終更新日：平成 30 年 10 月 10 日

アルバック健康保険組合

## STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	46619
組合名称	アルバック健康保険組合
形態	単一
業種	機械器具製造業

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者数	-名	4,240名	4,000名
* 平均年齢は	男性-%	男性87.2%	男性87.5%
特例退職被保険者を除く	(平均年齢-歳) *	(平均年齢42.8歳) *	(平均年齢42.8歳) *
	女性-%	女性12.8%	女性12.5%
	(平均年齢-歳) *	(平均年齢41.3歳) *	(平均年齢41.2歳) *
特例退職被保険者数	-名	0名	0名
加入者数	-名	9,700名	9,643名
適用事業所数	-カ所	21カ所	20カ所
対象となる拠点数	-カ所	97カ所	96カ所
保険料率 *調整を含む	-%	85%	85%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	-	-	0	0	0	0
	保健師等	-	-	1	0	1	0
事業主	産業医	-	-	1	16	1	16
	保健師等	-	-	4	0	4	0

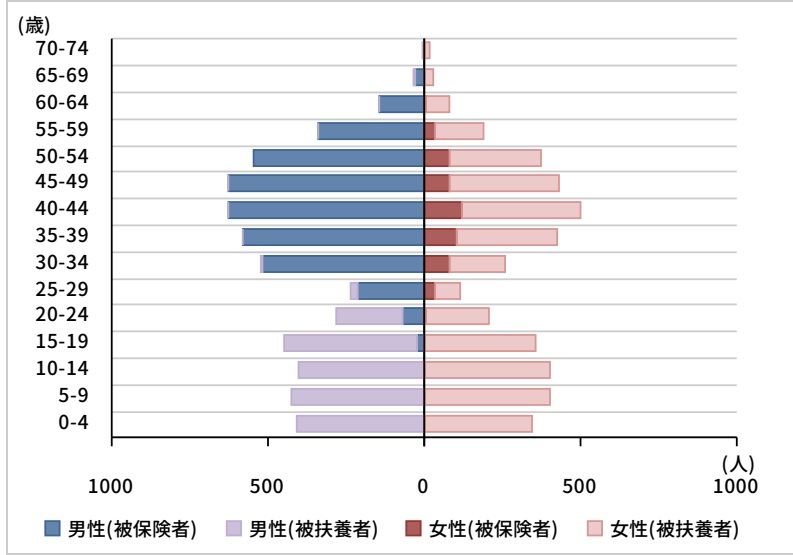
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健康診査実施率	全体	-%	76.2%	77.1%
	被保険者	-%	92.9%	93.8%
	被扶養者	-%	42.0%	47.9%
特定保健指導実施率	全体	-%	7.8%	56.3%
	被保険者	-%	8.2%	60.4%
	被扶養者	-%	0.0%	0.0%

		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	-	-	11,566	2,728	12,000	3,000
	特定保健指導事業費	-	-	3,380	797	10,000	2,500
	保健指導宣伝費	-	-	19,396	4,575	10,000	2,500
	疾病予防費	-	-	66,230	15,620	76,000	19,000
	体育奨励費	-	-	3,000	708	3,000	750
	直営保養所費	-	-	0	0	0	0
	その他	-	-	4,200	991	4,500	1,125
	小計 …a	0	-	107,772	25,418	115,500	28,875
経常支出合計 …b	-	-	2,251,201	530,944	2,826,763	706,691	
a/b×100 (%)	-	-	4.79		4.09		

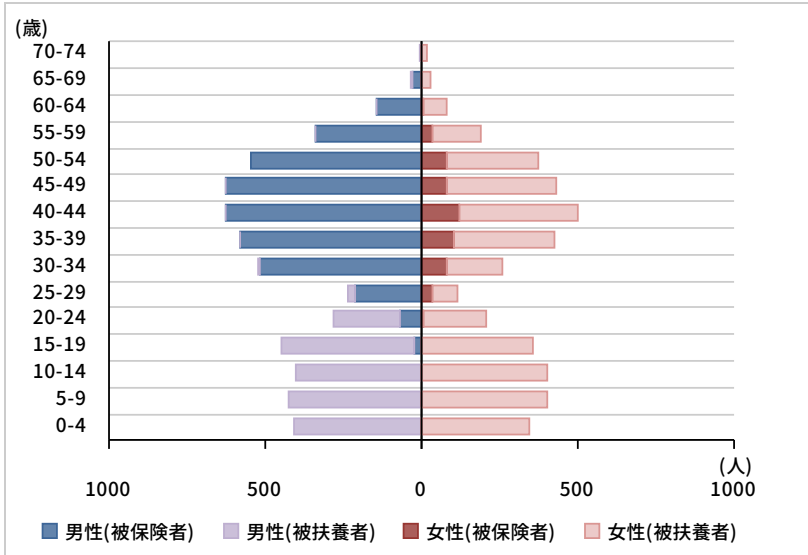
平成27年度



平成28年度



平成29年度



## 男性（被保険者）

平成27年度			平成28年度			平成29年度					
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	22人	10～14	0人	15～19	22人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	69人	25～29	215人	20～24	69人	25～29	215人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	515人	35～39	578人	30～34	515人	35～39	578人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	627人	45～49	624人	40～44	627人	45～49	624人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	547人	55～59	341人	50～54	547人	55～59	341人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	144人	65～69	26人	60～64	144人	65～69	26人
70～74	-人			70～74	1人			70～74	1人		

## 女性（被保険者）

平成27年度			平成28年度			平成29年度					
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	2人	10～14	0人	15～19	2人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	8人	25～29	35人	20～24	8人	25～29	35人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	83人	35～39	104人	30～34	83人	35～39	104人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	118人	45～49	82人	40～44	118人	45～49	82人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	78人	55～59	32人	50～54	78人	55～59	32人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	7人	65～69	2人	60～64	7人	65～69	2人
70～74	-人			70～74	0人			70～74	0人		

## 男性（被扶養者）

平成27年度			平成28年度			平成29年度					
0～4	-人	5～9	-人	0～4	409人	5～9	423人	0～4	409人	5～9	423人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	404人	15～19	426人	10～14	404人	15～19	426人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	212人	25～29	21人	20～24	212人	25～29	21人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	4人	35～39	2人	30～34	4人	35～39	2人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	1人	45～49	1人	40～44	1人	45～49	1人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	0人	55～59	1人	50～54	0人	55～59	1人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	1人	65～69	4人	60～64	1人	65～69	4人
70～74	-人			70～74	3人			70～74	3人		

## 女性（被扶養者）

平成27年度			平成28年度			平成29年度					
0～4	-人	5～9	-人	0～4	346人	5～9	402人	0～4	346人	5～9	402人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	400人	15～19	355人	10～14	400人	15～19	355人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	201人	25～29	78人	20～24	201人	25～29	78人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	178人	35～39	322人	30～34	178人	35～39	322人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	379人	45～49	352人	40～44	379人	45～49	352人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	293人	55～59	158人	50～54	293人	55～59	158人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	75人	65～69	27人	60～64	75人	65～69	27人
70～74	-人			70～74	16人			70～74	16人		

基本情報から見える特徴

事業所の拠点が全国にある。  
 年齢構成のピークは40～44歳である。  
 被保険者は、男性が87.5%を占めている。



## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

- ・被扶養者の特定健診受診率が低下傾向にある。
- ・特定保健指導の実施率が低い。
- ・人間ドック・PETの受診率が低く、受診者が固定化されている。
- ・電話相談の利用率が低い。
- ・機関誌を家に持ち帰らない社員がいる。

### 事業の一覧

#### 健保組合の取組

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定健康診査事業	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	ジェネリック利用促進の通知
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	健康保険パンフレットの配布
保健指導宣伝	ホームページでの情報発信
保健指導宣伝	健康情報の提供（ポピュレーション・アプローチ）
疾病予防	受診勧奨通知（中・高リスク）
疾病予防	ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
疾病予防	人間ドック
疾病予防	PET/CT（被保険者）
疾病予防	電話健康相談
疾病予防	インフルエンザ予防接種
疾病予防	救急医薬品の送付
体育奨励	体育奨励
直営保養所	保養所利用補助

#### 事業主の取組

1	定期健康診断
2	健康診断事後措置に伴う指導
3	ストレスチェック
4	メンタルヘルス研修

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
特定健康診査事業	1	特定健診(被保険者)	【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため 【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。(事業所が主体で実施)	被保険者	全て	男女	40～74	全員	899	対象者 2,447名 受診者 2,299名 受診率 94%	-	健診後、治療が必要な従業員がいた場合のフォロー体制が整っていない事業所がある。	4
	1	特定健診(被扶養者)	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】対象者に受診券を送付し、各自で健診機関に予約して受診。	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	3,423	対象者 1,236名 受診者 499名 受診率 40.4%	・受診券送付後、一定期間受診のなかった方に対して受診勧奨のハガキを送付。 ・パート先等で健診を受診した場合、健診結果を送ってくれた人に対して粗品を贈呈。 ・事業主にも広報資料を配布して協力の呼びかけ。	24年度は47.2%まで上昇した受診率が低下。低下の原因は現段階では特定できていない。 特定健診受診の必要性を地道に訴えていくことが必要。	1
	1	生活習慣病健診(35歳以上の被保険者)	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP(間接)、眼底検査(医師の指示があった場合)の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。	被保険者	全て	男女	35～74	-	1,221	【生活習慣病健診】 対象者 3,330名 受診者 3,306名 受診率 99.2%	一般健康診断と一緒に受診できる。	・事業所によっては勤務体系等により胃部の受診が困難な場合がある。	4
特定保健指導事業	3	特定保健指導	【目的】疾病予防及び健康改善のため 【概要】対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。	被保険者	全て	男女	40～74	基準該当者	185	【動機付け支援】 対象者 380名 実施者数 9名 実施率 2.4% 【積極的支援】 対象者数 398名 実施者数 6名 実施率 1.5%	-	26年度は特定保健指導を実施していない。 27年度は対象の事業所を絞って実施する。	1
保健指導宣伝	4	機関誌発行	【目的】情報発信、健康意識の向上 【概要】機関誌の発行(内容:健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等)	被保険者被扶養者	全て	男女	18～74	全員	1,964	機関誌発行 年3回 全社員に会社経由で発行	タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業の周知や医療費適正化に役立っている。	・自宅へ持ち帰らない社員がおり、被扶養者の元へ渡らない。 ・広報誌が加入者にどのように受け止められているのかわからない。	3
	7	ジェネリック利用促進の通知	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進 【概要】薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	基準該当者	19	平成27年7月実施 通知人数 432名 切替者31名(レセプト出現者の24.8%)	・対象者の自宅宛に直接送付。 ・通知文書に「ジェネリックお願いシール」を同封し、診察券や保険証に貼ってもらうよう促した。 ・保険証発行の都度、お願いシールを同封。	若年層のジェネリック使用率が低い。 25年度までは18歳以上を対象に利用促進通知を送付していたが、26年度からは18歳未満も対象とした。	3
	4	医療費通知	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	351	3,500通×年4回発行=14,000通	医療費通知を見た被保険者からの連絡で、医療機関からの不正請求が発覚する事例があった。	事業所を経由して配布しているため、加入者の多い事業所は配布に時間がかかる。その結果、加入者にとっては数か月前の医療費情報が届くことになり、タイムラグが大きくなってしまふ。	5
	4	健康保険パンフレットの配布	【目的】健康保険の理解促進 【概要】健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	12	配布者 297名	-	制度変更などにより冊子の内容が古くなっている。(ホームページを見るように案内している)	5
	4	ホームページでの情報発信	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。	被保険者被扶養者	全て	男女	0～74	全員	394	インターネットにて公開中	・加入者から募集した写真を毎月トップページに掲載したり、機関誌に掲載したクイズの回答をホームページに掲載することなどでアクセス数の向上を図る。 ・タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業等の広報につながっている。	ホームページの知名度が低い。	3

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	2	健康情報の提供(ポピュレーション・アプローチ)	【目的】健康意識をの向上 【概要】健診の検査項目が一定基準(低リスク)の該当者に対し、情報提供用紙を送付する事業であったが、H28年度より、ICTを活用した健康Webを開設し、全被保険者に対し、健診結果(経年)、健康リスク、改善対策、健康年齢(健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標)、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等の健康情報を提供し、ヘルスリテラシー向上を図る。	被保険者	一部の事業所	男女	18~74	基準該当者	1,600	対象者数 0名	健診結果を経年でグラフ化。健康リスク度をポイント化して掲載するなど、わかりやすい内容にして送付。	数値としての効果(結果)が見えにくいので、評価が難しい。	4
疾病予防	2	受診勧奨通知(中・高リスク)	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療 【概要】検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付(事業所経由または直接自宅に送付)	被保険者	一部の事業所	男女	18~74	基準該当者	10	対象者 9名 受診者 1名 受診率 11.1%	健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。同封した受診状況アンケートの回答から、現在の受診状況や未受診の理由等の状況を把握できた。	受診をするものの、医者から「問題ない」「経過観察」となったケースが多くあった。来年度からは基準値を見直す必要がある。	4
	7	ウォーキングイベント(ポピュレーション・アプローチ)	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、新たな事業を開始する。被保険者を対象にウォーキングイベントを開催する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。事業運営には新たにICTを活用する。結果として、健康リスクが減少することを期待する。	被保険者	全て	男女	18~65	全員	8,880	H28年度9月より開始。	実績なし。	実績なし。	1
	1	人間ドック	【目的】病気の早期発見及び予防 【概要】費用の一部を補助(35歳以上が対象) 上限:被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円	被保険者 被扶養者	全て	男女	35~74	全員	3,302	対象者数 5,013名 受診者数 141名 受診率 2.8%	リピーターが多い。	・受診率が低く、新規受診者が少ない。 ・人間ドック補助金の認知度が低い。	1
	1	PET/CT(被保険者)	【目的】病気の早期発見と予防 【概要】費用の一部補助(35歳以上の被保険者が対象) 上限:40,000円	被保険者	全て	男女	35~74	全員	400	対象者数 3,221名 受診者数 10名 利用率 0.3%	-	・受診率が低い。 ・PET/CTそのものや、補助金の認知度が低い。	1
	5	電話健康相談	【目的】こころと体の健康維持 【概要】健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付	被保険者 被扶養者	全て	男女	0~74	全員	1,139	からだの相談件数 70件 こころの相談件数 11件	広報誌やホームページ等で相談窓口の広報をした。	・広報がワンパターン化しており、利用率も低い状況。 ・今後は利用案内のチラシを配布するなどをして広報を強化する。	3
	7	インフルエンザ予防接種	【目的】インフルエンザの予防 【概要】インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。	被保険者	全て	男女	18~74	全員	8,611	被保険者数 4,221名 接種者 2,931名 利用率 69%	人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。	インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとわからない。	4
	7	救急医薬品の送付	【目的】病気、ケガの応急処置 【概要】健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を送付	被保険者	全て	男女	18~74	全員	615	配布者 185名	-	-	5
	体育奨励 直営保養所	7	体育奨励	【目的】従業員の体力づくり 【概要】会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助(年1回/一人当たり2,000円)	被保険者	全て	男女	18~74	全員	319	対象者 4,090名 実施者 239名 利用率 5.8%	従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流にもなっている。	運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。
7		保養所利用補助	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。	被保険者 被扶養者	全て	男女	6~74	全員	3,389	対象者(小学生以上) 9,557名 利用者 973名 利用率10.2%	全国すべての宿泊施設が対象となる。リピーターが多い。	パッケージツアーは対象外となるため、補助金の対象とならないケースが多く、利用率が低い。	3



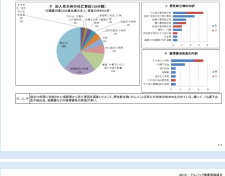
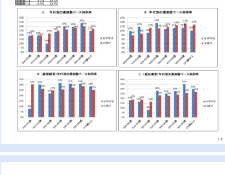

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	安衛法に基づく健診	被保険者	男女	18 ～ 74	実施率 94%	勤務時間中の受診可	-	有
健康診断事後措置に伴う指導	健康診断の結果から治療が必要な従業員に対して、生活習慣の指導および治療状況を確認。産業医、または保健師がいない事業所に対しては健保が実施している。	被保険者	男女	18 ～ 74	対象者数 ～ 実施者数 実施率	健診受診後、産業医または保健師（看護師）から直接または通知等により受診勧奨を行っている。重症化予防の観点から、就業制限を考慮して行っている。	-	有
ストレスチェック	労働者自身のストレスの状況についての気づきを促し、ストレスの状況を早期に把握して必要な措置を講じることにより、労働者がメンタルヘルス不調となることを未然防止する。	被保険者	男女	18 ～ 74	健康診断とセットでWEB上で受診。受診率は99.2%。	健康診断とセットで受診するため、受診率が高い。回答者の記憶が確かな内に、回答後2日以内にコンタクトした。	誤回答が時々あり、質問の改善が必要。	無
メンタルヘルス研修	一般職と管理職向けにメンタルヘルス研修を実施。	被保険者	男女	18 ～ 74	全社員（一般職と管理職）を対象にメンタルヘルス研修を実施。モチベーションマネジメント研修（年2回。165人）、脳の活性化を考慮した体力測定（年2回）、部署単位の組織活性化研修（年9部署）。	安全衛生委員会で周知。社内安全表彰の加点対象項目とした。	希望者を対象に行っているが、今のところ満足のいく実施状況。モチベーション向上の評価はアンケートでしか測れていない。	無

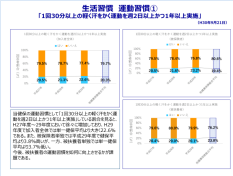
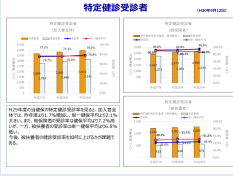
# STEP1-3 基本分析

## 登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		平成24～25年度 (ICD10大分類) 一人当たり医療費	医療費・患者数分析	-
イ		平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数	医療費・患者数分析	-
ウ		平成25年度 健康マップ	健康リスク分析	-
エ		過去10年間における加入者の死亡要因	医療費・患者数分析	-
オ		平成25年度 ジェネリック医薬品の利用状況	後発医薬品分析	-
カ		加入者年齢分布	加入者構成の分析	当健保の加入者全体の年齢分布は、40～49歳にピークがあり、3年間変わっていないが、経年では30～39歳が減少し、50～59歳が増加しており、高齢化の傾向が見られる。

キ	 <p>総医療費</p> <p>医療費</p>	医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当健保のH29年度の総医療費は昨年度から横ばいとなった。この理由としては、被保険者の医療費は12百万円(3.6%)増加したが、一方、被扶養者の医療費は22百万円(2.9%)減少したことが考えられる。被扶養者の医療費が減少した理由の一つは、被扶養者の加入者人数が減少(1.3%)したことが上げられる。</li> <li>・当健保のH29年度の全加入者1人当たり医療費は2,701円減少(2.0%)減少した。傾向は被保険者、被扶養者共に変わらない。また、他健保平均と比較しても低い値となっている。アルバック全体の年齢構成が、年々高齢側にシフトしていることを考慮すると、この傾向はよい方向に推移していると評価できる。</li> <li>・当健保の医療費割合は、他健保と比較してほぼ同様の傾向である。生活習慣病起因の疾病は全体の約1/4を占めている。また、がん関連疾病は9.2%であった。生活習慣の改善により、これらを減少させることが重要である。その他疾患については、63.1%を占めているが、この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善により減少が期待できる。</li> <li>・疾病別医療費のうち、「その他疾患」が全体の63.1%を占めているが、ここにその内訳を示す。この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善によりこれらの減少が期待できる。</li> <li>・アルバックの生活習慣病別医療費は、ほとんどのものが前年度よりやや減少傾向にある。また、ワースト3である高血圧性疾患、脂質異常症、糖尿病はいずれも健保平均よりは低い。一方で、腎不全、虚血性心疾患、動脈硬化/動脈閉塞、肝疾患は健保平均より高い。このうち、腎不全についてはここ数年で徐々に減少しつつある。</li> <li>・当健保における加入者全体の総医療費のピークは40～59歳で、9歳以下がそれに続く。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。特に、50～59歳の医療費は、H27年から16.4%増加している。この年齢層の傾向は、被保険者、被扶養者共同様である。</li> <li>・当健保における加入者全体の1人当たり医療費は、9歳以下を除き、年代と共に増加傾向にある。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。また、60歳以上については、昨年度より減少している。</li> <li>・ICD10大分類別にアルバックの一人当たり医療費を見ると、ほとんどの疾患が健保平均より少なく、昨年度よりやや減少した。疾患別医療費の全体的な傾向は、健保平均とほぼ同様であるが、ワーストワンは、健保平均では消化器系疾患であるのに対し、当健保では呼吸器系疾患である。</li> </ul>
ク	 <p>健康リスク者分布</p> <p>健康リスク者分布</p>	健康リスク者分布	健康リスク分析	<p>当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常者の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者が少ない。この傾向は、被保険者についても同様である。今後、さらに正常者の割合を増加させていきたい。</p>



ケ		生活習慣	健康リスク分析	<p>・当健保の運動習慣として「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」している割合を見ると、H27年度～29年度において徐々に増加しており、H29年度で加入者全体では単一健保平均より大きく22.6%である。また、被保険者単独では平成29年度で健保平均より3.8%高いが、一方、被扶養者単独では単一健保平均より3.7%低い。</p> <p>今後、被扶養者の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。</p> <p>・当健保の運動習慣として「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」している割合を見ると、H27年度～29年度において徐々に増加しており、平成29年度で加入者全体では単一健保平均より多く35.0%である。また、被保険者単独ではH29年度で健保平均より5.9%高いが、一方、被扶養者単独では年々やや減少傾向にあり、単一健保平均より8.2%低い34.8%まで減少した。今後、被扶養者の日常生活における運動習慣を如何に向上させるかが課題である。</p> <p>・当健保の生活習慣として「現在、たばこを習慣的に吸っている」者の割合は、H29年度で加入者全体では単一健保平均より5.0%多く30.1%である。被保険者単独でも健保平均より5.3%高い。</p> <p>今後、被保険者の喫煙習慣を如何に減らすことができるかが課題である。</p>
コ		特定健診受診	特定健診分析	<p>H29年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より1.7%増加し、単一健保平均より2.1%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より7.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.8%低い。</p> <p>今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。</p>

<p>サ</p>		<p>特定保健指導対象者・終了者</p>	<p>特定保健指導分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、H29年度は健保平均を0.4%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合は1.2%増加した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。</li> <li>・当健保の特定保健指導対象者を積極的支援者と動機づけ支援者の内訳でみると、約60%が積極的支援者である。推移をみると、加入者全体では、積極的支援者の割合が減少し、動機づけ支援者の割合が増加している。また、被保険者の積極的支援者の割合は健保平均よりやや高く、被扶養者の積極的支援者の割合は逆に健保平均より低い。</li> <li>・当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、平成29年度で57.7%となった。被扶養者については、現在のところ支援終了には至っていないが、数名は継続支援中である。</li> <li>この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れた。</li> <li>・当健保の特定保健指導終了者割合を支援別にみると、積極的支援者の方が動機づけ支援者よりやや大きい。これは、支援プログラムにおける継続支援の回数が積極的支援の場合が多いことが原因していると推測される。</li> <li>・当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血圧値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(1.3%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(4.1%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。</li> <li>・当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血糖値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(1.4%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(2.7%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者も同様であるが、被扶養者は対象者の増加が大きい。</li> <li>・当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、脂質値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(0.4%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(5.0%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。</li> <li>・当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、喫煙が特定保健指導の基準に該当した者の割合は、やや減少傾向(0.4%)にあるが、逆に、非喫煙者は増加(0.4%)しており、良い傾向といえる。被保険者単独でみると0.4%増加した。</li> <li>今後、何らかの禁煙対策の検討が必要と考える。</li> </ul>
<p>シ</p>		<p>生活習慣病健診実施率</p>	<p>その他</p>	<p>当健保の35～39歳の被保険者を対象とした生活習慣病健診は、平成28年度以降で90%以上を維持している。これは、全被保険者を対象として、健康Webに経年の健診結果を掲載するために結果を積極的に回収したことによるものと推測される。他健保平均と比較しても十分な実施率と評価できる。これにより、40歳以上になった後の健康増進に良い影響を及ぼすと考える。</p>



ス



### インフルエンザ予防接種

### その他

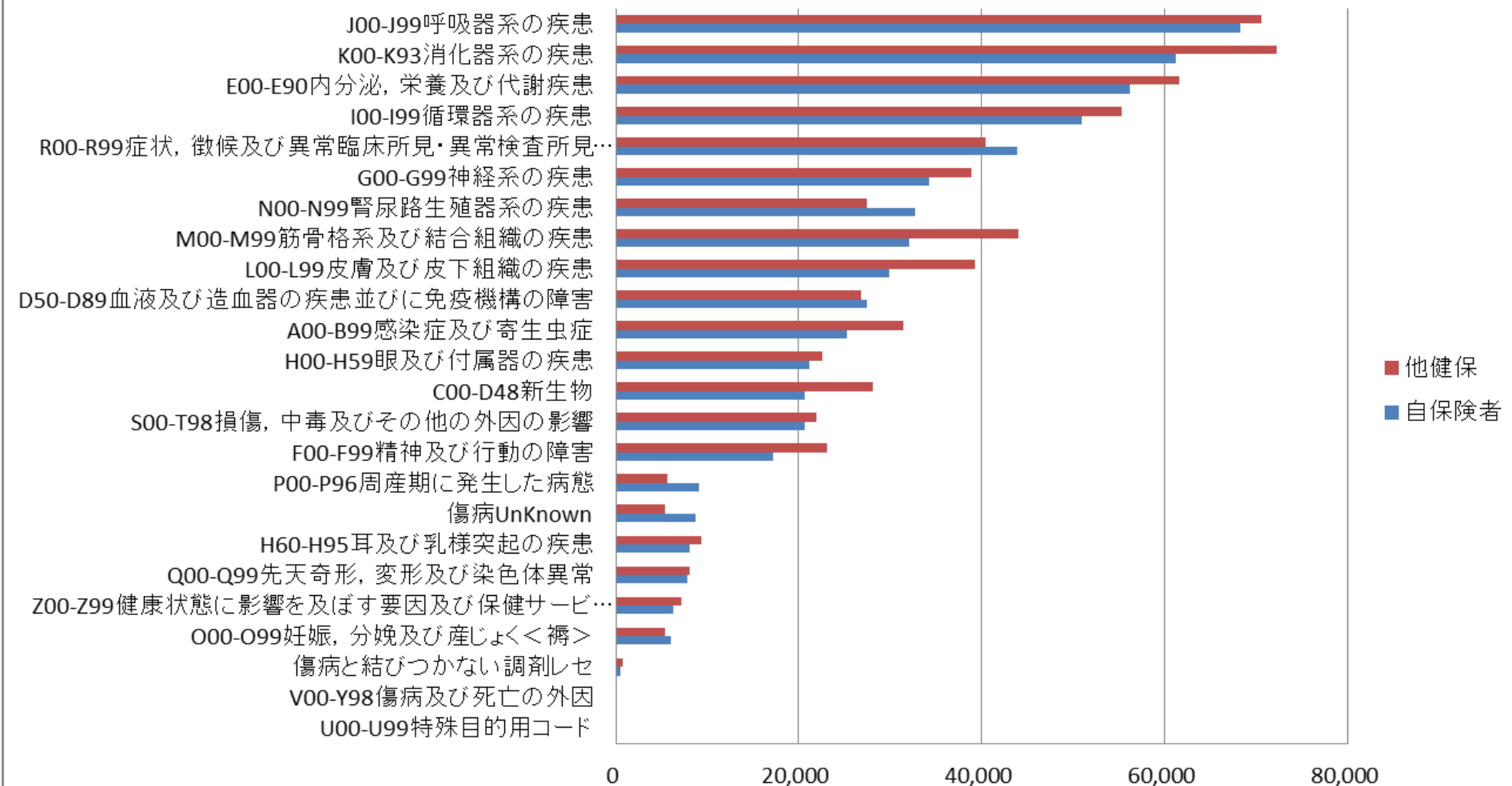
・被保険者のインフルエンザ予防接種率は平成29年度に減少し、インフルエンザ罹患率は増加した。この傾向はH28年度と逆であり、この結果からはインフルエンザ予防接種の罹患予防効果についてまだ確認できない。

・インフルエンザ罹患率は年々増加傾向にある。H29年度は、加入者全体の罹患率は他健保平均より1.4%大きい。被保険者は他健保平均より1.3%小さく、被扶養者は他健保平均より2.4%大きい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を大きくしている。

今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。

## STEP 1 - 3 平成24～25年度 (ICD10大分類) 一人当たり医療費

ア 一人当たり医療費(ICD10大分類)※歯科は除く

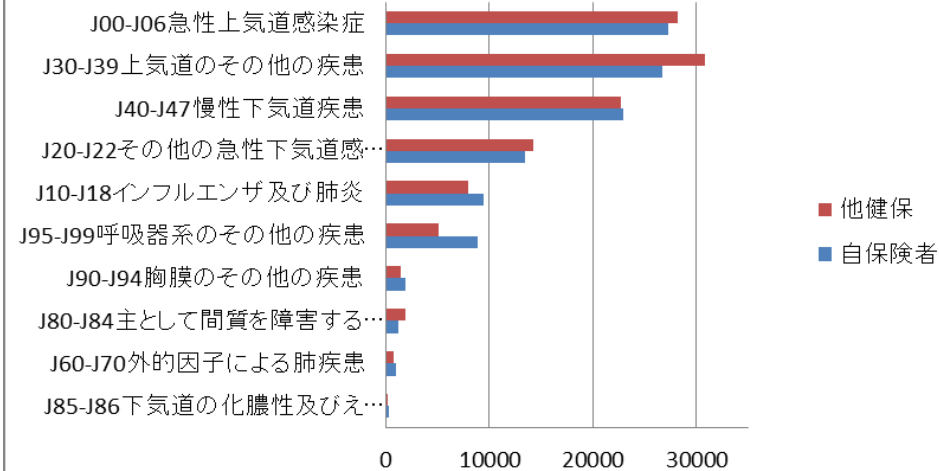


ア

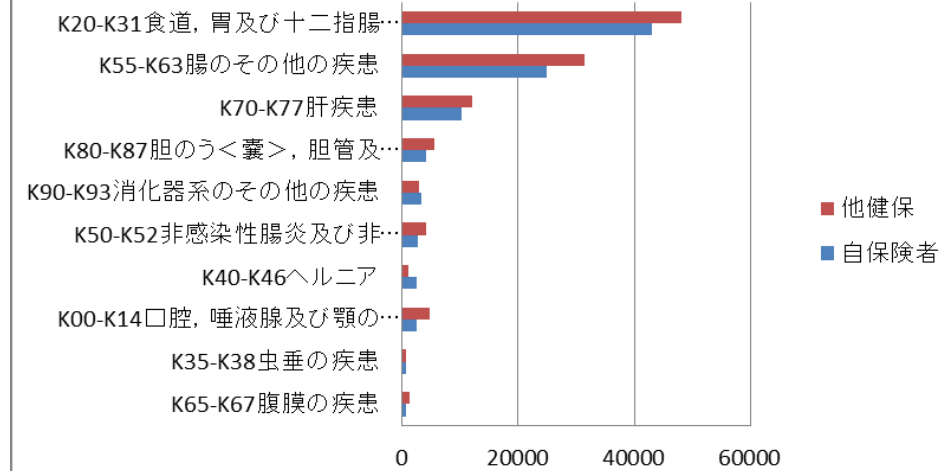
歯科を除いた一人当たり医療費では、「呼吸器系の疾患」「消化器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」の順となっていた。また、「腎尿路生殖器系の疾患」「周産期に発生した病態」が他の健康保険組合より高い。

## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数

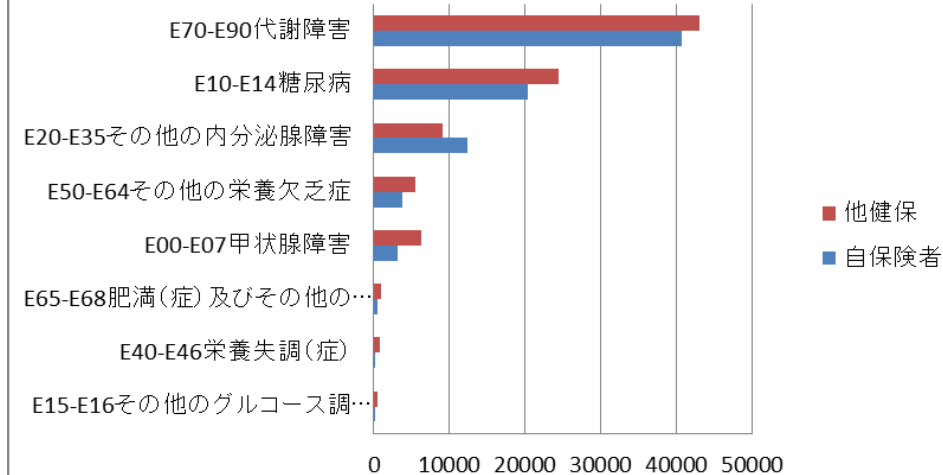
イ J00-J99呼吸器系の疾患(ICD10中分類)



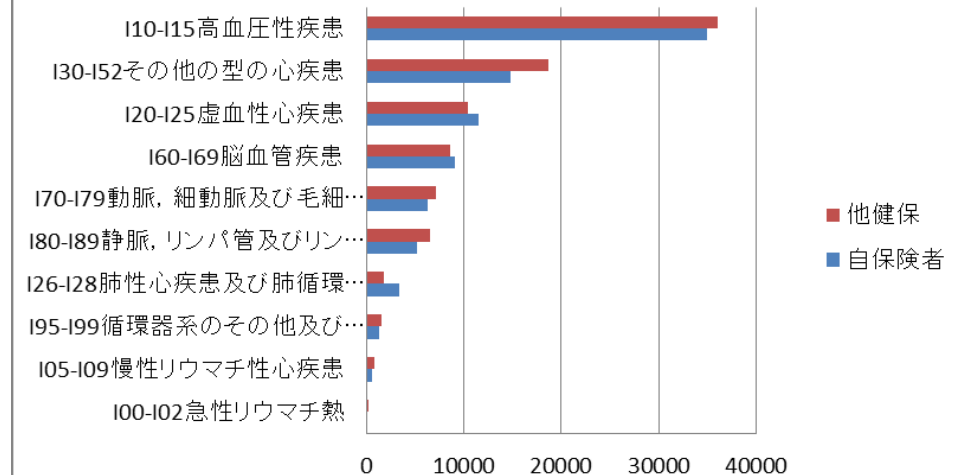
ウ K00-K93消化器系の疾患(ICD10中分類)



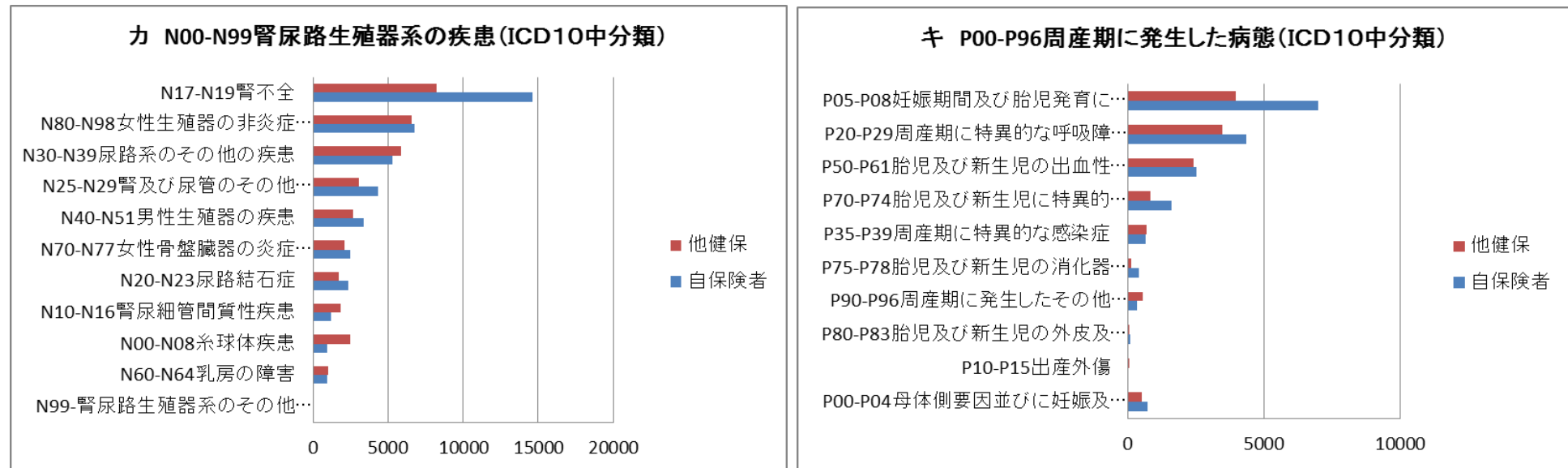
エ E00-E90内分泌, 栄養及び代謝疾患(ICD10中分類)



オ I00-I99循環器系の疾患(ICD10中分類)

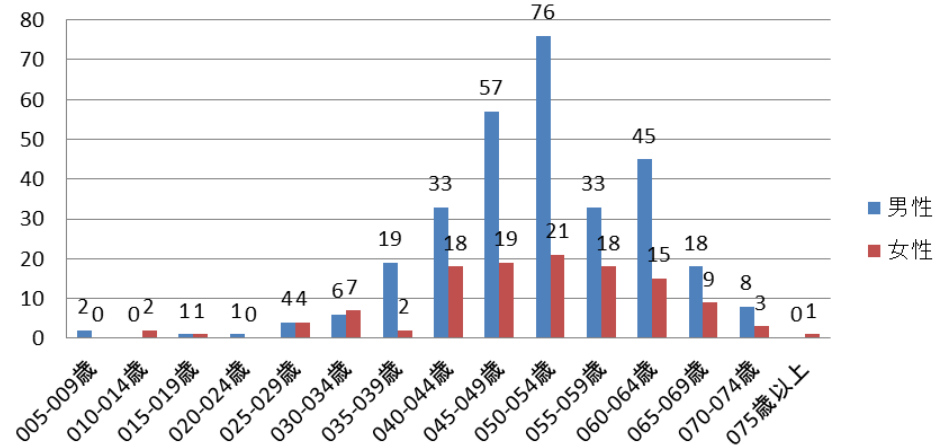
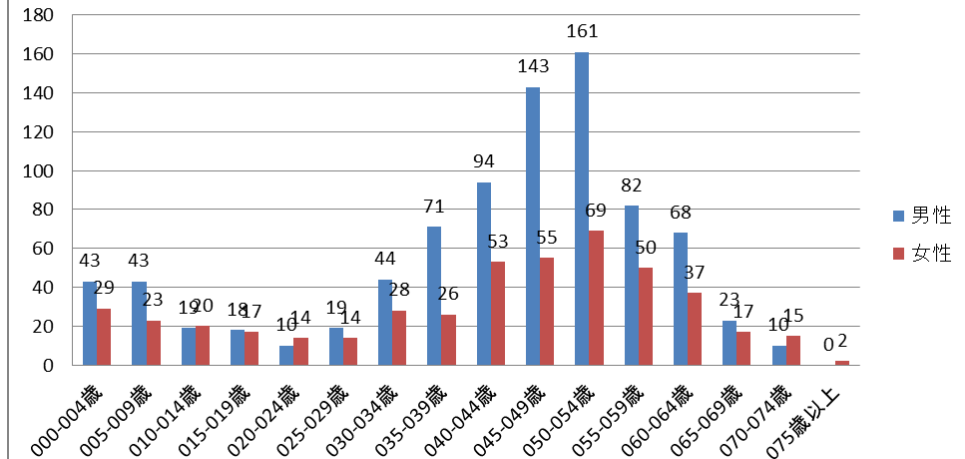
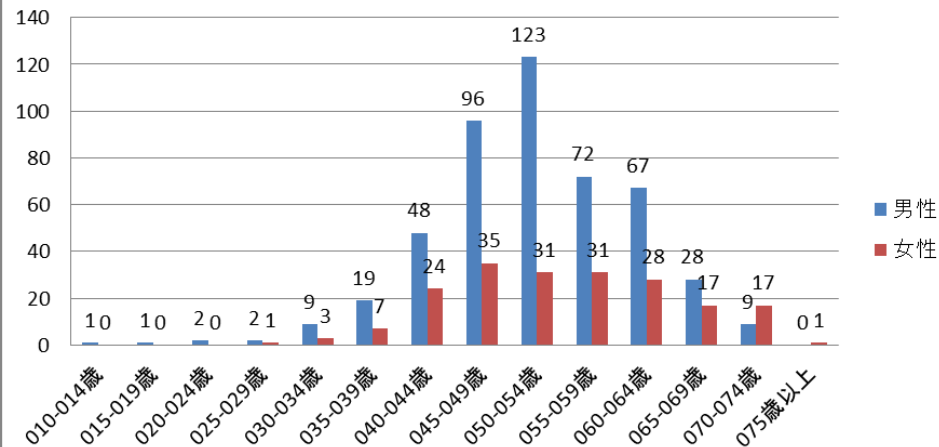
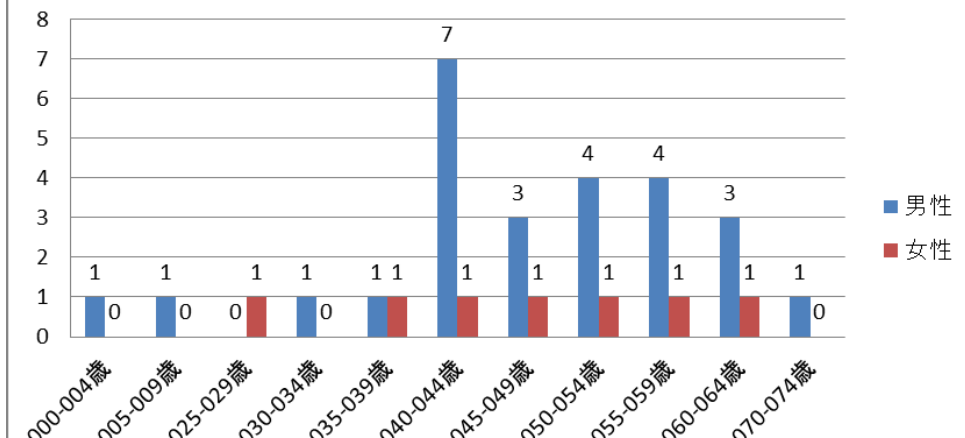


## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数



イ～オ	上位の疾病をさらに詳しく調べると、イ「呼吸器系の疾患」では、風邪やインフルエンザ等の疾患が上位になっている。ウ「消化器系の疾患」では、食道や胃炎等の疾患が上位に。エ「内分泌、栄養及び代謝疾患」とオ「循環器系の疾患」では、脂質異常、糖尿病、高血圧性疾患などの生活習慣病が上位になっている。
カ、キ	他健保より医療費の高かった「腎尿路生殖器系の疾患」の中でも、特に「腎不全」の医療費が高い。周産期に発生した病態は全体的に他健保の平均を上回っている。

## STEP 1 - 4 平成24～25年 (ICD10中分類) 一人当たり医療費と実患者数

(A) H25年度 年齢別・男女別の  
糖尿病の実患者数(B) H25年度 年齢別・男女別の  
代謝障害の実患者数(C) H25年度 年齢別・男女別の  
高血圧の実患者数(D) H25年度 年齢別・男女別の  
腎不全の実患者数

A~D

生活習慣病の男女別の実患者数をみると、総じて男性の患者数が多いことがわかる。糖尿病、高血圧では30代後半から患者数が増加傾向にあり、代謝障害では30代前半から患者数が多くなっている。腎不全に関しては、40代以降の患者数が多い。

## STEP 1 - 5 平成25年度 健康マップ

ク

健康マップ(生活習慣病からみた分布)

期間: 201304~201403

対象年齢: 40~60歳

事業所: 自健保 標準母集団 健保全体

未通院(生活習慣病のレセプトが無い人)				通院/入院(生活習慣病のレセプトがある人)			
正常	不健康な生活	患者予備群	治療放置群	生活習慣病	重症化	生活機能の低下	再発予備群
正常値レベル	保健指導が必要なレベル	病院で診察を受けたほうが良いレベル	治療する必要があるレベル	合併症はない	合併症に進行しています	重篤な状態になっています	入院後の状態です
血糖: 110mg/dl未満又は HbA1c5.6%未満	血糖: 110mg/dl以上又は HbA1c5.6%以上	血糖: 126mg/dl以上又は HbA1c6.5%以上	血糖: 140mg/dl以上又は HbA1c7.0%以上	2型糖尿病・高血圧症・ 脂質異常症のいずれか があり、合併症はない 状態	生活習慣病があり、糖 尿病性合併症・脳血管 疾患・動脈疾患・虚血性 心疾患がある状態	入院を伴う四肢切断急 性期・冠動脈疾患急性 期・脳卒中急性期、およ び透析期の状態	「生活機能の低下」の該 当が1年前にあったが、 当該年度は入院はない 状態
血圧: 85/130mmHg未満	血圧: 85又は130mmHg以上	血圧: 90又は140mmHg以上	血圧: 100又は160mmHg以上				
中性脂肪: 150mg/dl未満 又はLDL:120未満 又はHDL:40以上	中性脂肪: 150mg/dl以上 又はLDL:120以上 又はHDL:40未満	中性脂肪: 300mg/dl以上 又はLDL:140以上 又はHDL:35未満	中性脂肪: 400mg/dl以上 又はLDL:160以上 又はHDL:30未満				

■該当者人数(上段:当期)(下段:前期)

484	615	471	339	618	175	5	7
494	649	454	343	561	170	10	0

●該当者人数の構成割合(%)

17.8	22.7	17.4	12.5	22.8	6.4	0.2	0.3
------	------	------	------	------	-----	-----	-----

●前年度構成割合(%)

18.4	24.2	16.9	12.8	20.9	6.3	0.4	0.0
------	------	------	------	------	-----	-----	-----

●標準母集団(他健保54万人(対象者:39万人))の構成割合(%) [対象者の平均年齢:49歳]

16.8	25.1	15.2	9.2	26.0	7.3	0.2	0.1
------	------	------	-----	------	-----	-----	-----

■該当者の1人当り医療費(平均値)(円)

68,729	85,303	59,597	51,661	199,350	719,816	4,455,580	1,544,045
--------	--------	--------	--------	---------	---------	-----------	-----------

●[上段]該当者の総医療費合計、[下段]会社が負担している費用(千円)

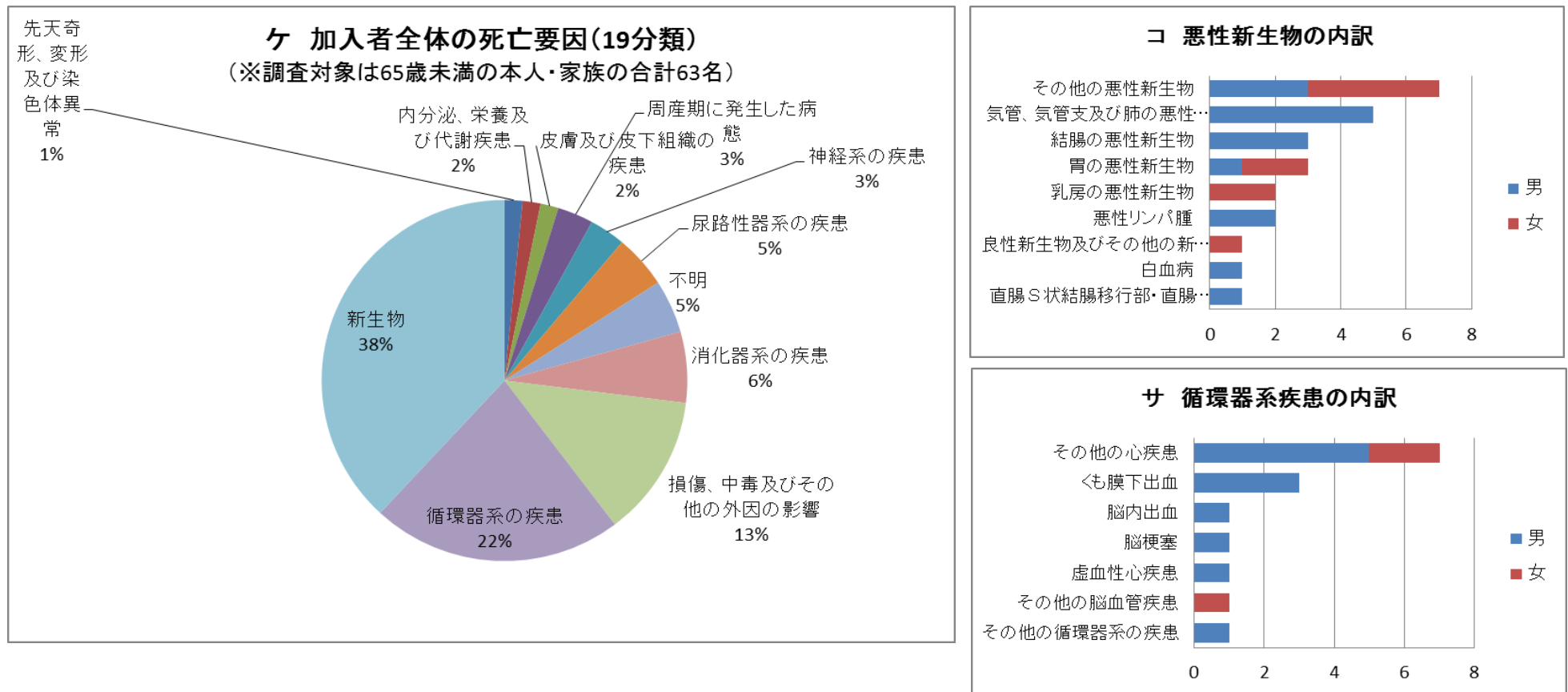
33,264	52,461	28,070	17,513	123,198	125,967	22,277	10,808
--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------	--------

11,642	18,361	9,824	6,129	43,119	44,088	7,797	3,782
--------	--------	-------	-------	--------	--------	-------	-------

ク 健診結果から生活習慣病の治療状況を見ると、治療放置群が339人(全体の12.5%)いる。また、他健保と比較して治療放置群の割合が3.3%高い。



## STEP 1 - 6 過去10年間に於ける加入者の死亡要因



ケ、コ、サ

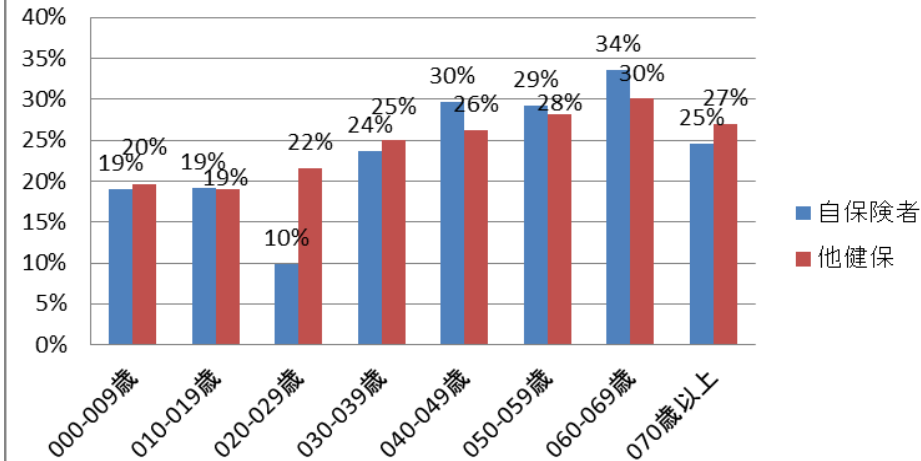
過去10年間に支給された埋葬費から死亡要因を調査したところ、悪性新生物(がん)による死亡が全体の約40%を占めている。続いて、くも膜下出血や脳出血、脳梗塞などの循環器系の疾患が多い。



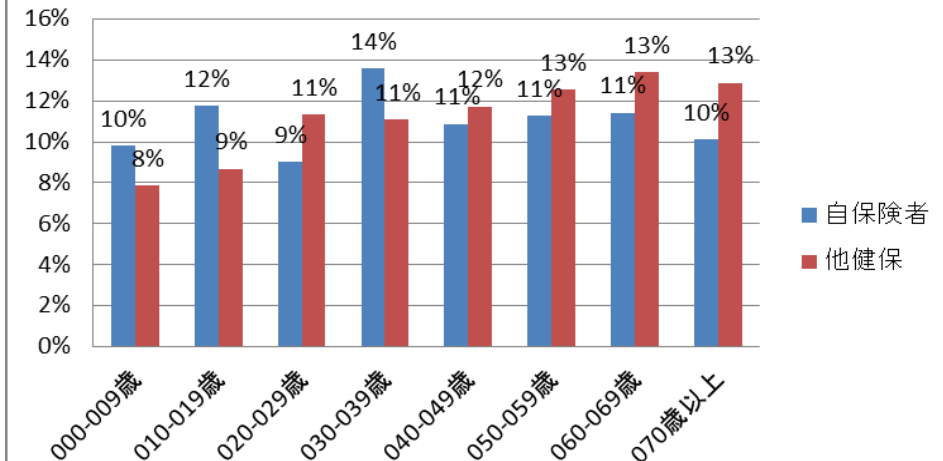
## STEP 1 - 7 平成25年度 ジェネリック医薬品の利用状況

利用率	薬剤費	薬剤数
自健保	9.7%	23.1%
他健保	9.7%	23.7%

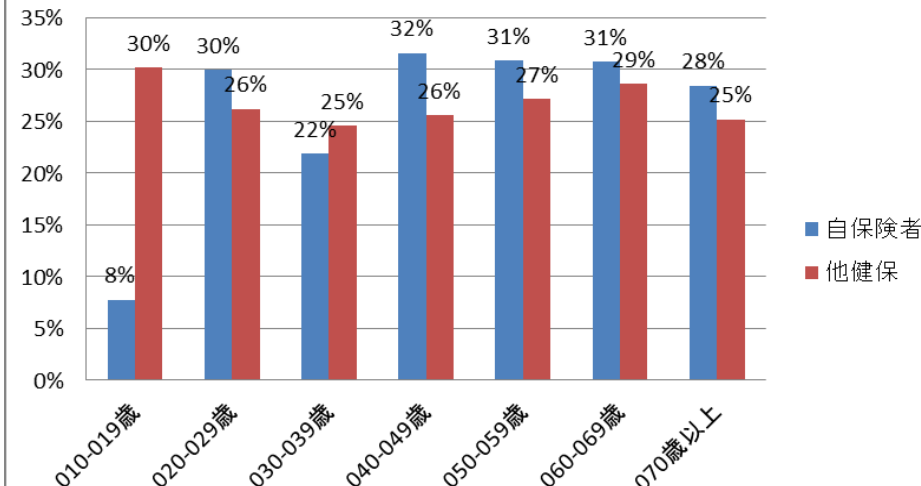
シ 年代別の薬剤数ベース利用率



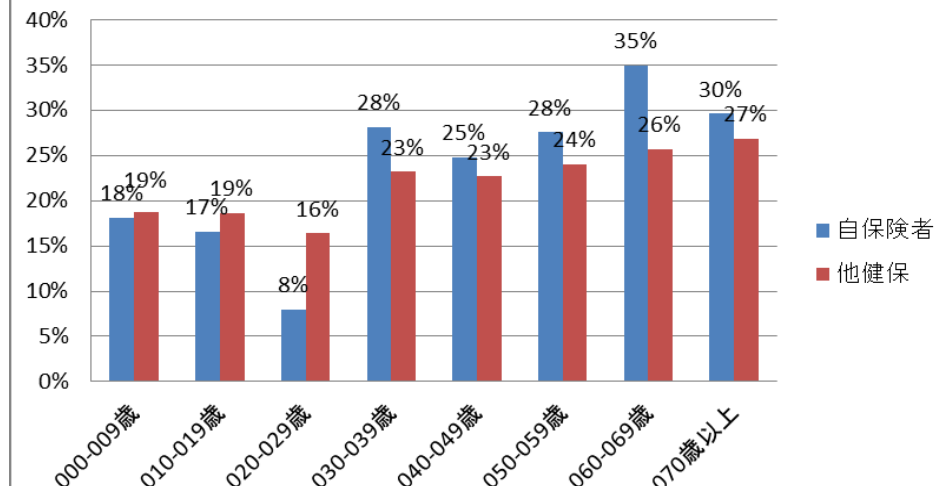
ス 年代別の薬剤費ベース利用率



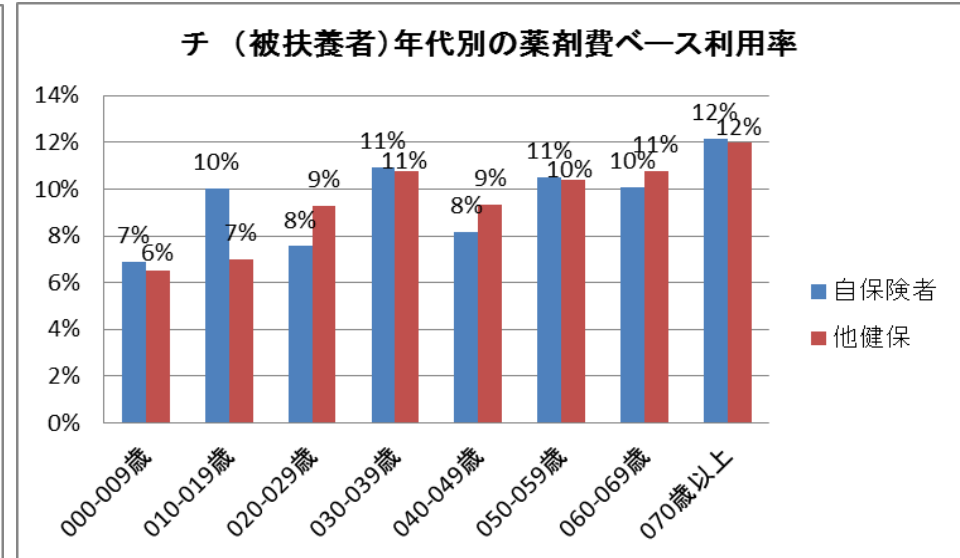
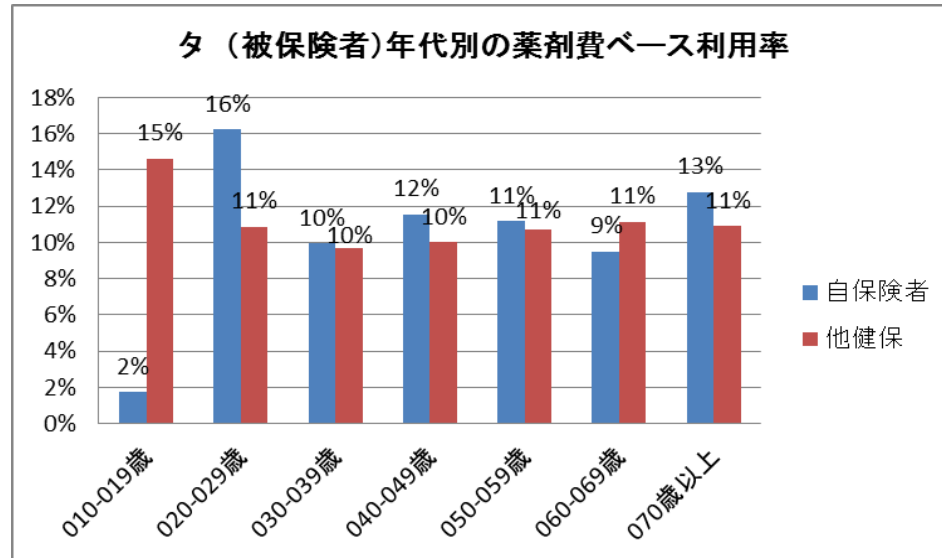
セ (被保険者)年代別の薬剤数ベース利用率



ソ (被扶養者)年代別の薬剤数ベース利用率



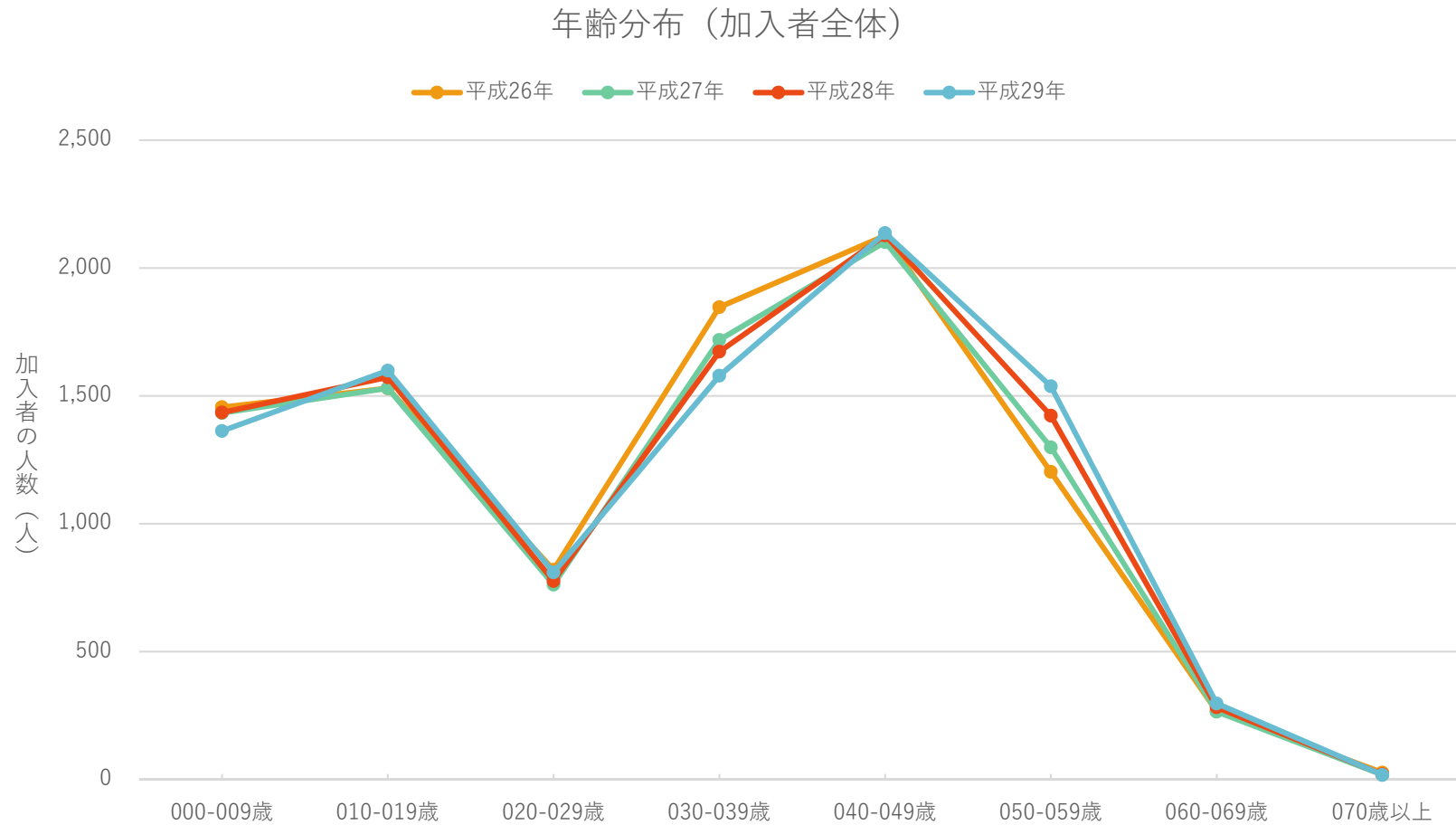
## STEP 1 - 7 平成25年度 ジェネリック医薬品の利用状況



シ、ス	年代ごとのジェネリック利用率は、薬剤数・薬剤費ともに20代の利用率が特に低い。
セ、ソ、 タ、チ	被保険者と被扶養者ごとの薬剤数ベースの利用率では、全体的に被扶養者の利用率が低く、特に20代以下の若年層の利用率が低いことがわかった。

# 加入者の年齢分布（加入者全体）

（H30年9月13日）

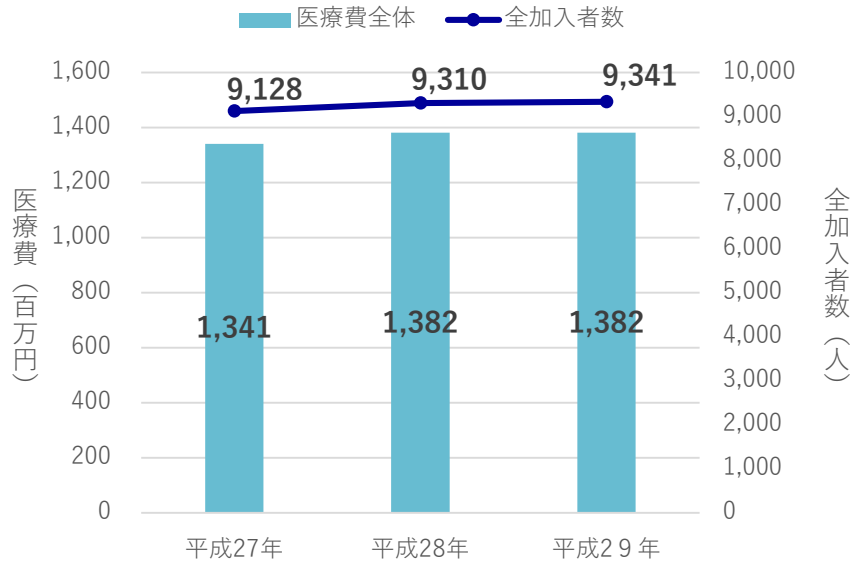


当健保の加入者全体の年齢分布は、40～49歳にピークがあり、3年間変わっていないが、経年では30～39歳が減少し、50～59歳が増加しており、老齢化の傾向が見られる。

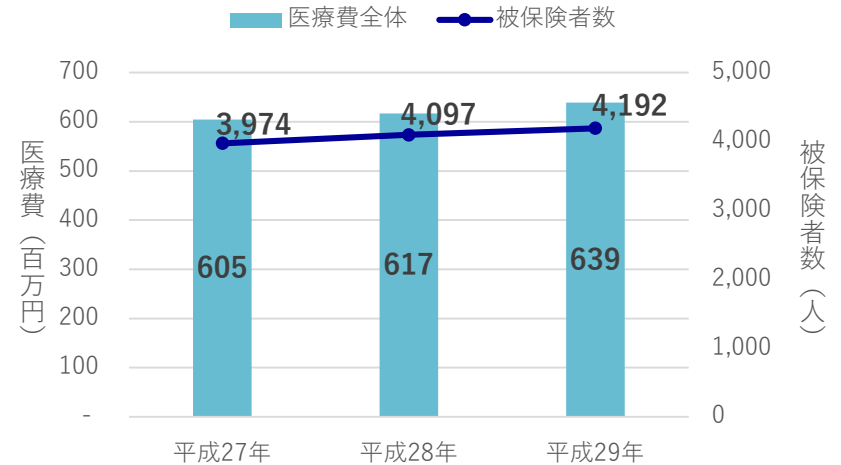
# 総医療費

(H30年9月13日)

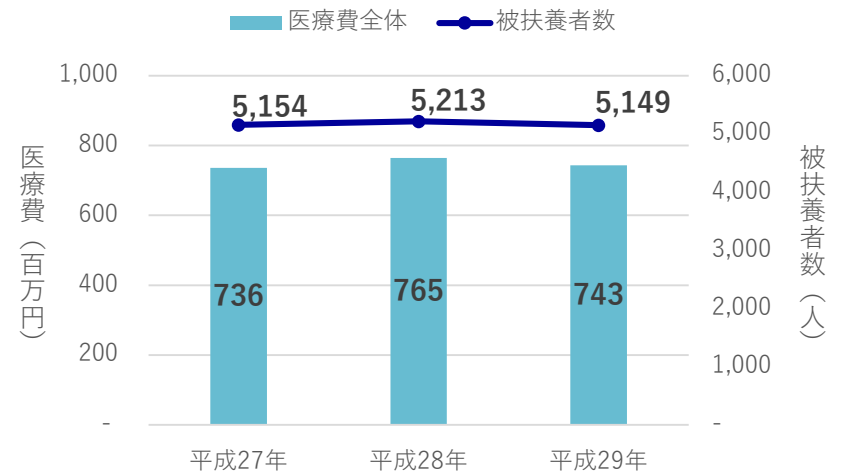
医療費総計（加入者全体）



医療費総計（被保険者）



医療費総計（被扶養者）

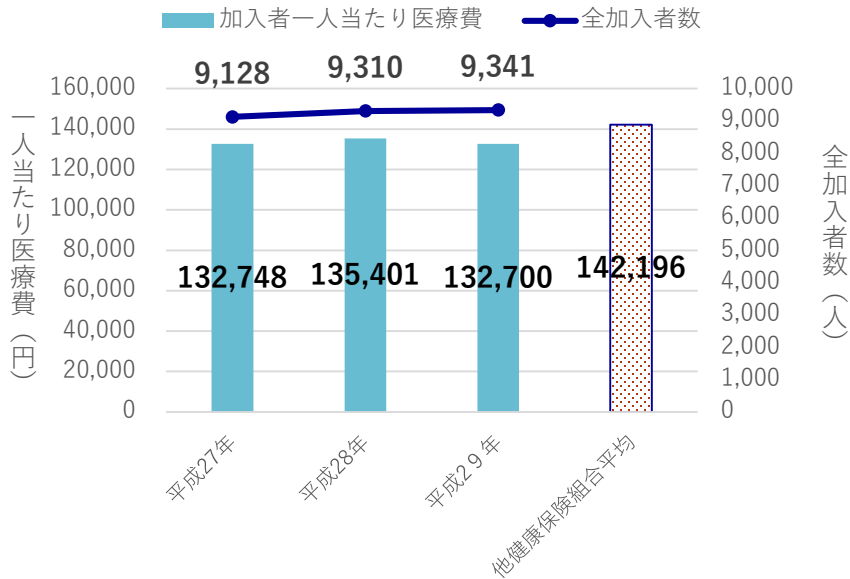


当健保のH29年度の総医療費は昨年度から横ばいとなった。この理由としては、被保険者の医療費は12百万円（3.6%）増加したが、一方、被扶養者の医療費は22百万円（2.9%）減少したことが考えられる。被扶養者の医療費が減少した理由の一つは、被扶養者の加入者人数が減少（1.3%）したことが上げられる。

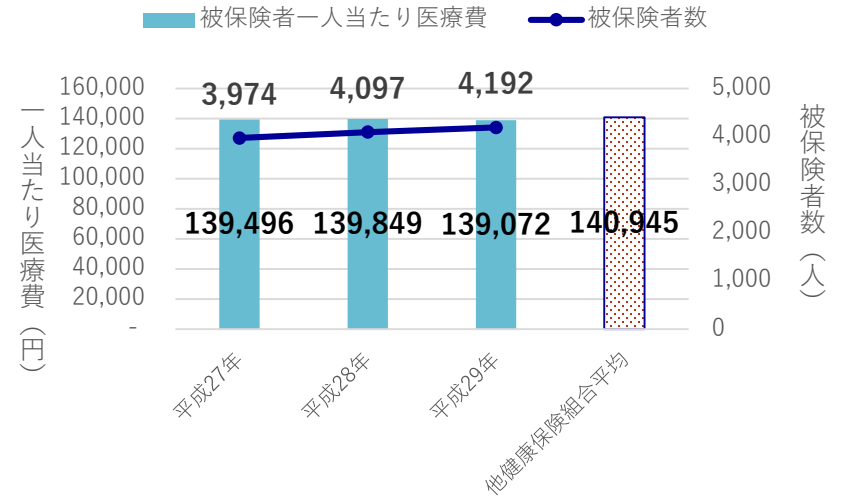
# 1人当たり医療費

(H30年9月13日)

### 加入者全体の一人当たり医療費

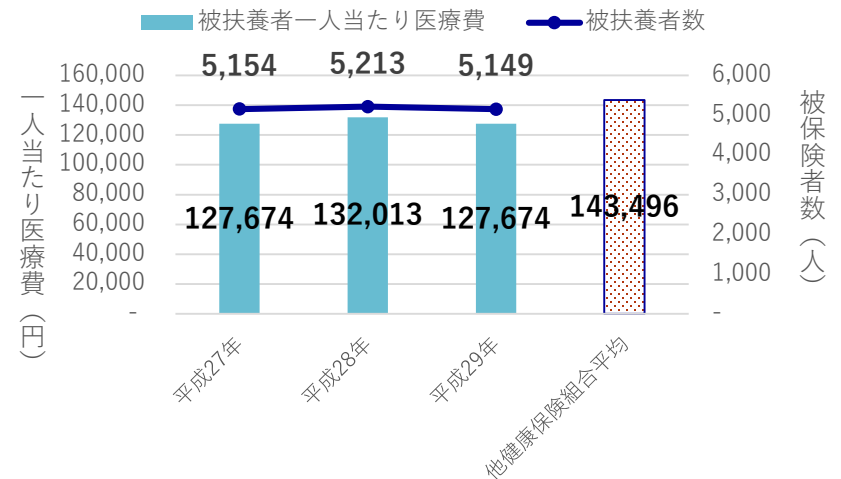


### 被保険者の一人当たり医療費



当健保のH29年度の全加入者1人当たり医療費は2,701円減少（2.0%）減少した。傾向は被保険者、被扶養者共に変わらない。また、他健保平均と比較しても低い値となっている。アルバック全体の年齢構成が、年々高齢側にシフトしていることを考慮すると、この傾向はよい方向に推移していると評価できる。

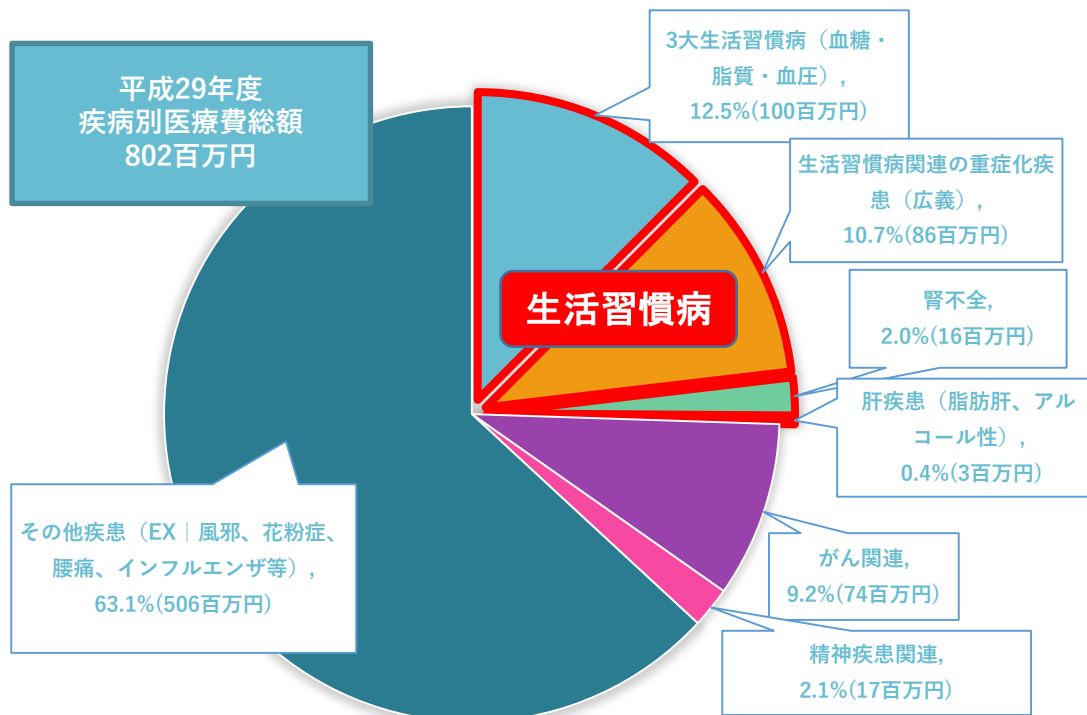
### 被扶養者の一人当たり医療費



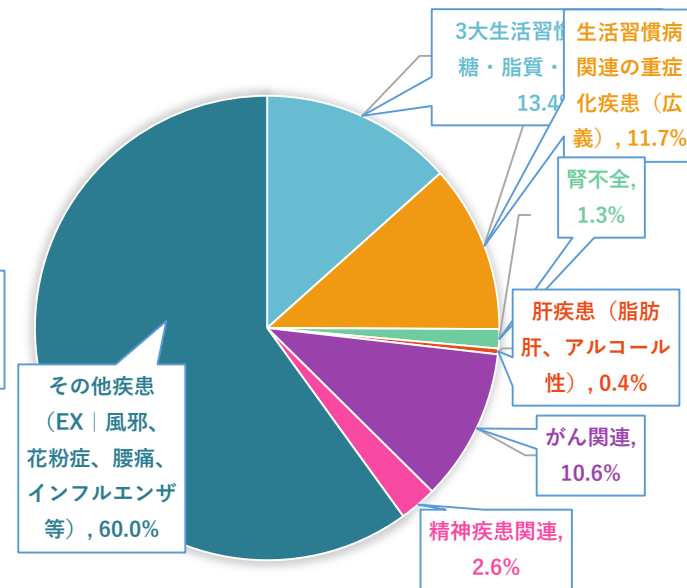
# 疾病別医療費 健保平均との比較

(H30年9月21日)

## 平成29年度 アルバック健康保険組合疾病別医療費



## 平成29年度 他健保疾病別医療費割合

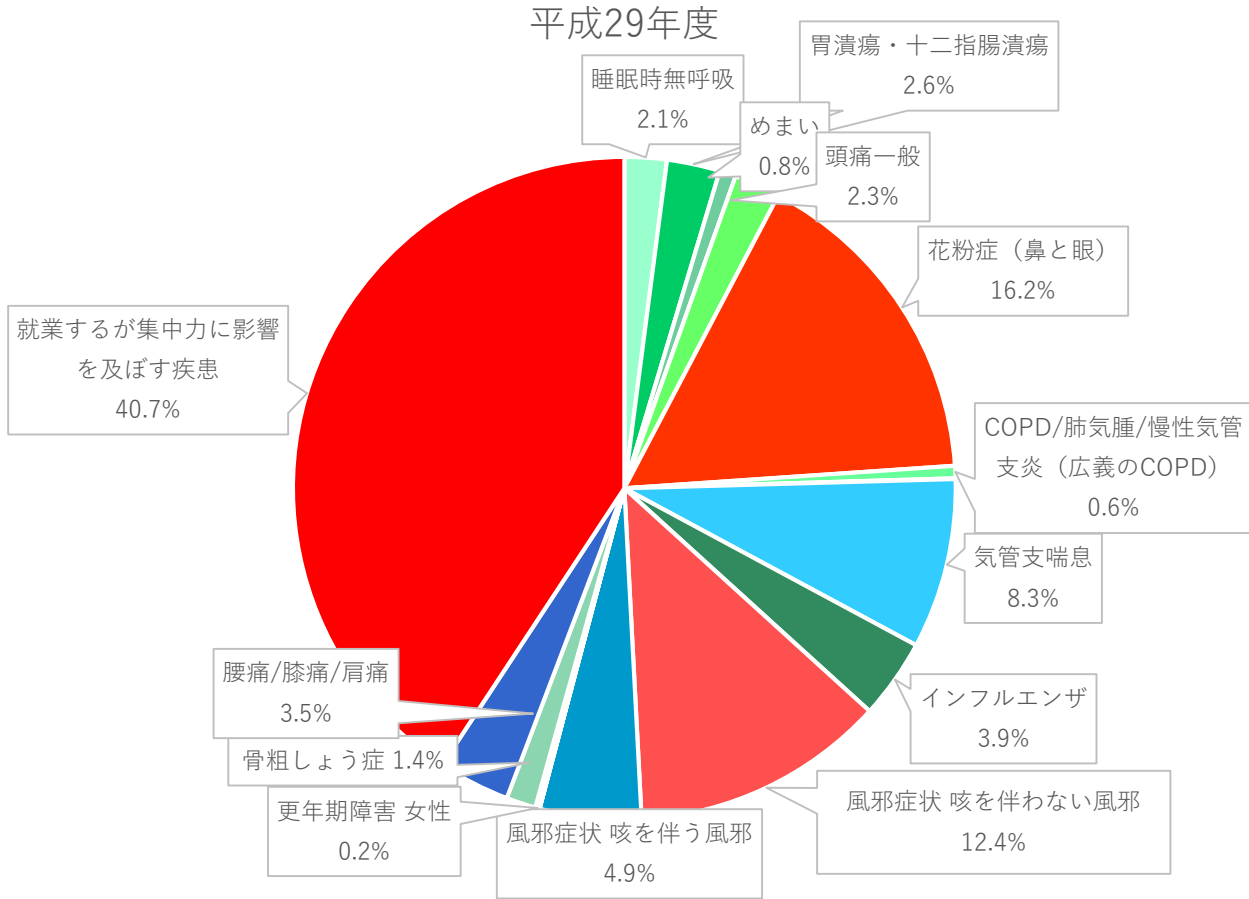


当健保の医療費割合は、他健保と比較してほぼ同様の傾向である。生活習慣病起因の疾病は全体の約1/4を占めている。また、がん関連疾病は9.2%であった。生活習慣の改善により、これらを減少させることが重要である。その他疾患については、63.1%を占めているが、この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善により減少が期待できる。

# (参考) その他疾患 (「疾病別医療費」) の内訳

(H30年9月21日)

平成29年度



(注)

「就業するが集中力に影響を及ぼす疾患」の詳細

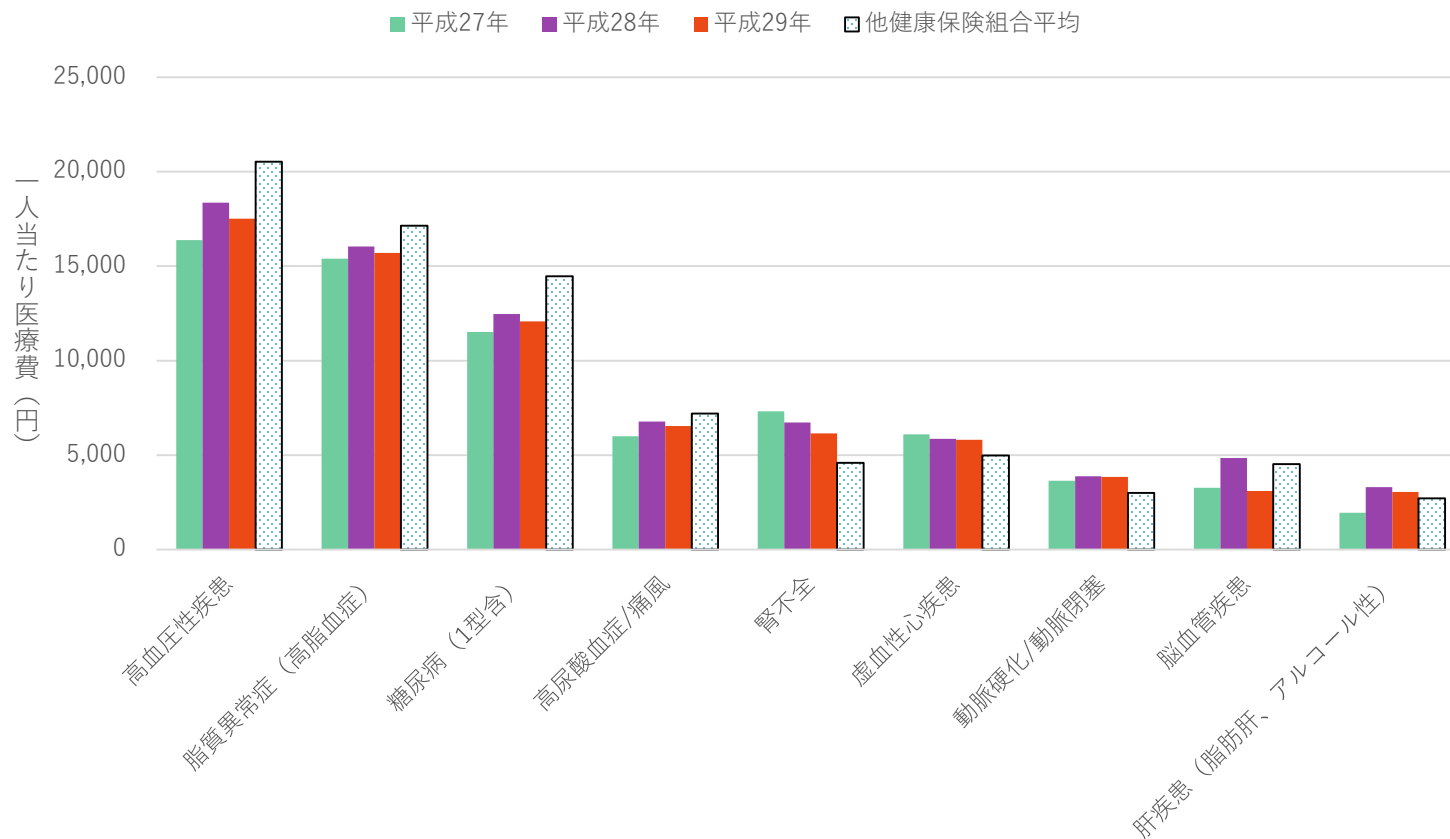
急性下気道感染症 (風邪)  
片頭痛、その他の頭痛症候群  
睡眠障害、中枢性睡眠時無呼吸、睡眠時無呼吸症候群  
アレルギー性鼻炎  
肺気腫、その他の慢性閉塞性肺疾患  
喘息、喘息発作重積状態  
背部痛  
めまい  
急性アトピー性結膜炎  
月経前症候群、月経困難症  
ドライアイ、眼精疲労

疾病別医療費のうち、「その他疾患」が全体の63.1%を占めているが、ここにその内訳を示す。この中には生活習慣と関係しているものも多く、生活習慣の改善によりこれらの減少が期待できる。

# 生活習慣病別 加入者1人当たり医療費

(H30年9月13日)

生活習慣病別 加入者一人当たり医療費

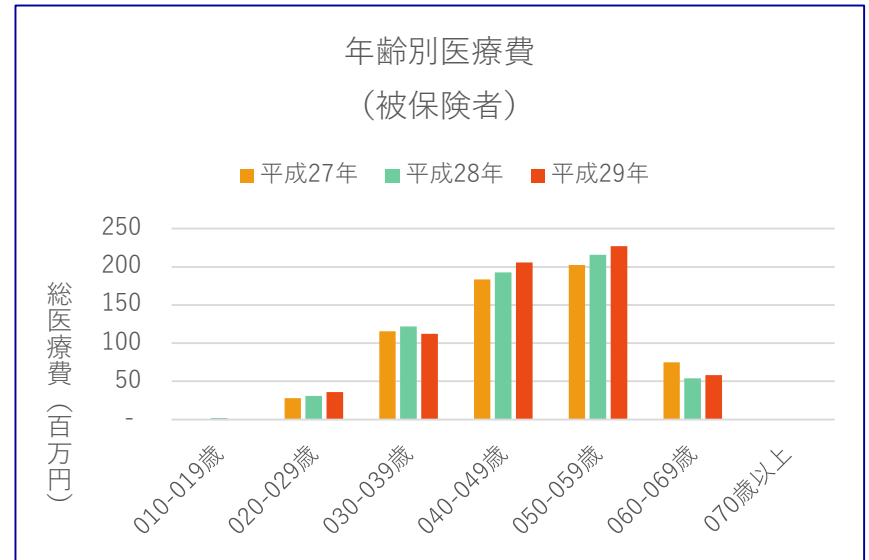
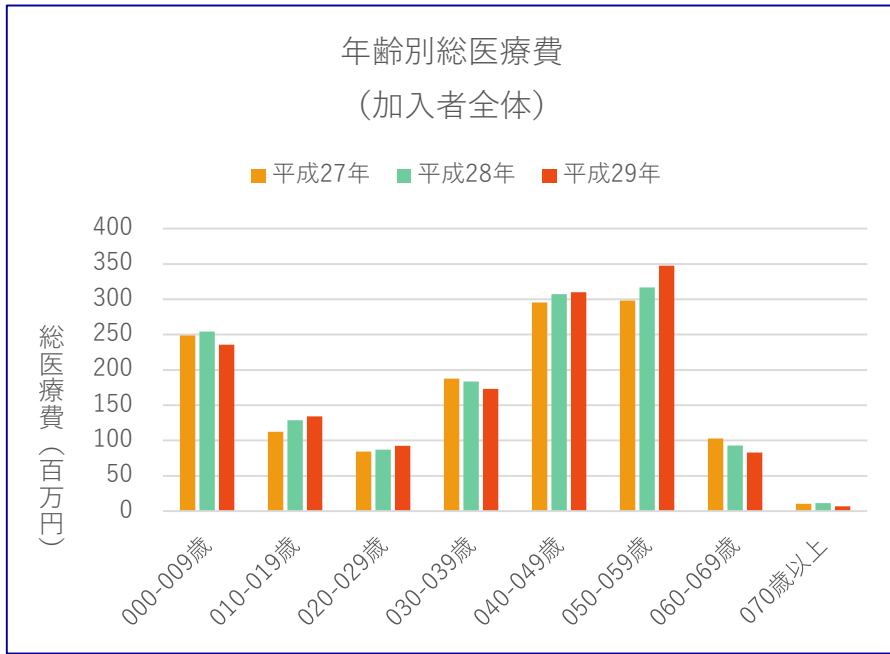


アルバックの生活習慣病別医療費は、ほとんどのものが前年度よりやや減少傾向にある。また、ワースト3である高血圧性疾患、脂質異常症、糖尿病はいずれも健保平均よりは低いが、一方で、腎不全、虚血性心疾患、動脈硬化/動脈閉塞、肝疾患は健保平均より高い。このうち、腎不全についてはここ数年で徐々に減少しつつある。

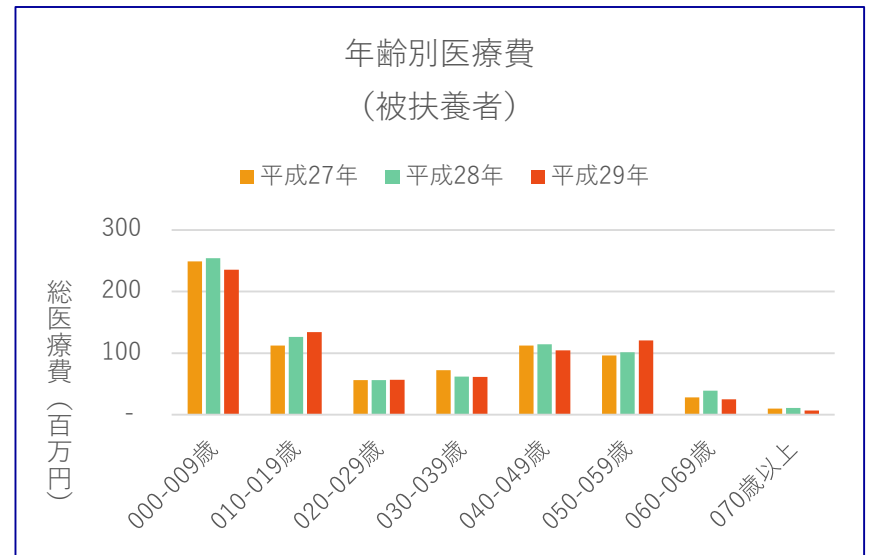


# 年齢別総医療費

(H30年9月13日)



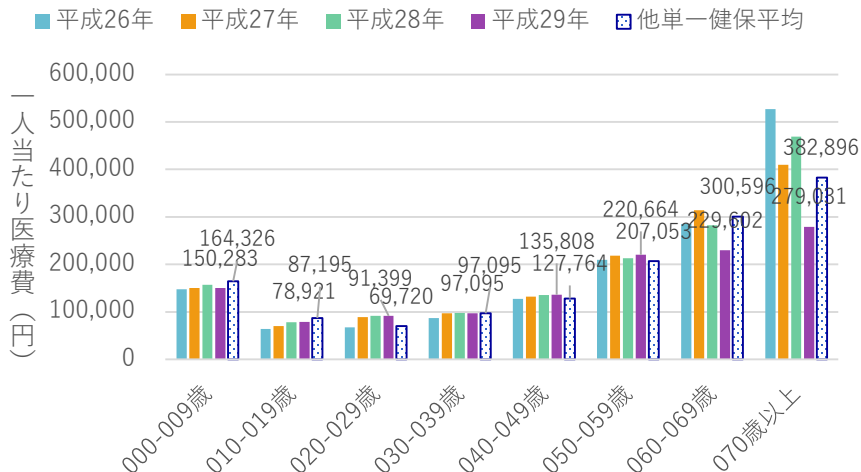
当健保における加入者全体の総医療費のピークは40～59歳で、9歳以下がそれに続く。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。特に、50～59歳の医療費は、H27年から16.4%増加している。この年齢層の傾向は、被保険者、被扶養者共同様である。



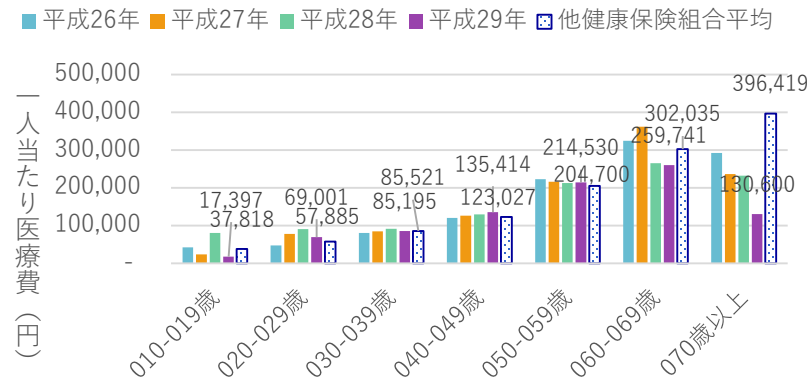
# 年齢別1人当たり医療費

(H30年9月13日)

年齢別一人当たり医療費  
(加入者全体)

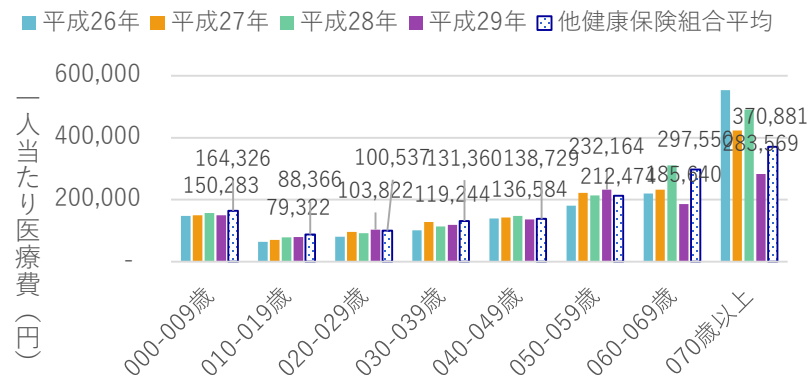


年齢別一人当たり医療費  
(被保険者)



当健保における加入者全体の1人当たり医療費は、9歳以下を除き、年代と共に増加傾向にある。この年齢層の医療費は年々増加傾向にある。また、60歳以上については、昨年度より減少している。

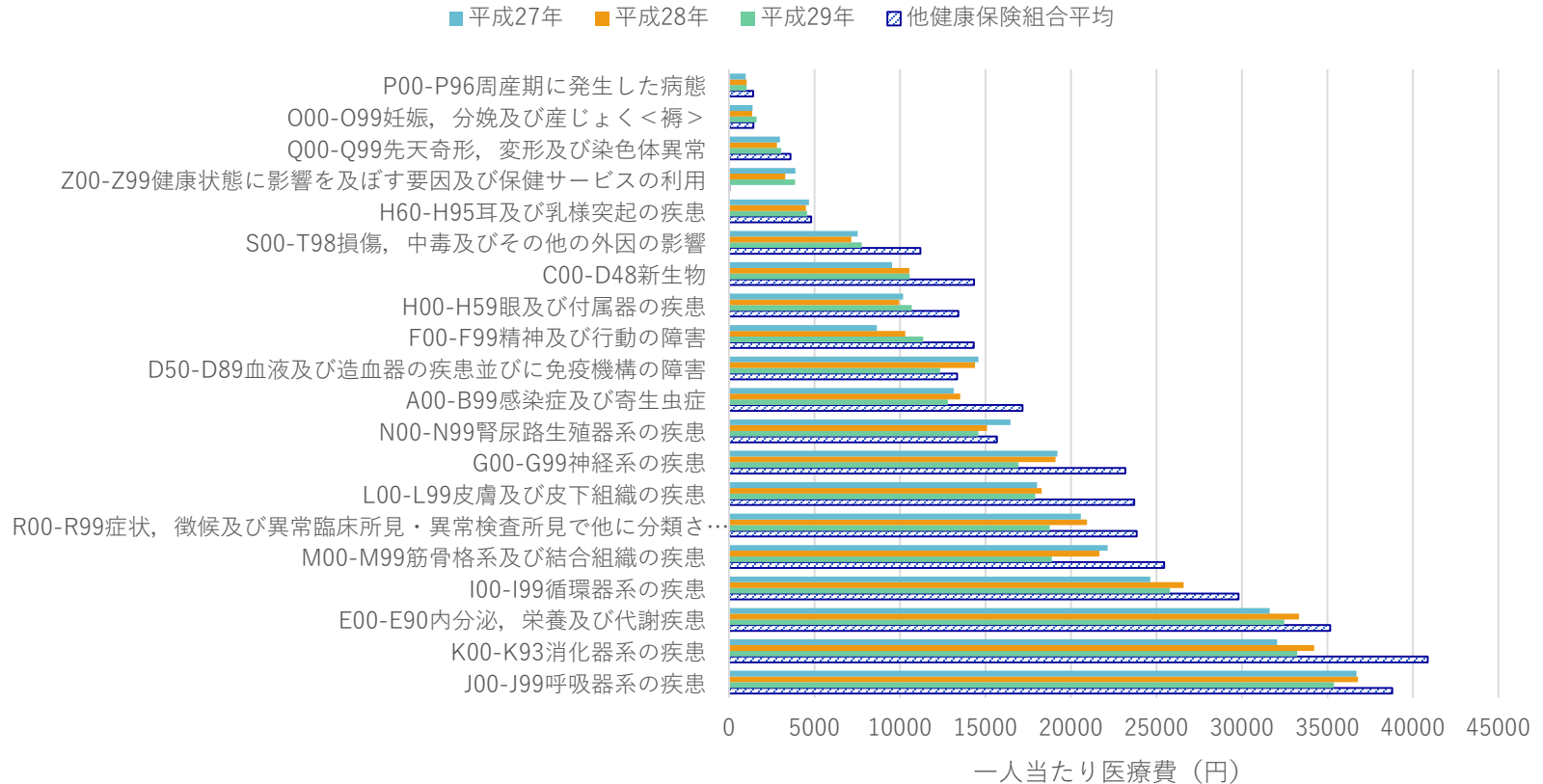
年齢別一人当たり医療費  
(被扶養者)



# ICD10大分類別1人当たり医療費

(H30年9月13日)

ICD10大分類別一人当たり医療費  
(加入者全体)

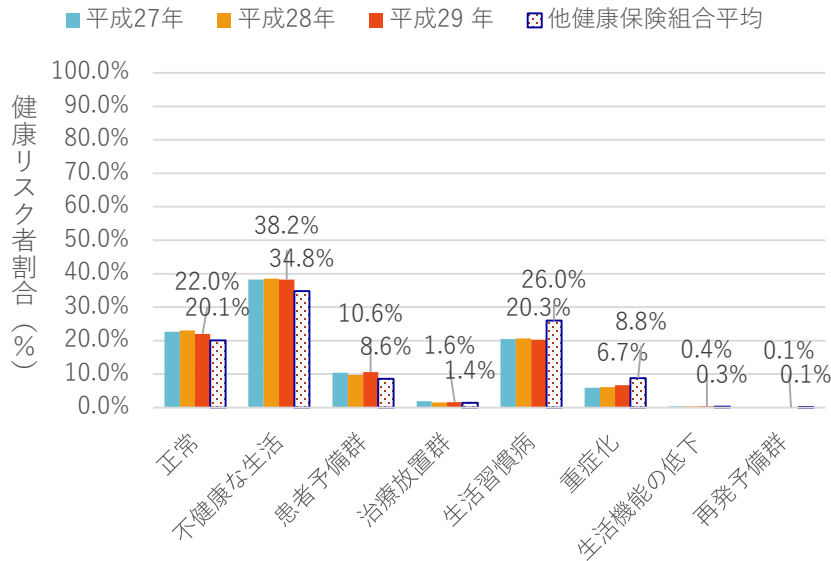


ICD10大分類別にアルバックの一人当たり医療費を見ると、ほとんどの疾患が健保平均より少なく、昨年度よりやや減少した。疾患別医療費の全体的な傾向は、健保平均とほぼ同様であるが、ワーストワンは、健保平均では消化器系疾患であるのに対し、当健保では呼吸器系疾患である。

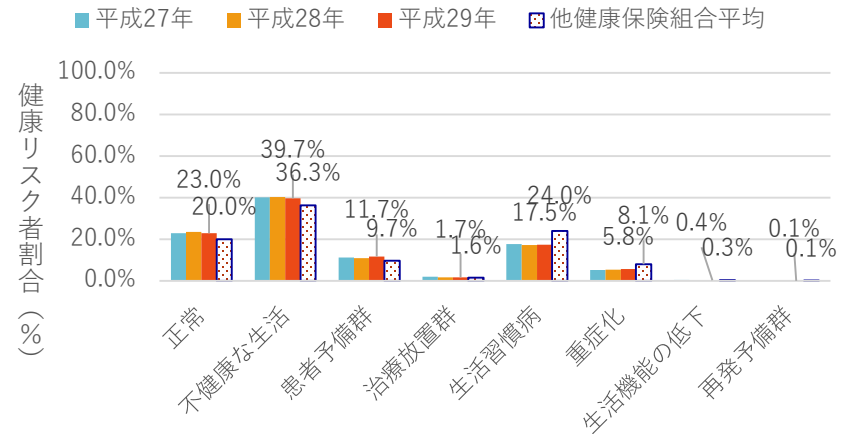
# 健康リスク者分布

(H30年9月13日)

健康リスク者割合（加入者全体）

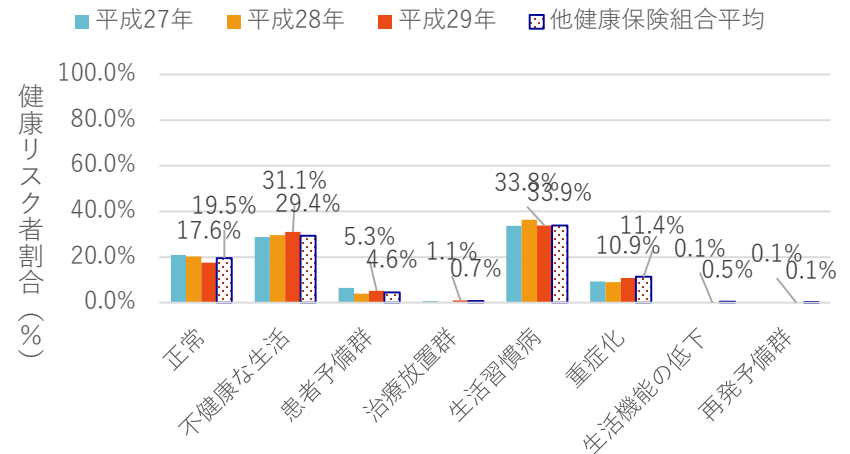


健康リスク者割合（被保険者）



当健保の健康リスク者分布を見ると、他健保平均と比較して、正常者の割合が多く、一方、生活習慣病及び重症化患者が少ない。この傾向は、被保険者についても同様である。今後、さらに正常者の割合を増加させていきたい。

健康リスク者割合（被扶養者）



# (参考) アルバックグループの健康リスクの基準

(H30年9月13日)

健康診断の結果とレセプトデータより人の健康に生じる障害、またはその発生頻度や重大性を評価し、8つに分類したものです。アルバック健保では、健康リスク別に受診勧奨や特定保健指導等保健事業を実施しています。

## 未通院(生活習慣病のレセプトが無い人)

正常	不健康な生活	患者予備群	治療放置群
健康診断の結果で有所見なし	保健指導により生活習慣の改善が必要なレベル	再検査または一度病院で診察を受けた方が良いレベル	早期に治療を開始する必要があるレベル
血糖: 110mg/dl未満又はHbA1c5.6%未満	血糖: 110mg/dl以上又はHbA1c5.6%以上	血糖: 126mg/dl以上又はHbA1c6.5%以上	血糖: 200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上
血圧: 85/130mmHg未満	血圧: 85又は130mmHg以上	血圧: 90又は140mmHg以上	血圧: 100又は160mmHg以上
中性脂肪: 150mg/dl未満 又はLDL:120未満 又はHDL:40以上	中性脂肪: 150mg/dl以上 又はLDL:120以上 又はHDL:40未満	中性脂肪: 300mg/dl以上 又はLDL:180以上 又はHDL:30未満	

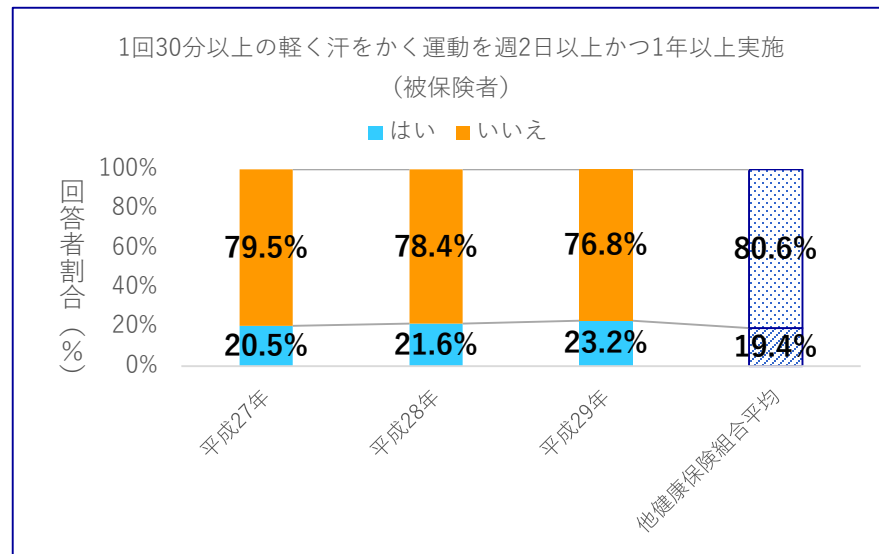
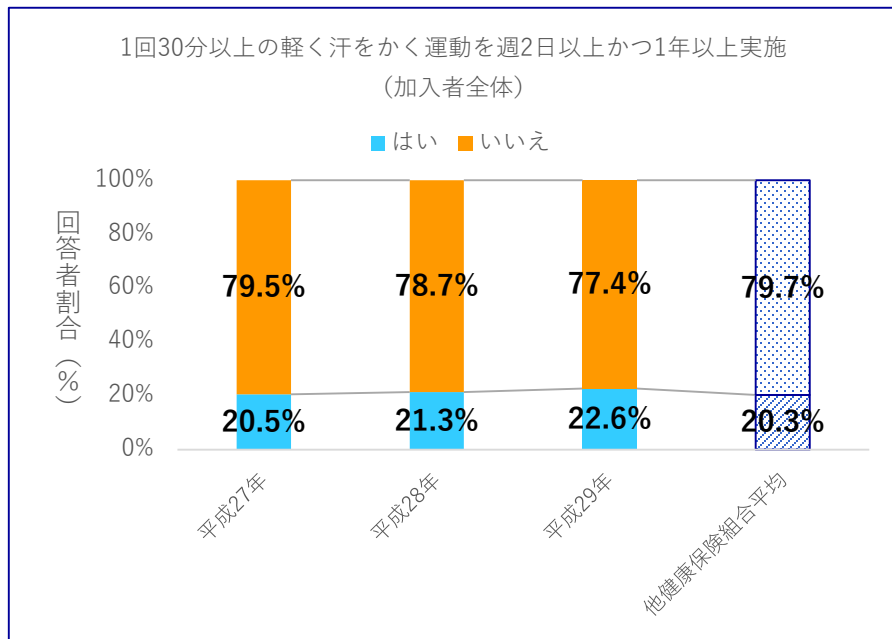
## 通院/入院(生活習慣病のレセプトがある人)

生活習慣病	重症化	生活機能の低下	再発予備群
合併症はない	合併症に進行中	重篤な状態	入院後の状態
2型糖尿病・高血圧症・脂質異常症のいずれかがあり、合併症はない状態	生活習慣病があり、糖尿病性合併症・脳血管疾患・動脈疾患・虚血性心疾患がある状態	入院を伴う四肢切断急性期・冠動脈疾患急性期・脳卒中急性期、および透析期(通院含む)の状態	「生活機能の低下」の該当が1年前にあったが、当該年度は入院はない状態

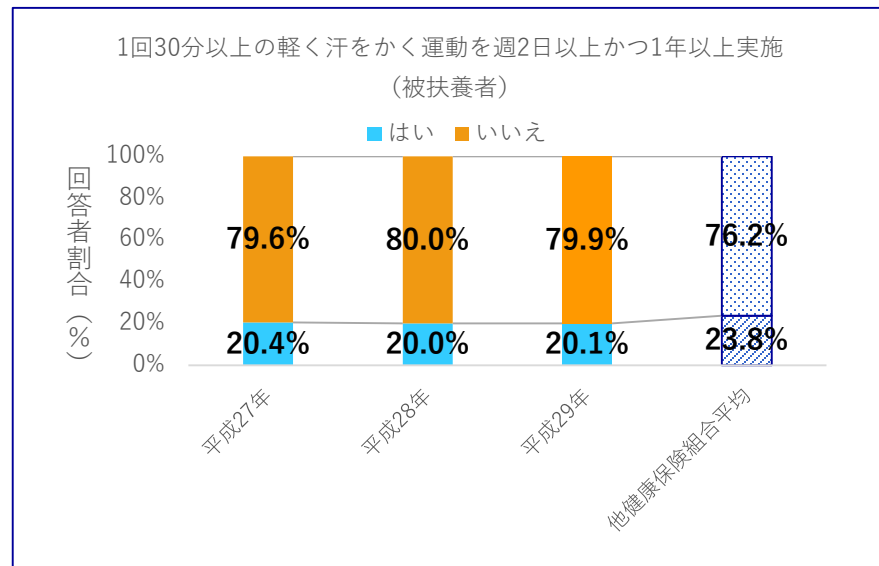
# 生活習慣 運動習慣①

## 「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」

(H30年9月21日)



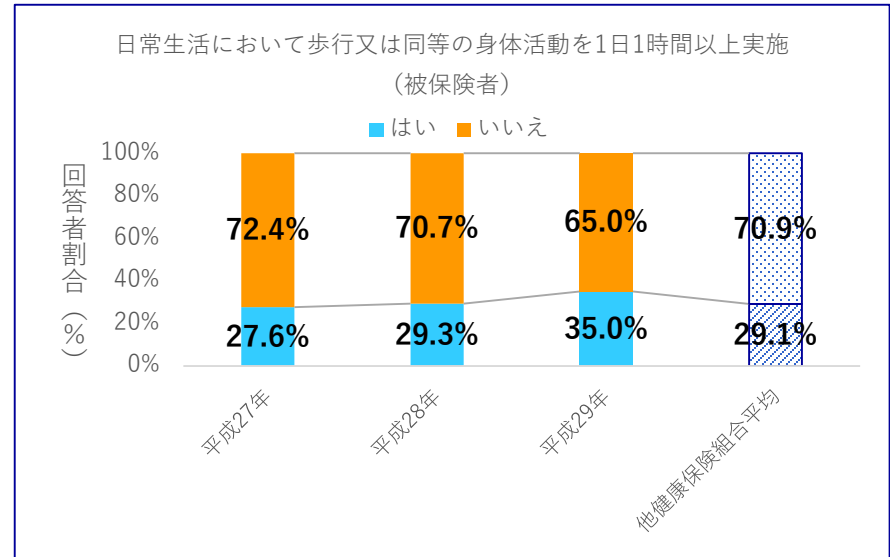
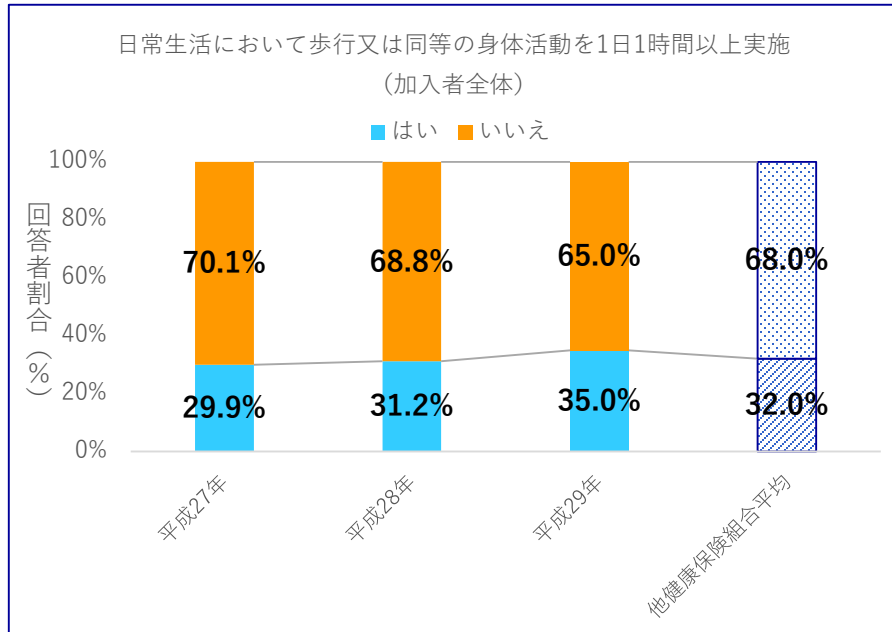
当健保の運動習慣として「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施」している割合を見ると、H27年度～29年度において徐々に増加しており、H29年度で加入者全体では単一健保平均より大きく22.6%である。また、被保険者単独では平成29年度で健保平均より3.8%高いが、一方、被扶養者単独では単一健保平均より3.7%低い。今後、被扶養者の運動習慣を如何に向上させるかが課題である。



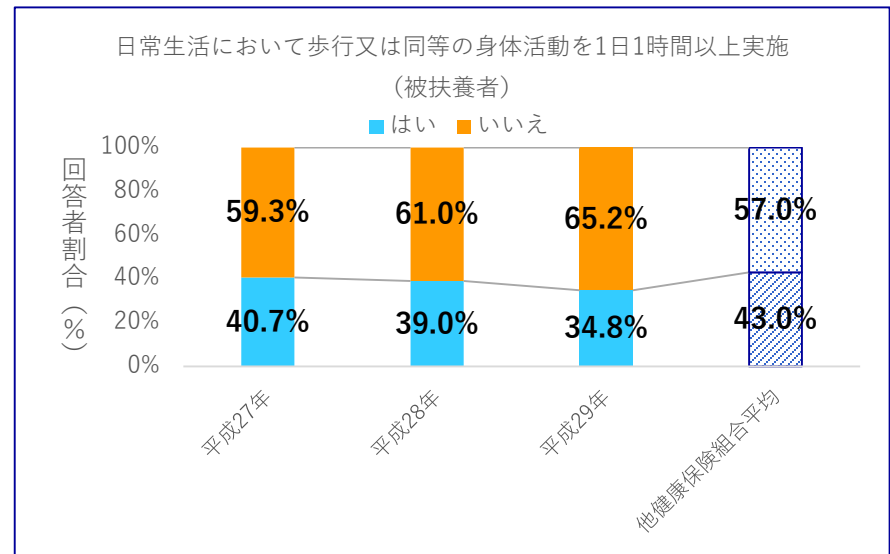
# 生活習慣 運動習慣②

## 「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」

(H30年9月21日)



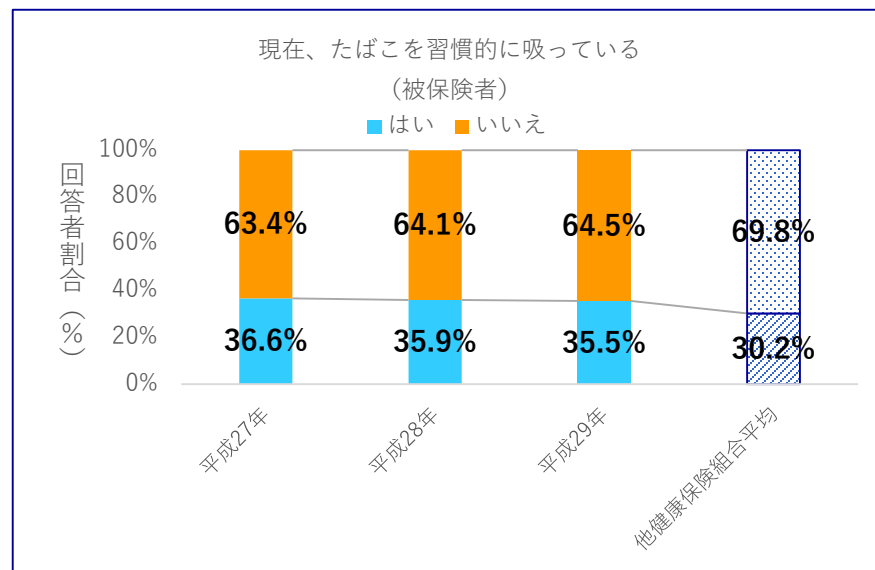
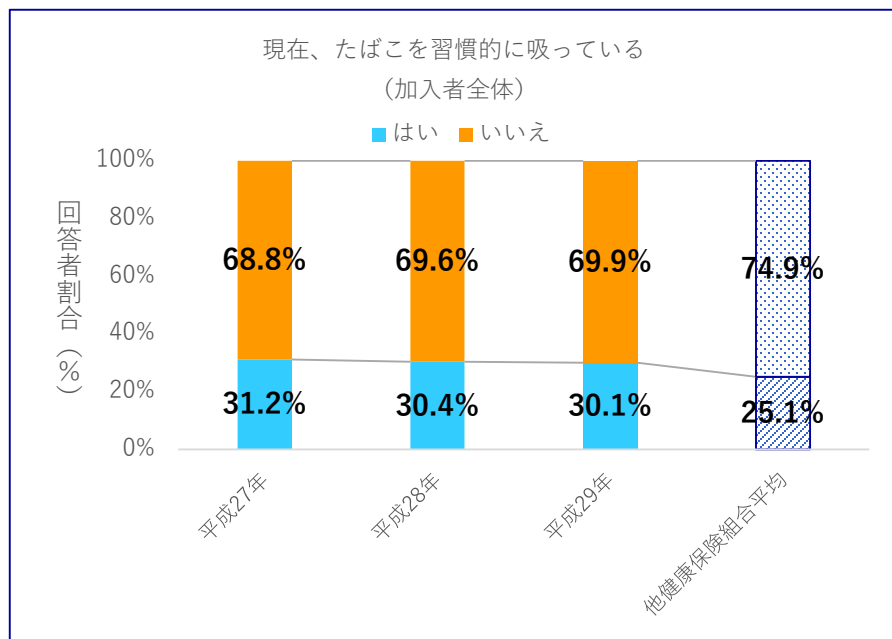
当健保の運動習慣として「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」している割合を見ると、H27年度～29年度において徐々に増加しており、平成29年度で加入者全体では単一健保平均より多く35.0%である。また、被保険者単独ではH29年度で健保平均より5.9%高いが、一方、被扶養者単独では年々やや減少傾向にあり、単一健保平均より8.2%低い34.8%まで減少した。今後、被扶養者の日常生活における運動習慣を如何に向上させるかが課題である。



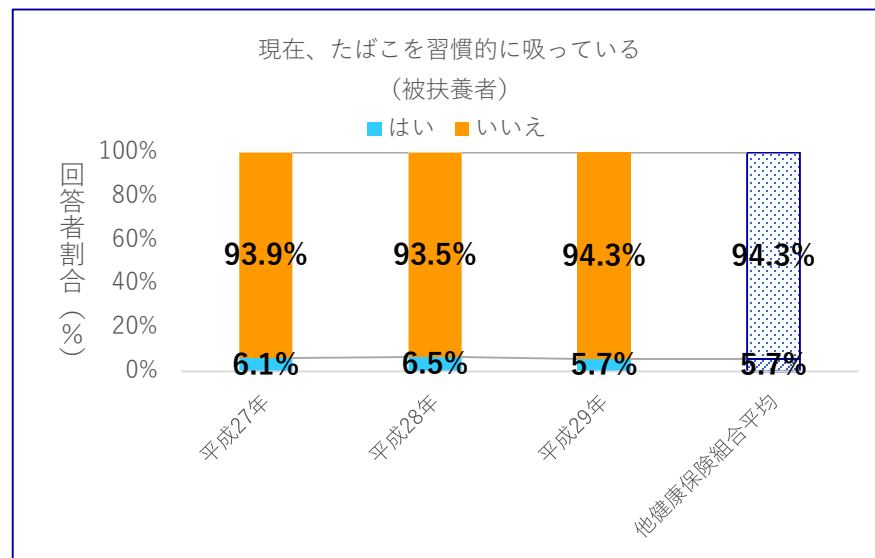
# 生活習慣 喫煙

## 「現在、たばこを習慣的に吸っている」

(H30年9月21日)



当健保の生活習慣として「現在、たばこを習慣的に吸っている」者の割合は、H29年度で加入者全体では単一健保平均より5.0%多く30.1%である。被保険者単独でも健保平均より5.3%高い。今後、被保険者の喫煙習慣を如何に減らすことができるかが課題である。



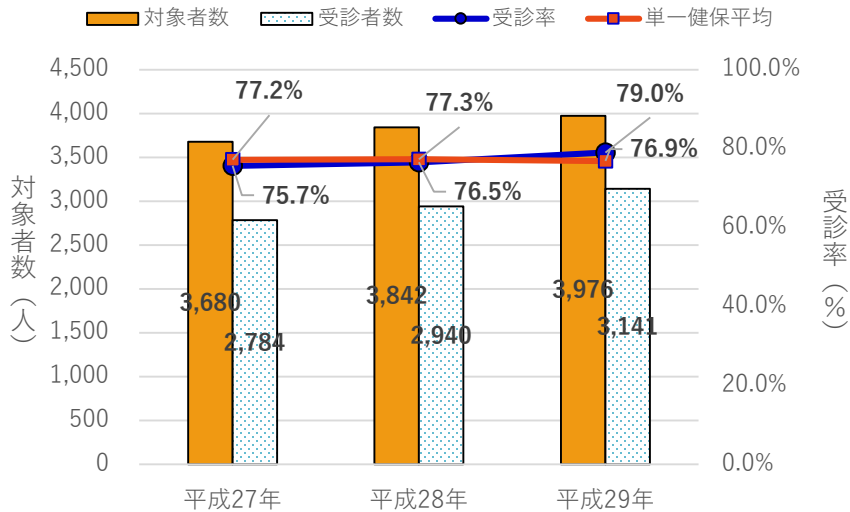


# 特定健診受診者

(H30年9月12日)

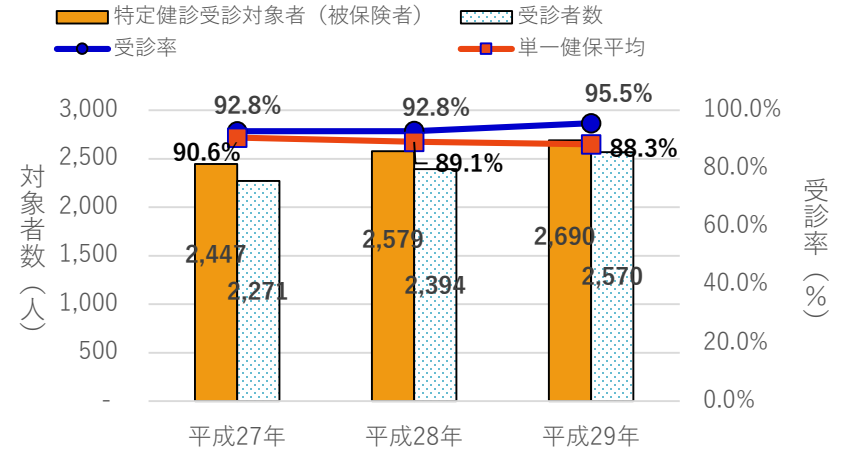
## 特定健診受診者

(加入者全体)



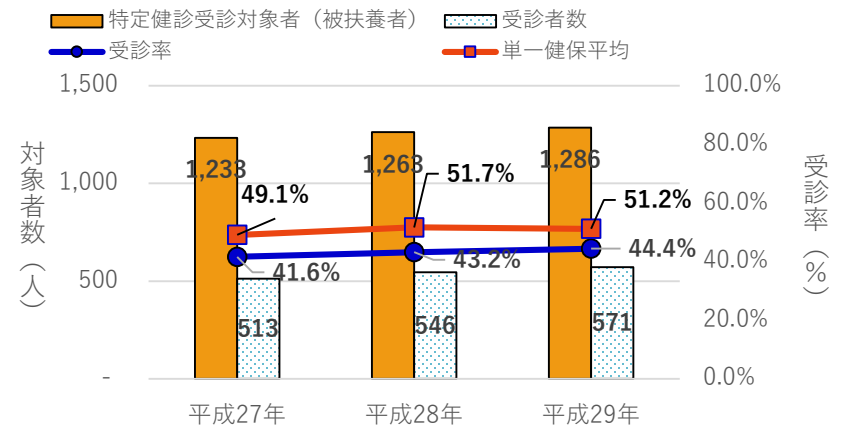
## 特定健診受診者

(被保険者)



## 特定健診受診者

(被扶養者)

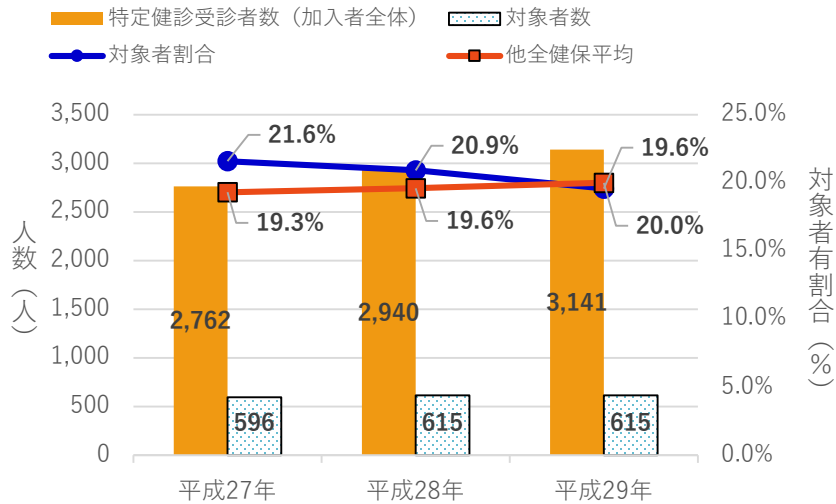


H29年度の当健保の特定健診受診率を見ると、加入者全体では、昨年度より1.7%増加し、単一健保平均より2.1%大きい。また、被保険者の受診率は健保平均より7.2%高いが、一方、被扶養者の受診率は単一健保平均より6.8%低い。今後、被扶養者の健診受診率を如何に上げるかが課題である。

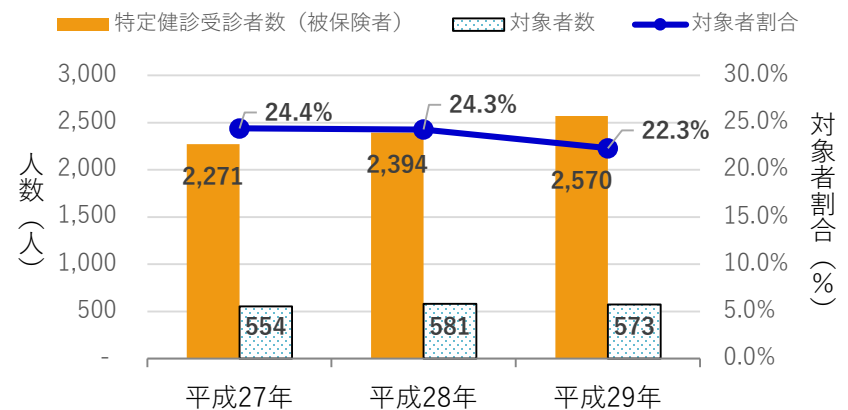
# 特定保健指導 対象者

(H30年9月12日)

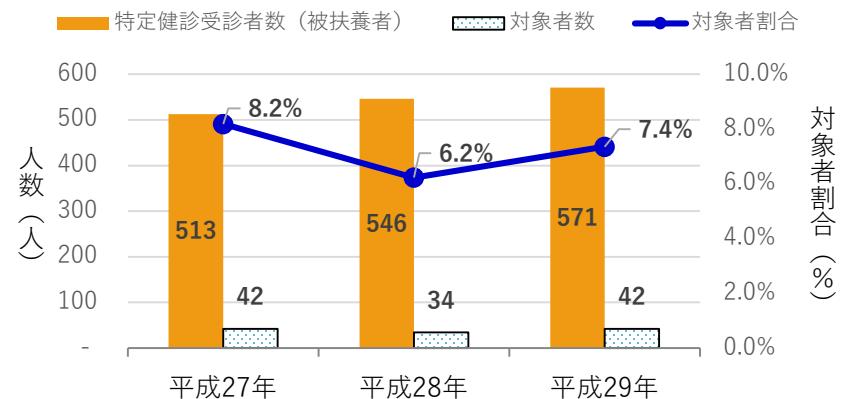
特定保健指導対象者  
(加入者全体)



特定保健指導対象者  
(被保険者)



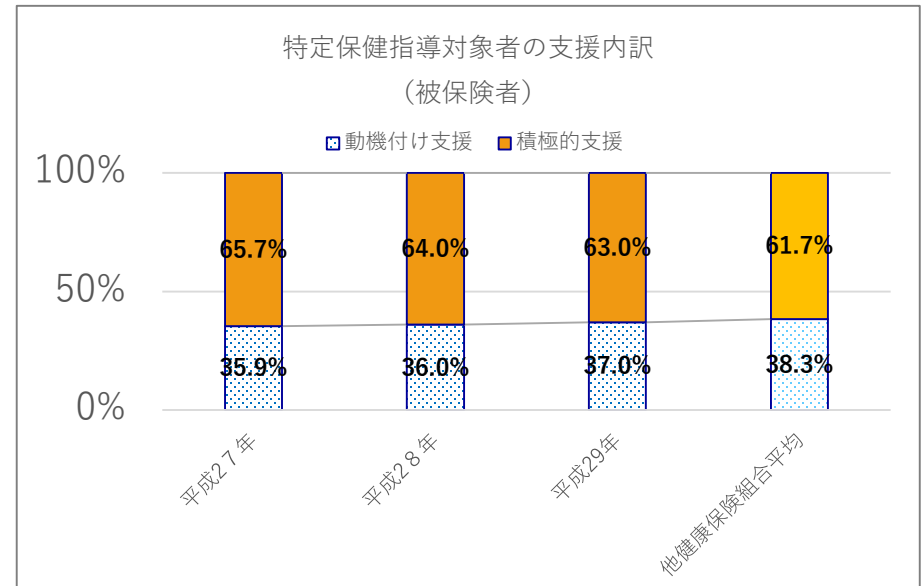
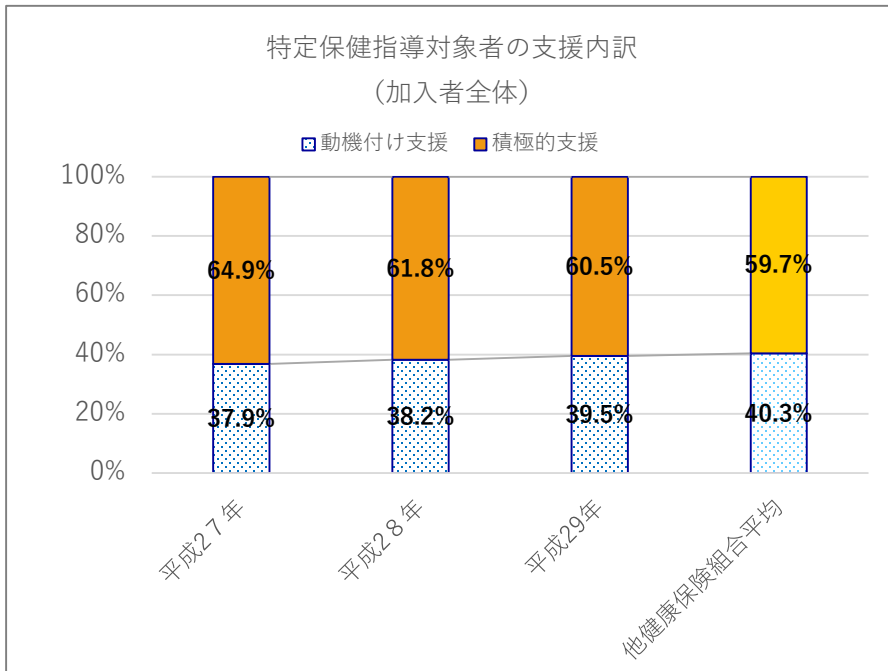
特定保健指導対象者  
(被扶養者)



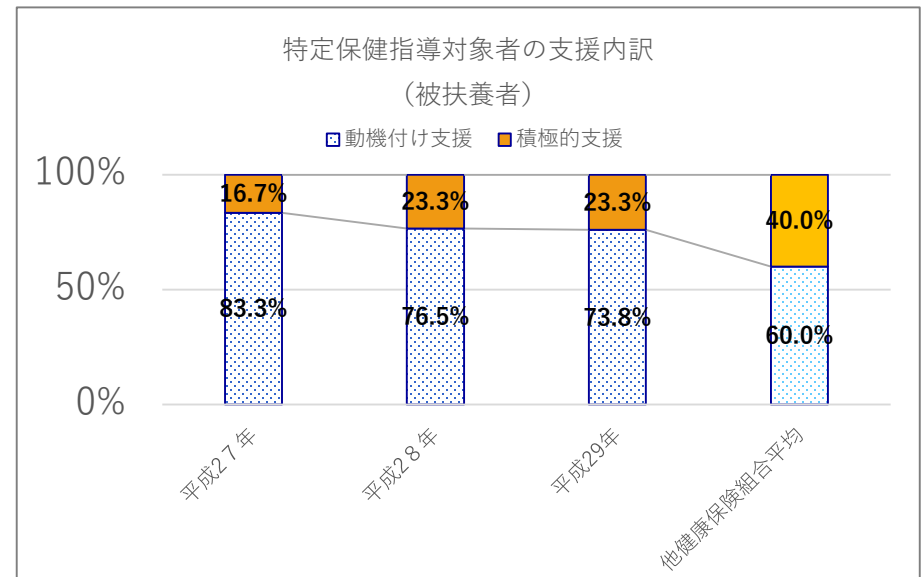
当健保の特定保健指導対象者割合を見ると、加入者全体ではここ数年は減少傾向にあり、H29年度は健保平均を0.4%下回った。また、被保険者の対象者割合は減少傾向にあるが、被扶養者の対象者割合は1.2%増加した。今後も引き続き、特定保健指導対象者を如何に減少させるかが課題である。

# 特定保健指導 対象者の内訳

(H30年9月12日)



当健保の特定保健指導対象者を積極的支援者と動機づけ支援者の内訳でみると、約60%が積極的支援者である。推移をみると、加入者全体では、積極的支援者の割合が減少し、動機づけ支援者の割合が増加している。また、被保険者の積極的支援者の割合は健保平均よりやや高く、被扶養者の積極的支援者の割合は逆に健保平均より低い。

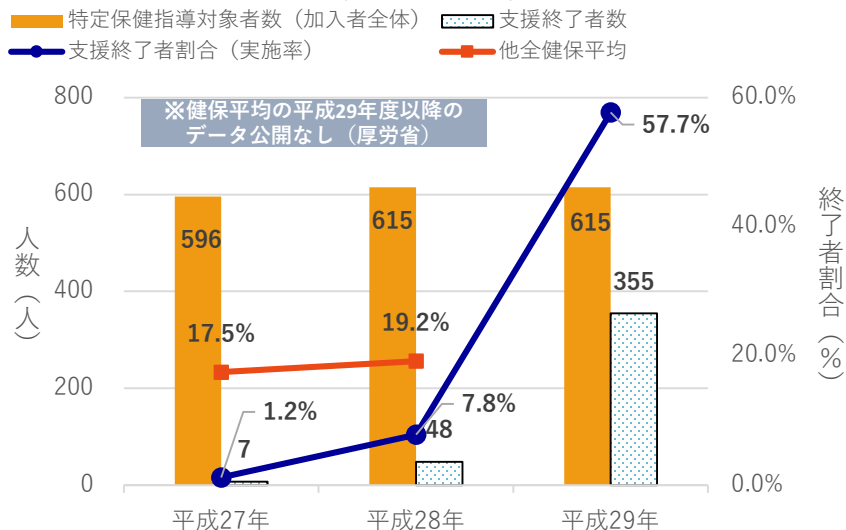


# 特定保健指導 終了者

(H30年9月12日)

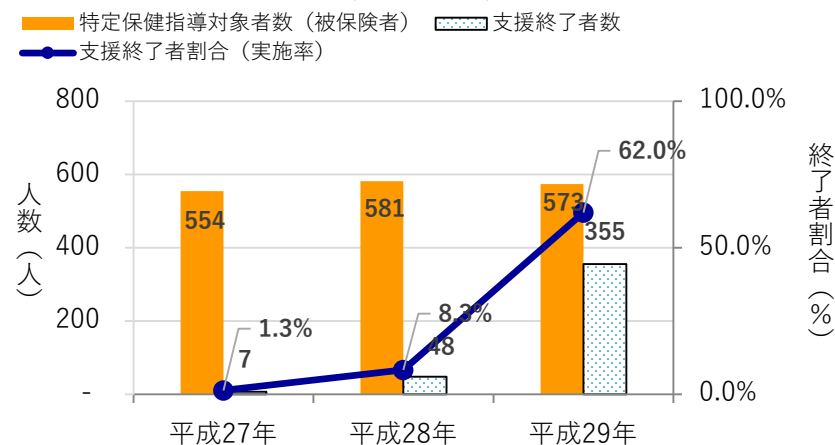
## 特定保健指導終了者

(加入者全体)



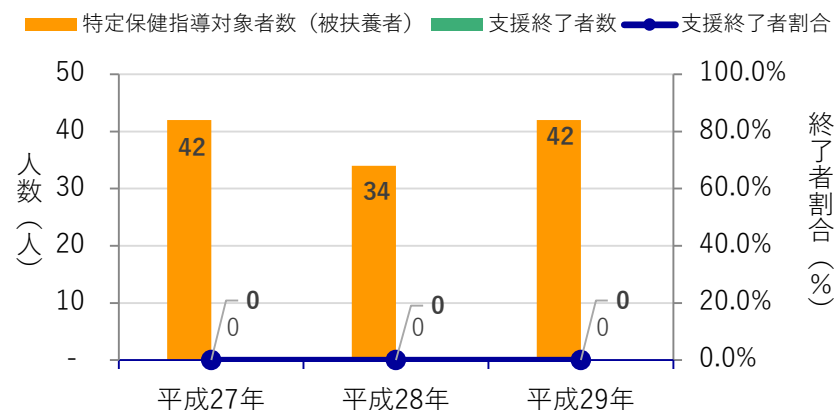
## 特定保健指導終了者

(被保険者)



## 特定保健指導終了者

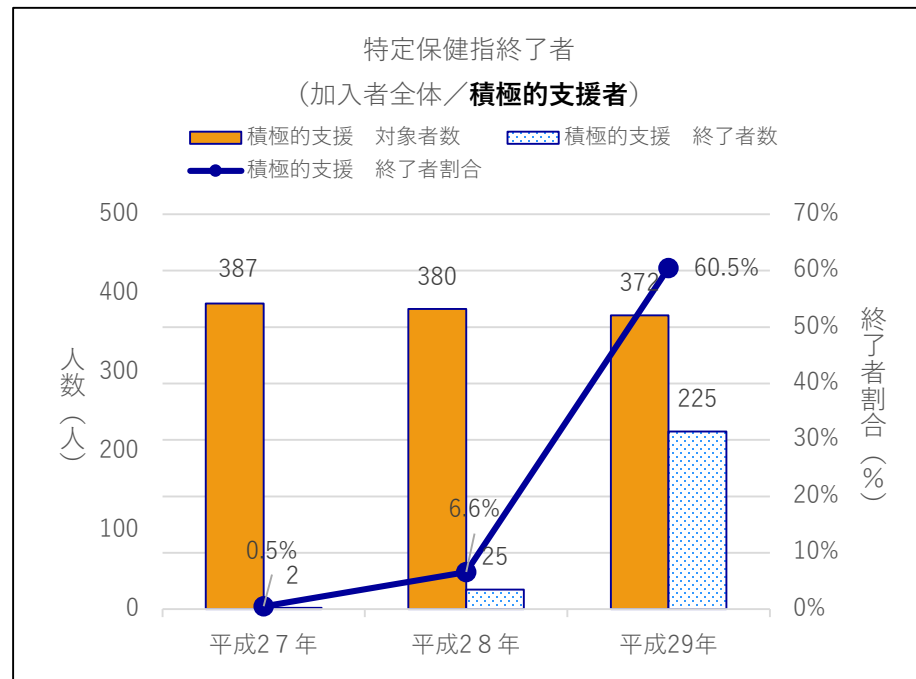
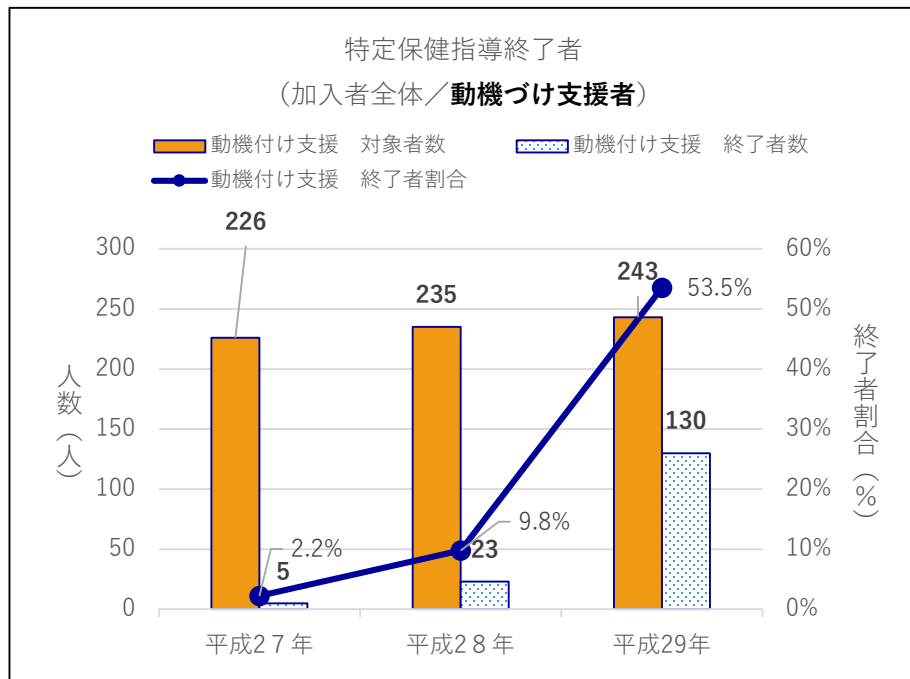
(被扶養者)



当健保の特定保健指導実施率は、年々増加し、平成29年度で57.7%となった。被扶養者については、現在のところ支援終了には至っていないが、数名は継続支援中である。この結果は、全事業所と連携して実施率向上を推進した成果が表れた。

# 特定保健指導 支援別終了者

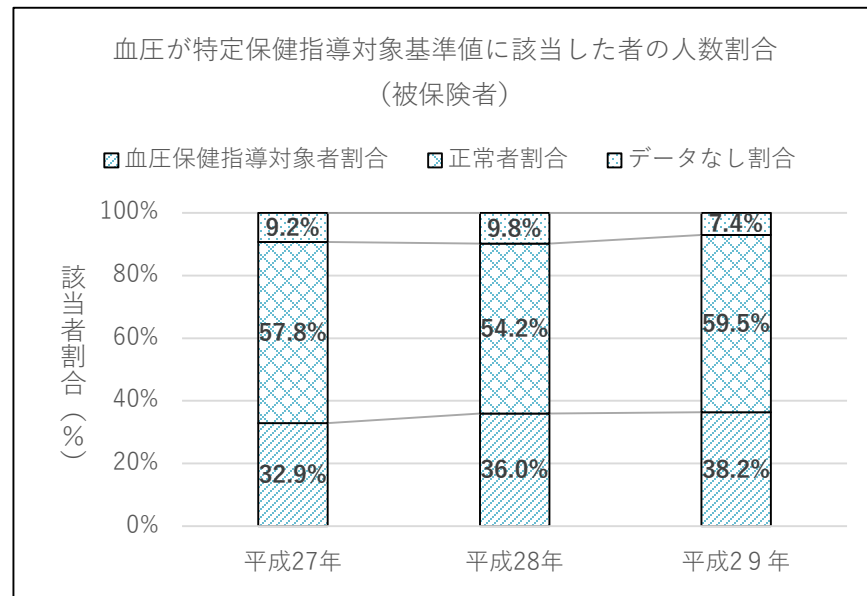
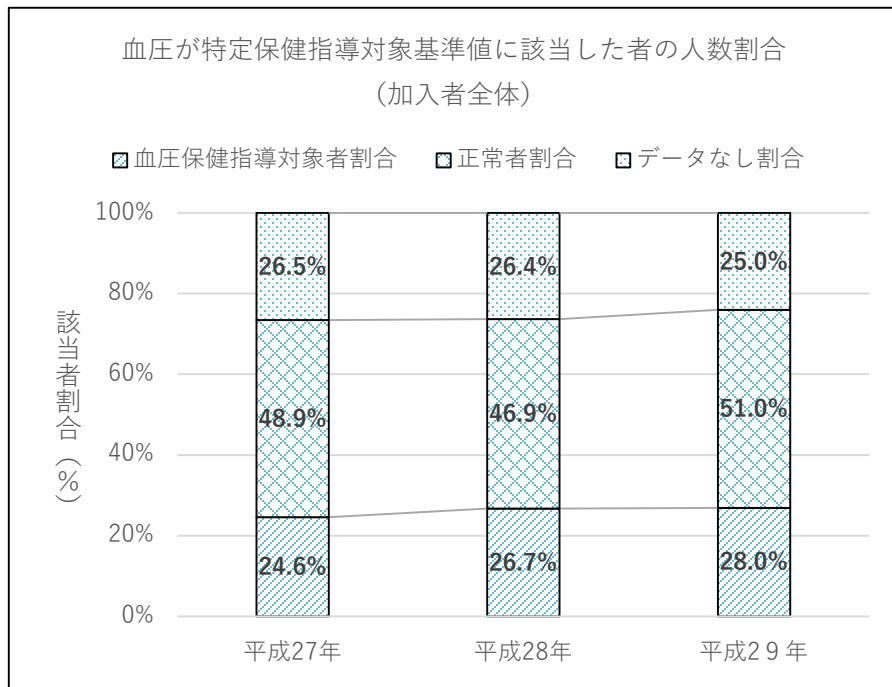
(H30年9月12日)



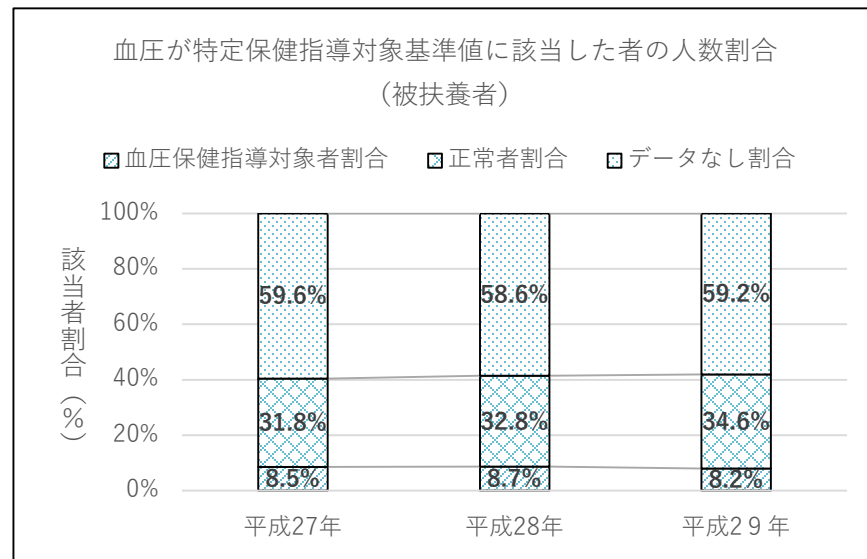
当健保の特定保健指導終了者割合を支援別にみると、積極的支援の方が動機づけ支援よりやや大きい。これは、支援プログラムにおける継続支援の回数が積極的支援の場合が多いことが原因していると推測される。

# 「血圧値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(H30年9月12日)

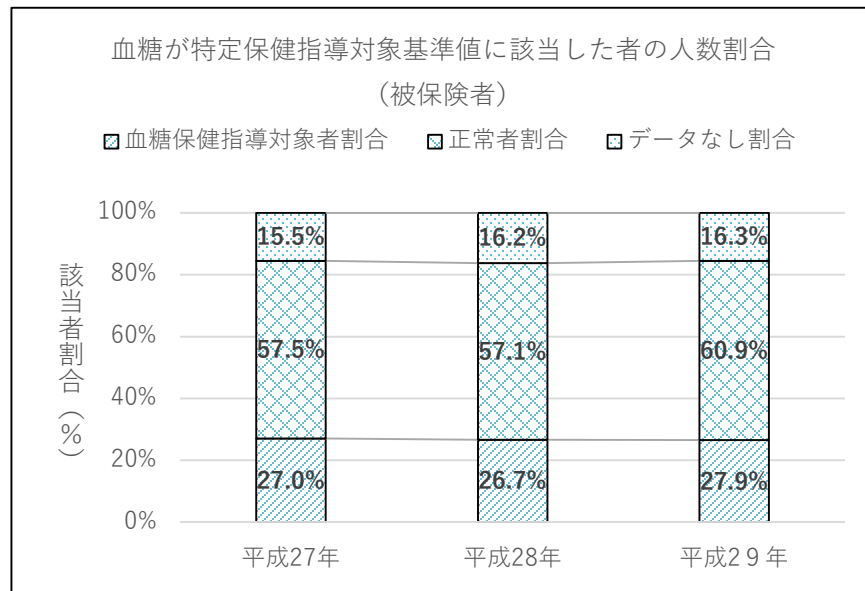
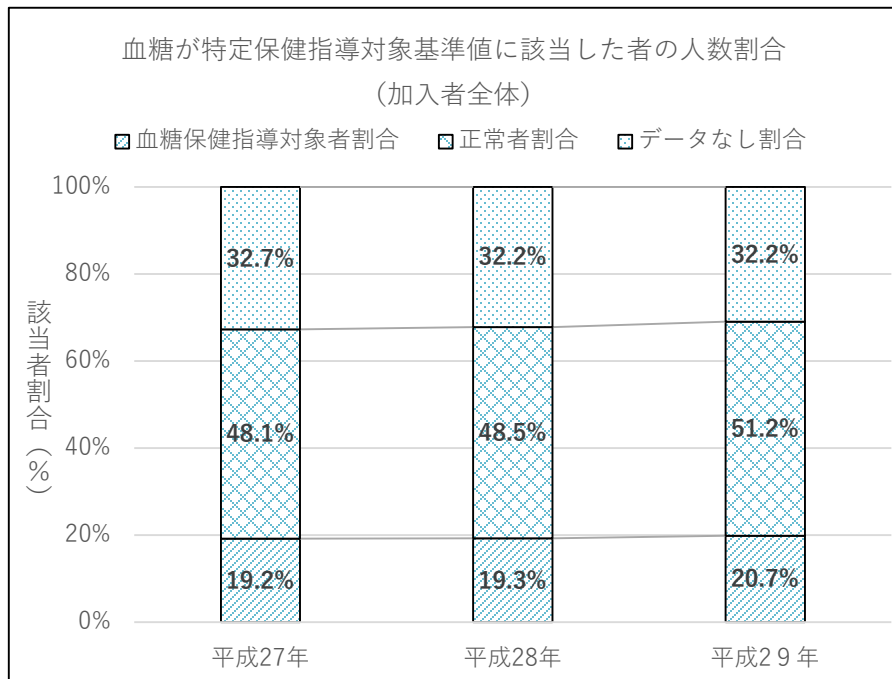


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血圧値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(1.3%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(4.1%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。

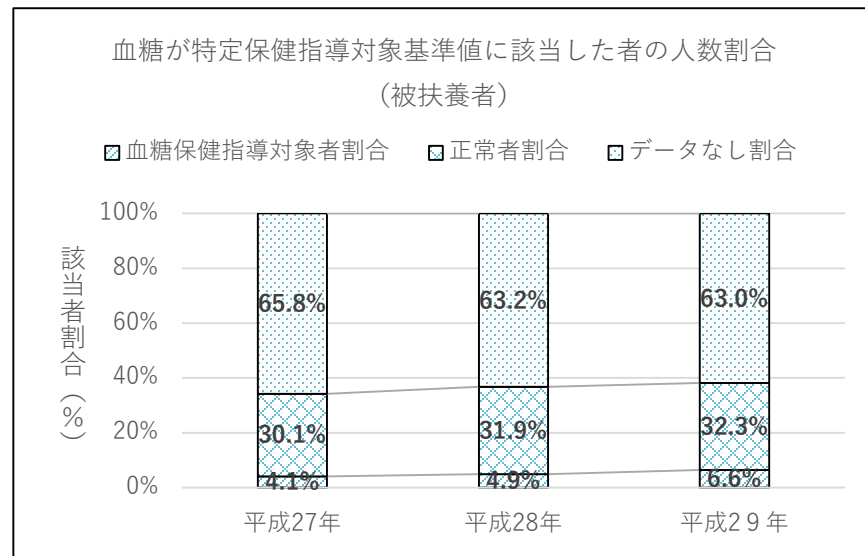


# 「血糖値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(H30年9月12日)

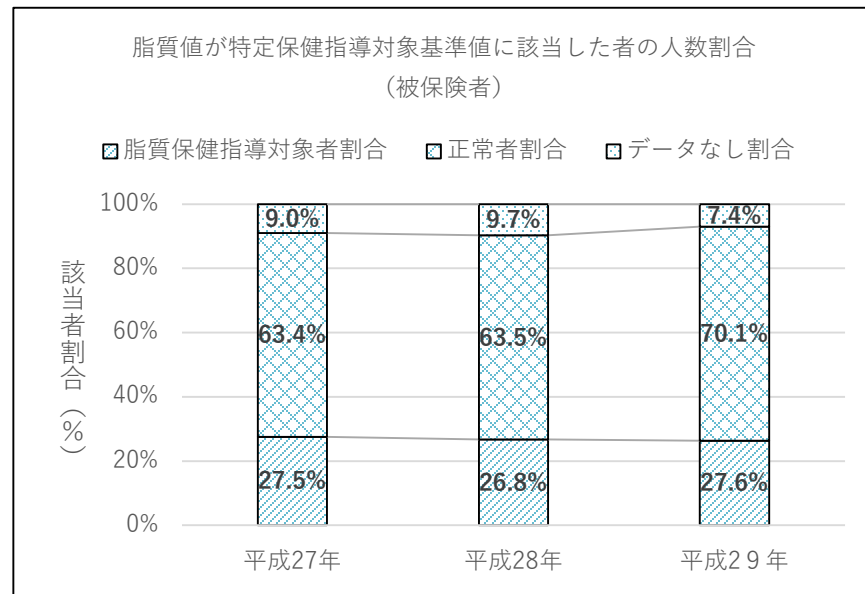
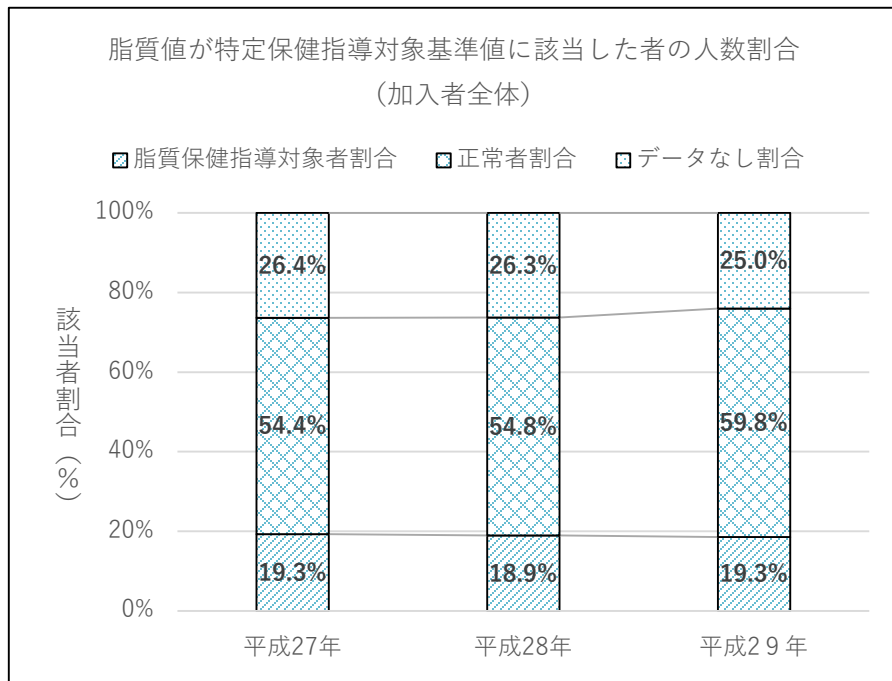


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、血糖値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(1.4%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(2.7%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者も同様であるが、被扶養者は対象者の増加が大きい。

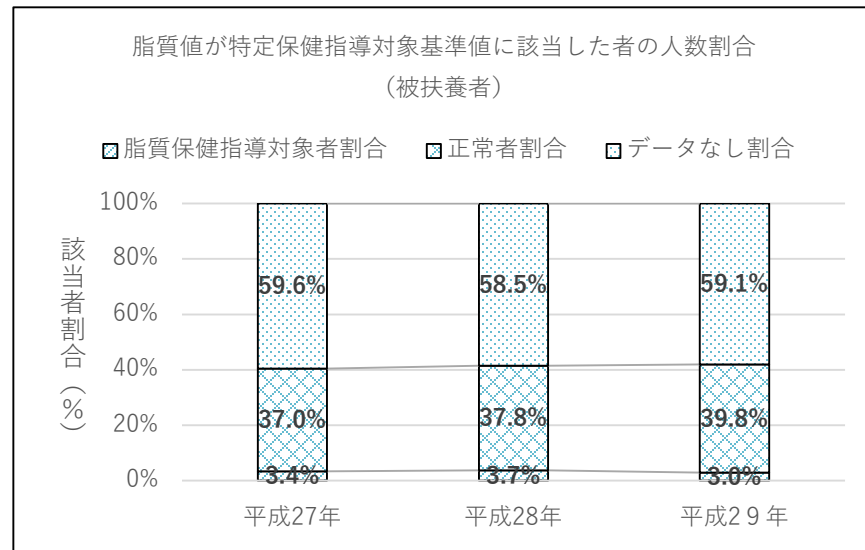


# 「脂質値」が特定保健指導の基準値に該当した者の割合

(H30年9月12日)



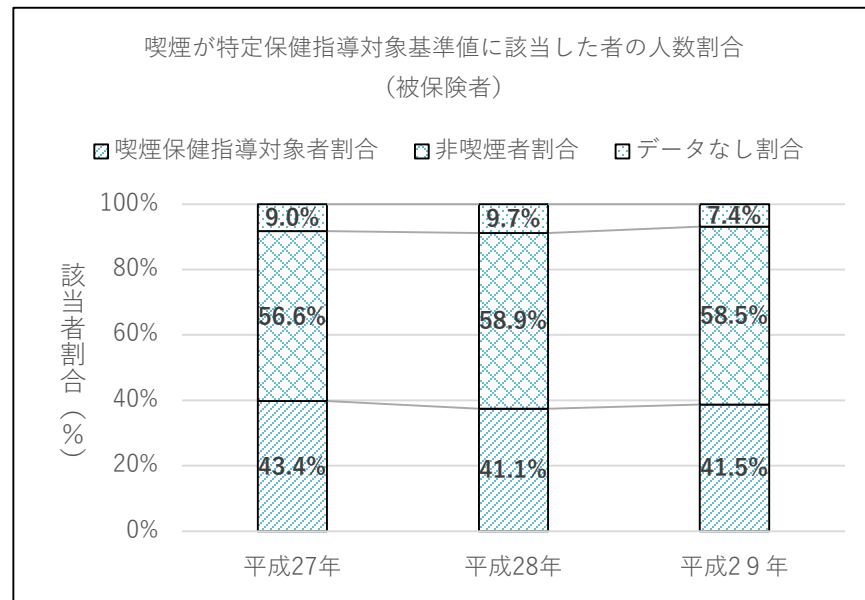
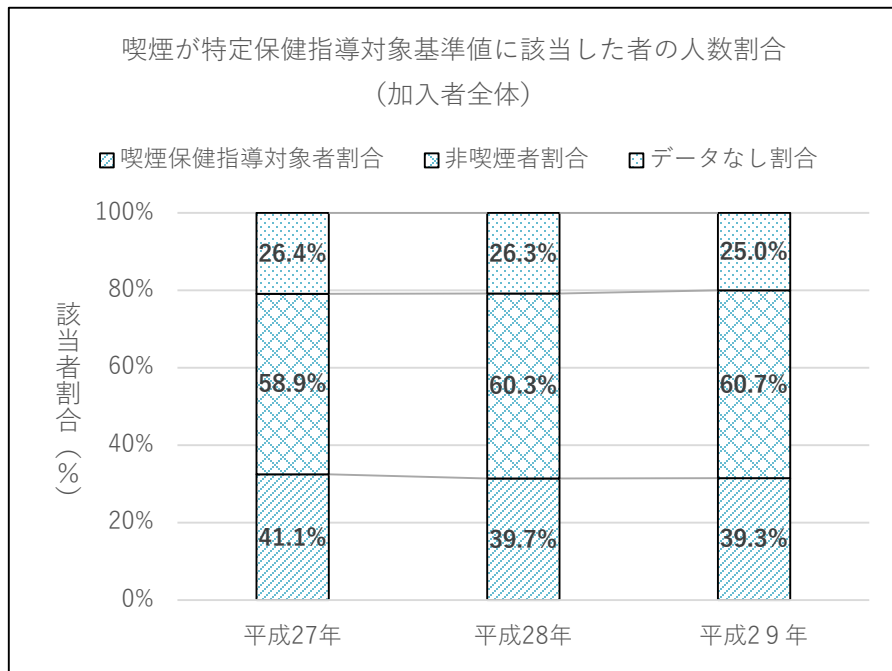
当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、脂質値が特定保健指導の基準値に該当した者の割合は、やや増加傾向(0.4%)にあるが、正常者はそれ以上に増加(5.0%)しており、良い傾向といえる。この傾向は被保険者、被扶養者共に同様である。



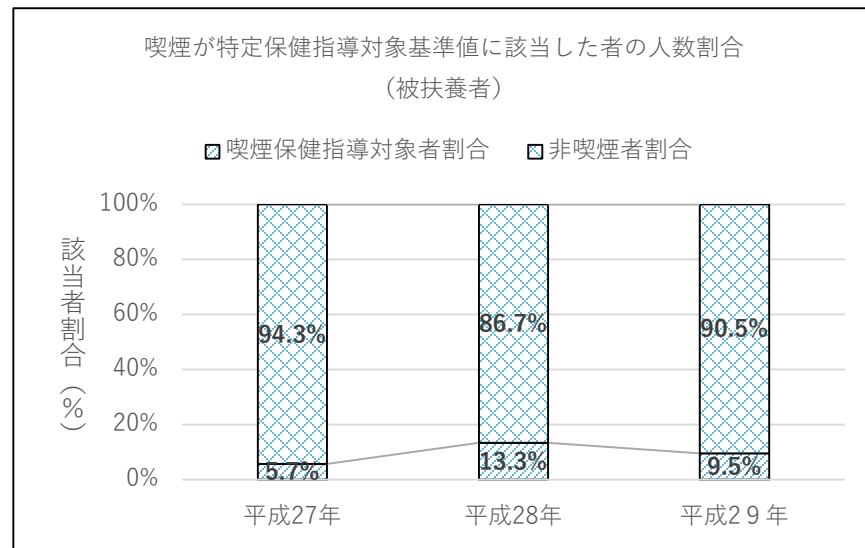


# 「喫煙」が特定保健指導の基準に該当した者の割合

(H30年9月21日)

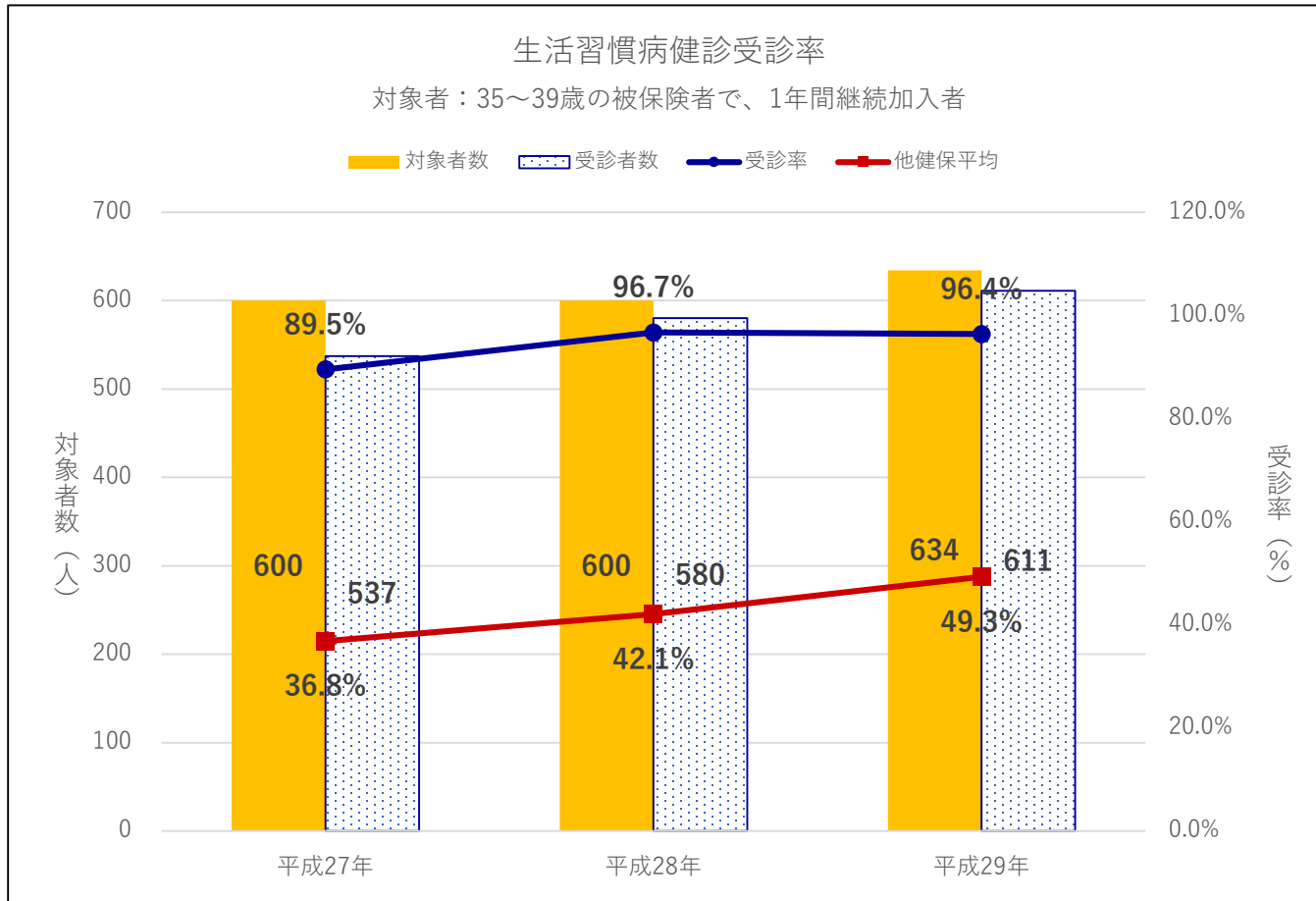


当健保の特定保健指導対象者のうち、加入者全体において、喫煙が特定保健指導の基準に該当した者の割合は、やや減少傾向(0.4%)にあるが、逆に、非喫煙者は増加(0.4%)しており、良い傾向といえる。被保険者単独でみると0.4%増加した。今後、何らかの禁煙対策の検討が必要と考える。



# 生活習慣病健診実施率

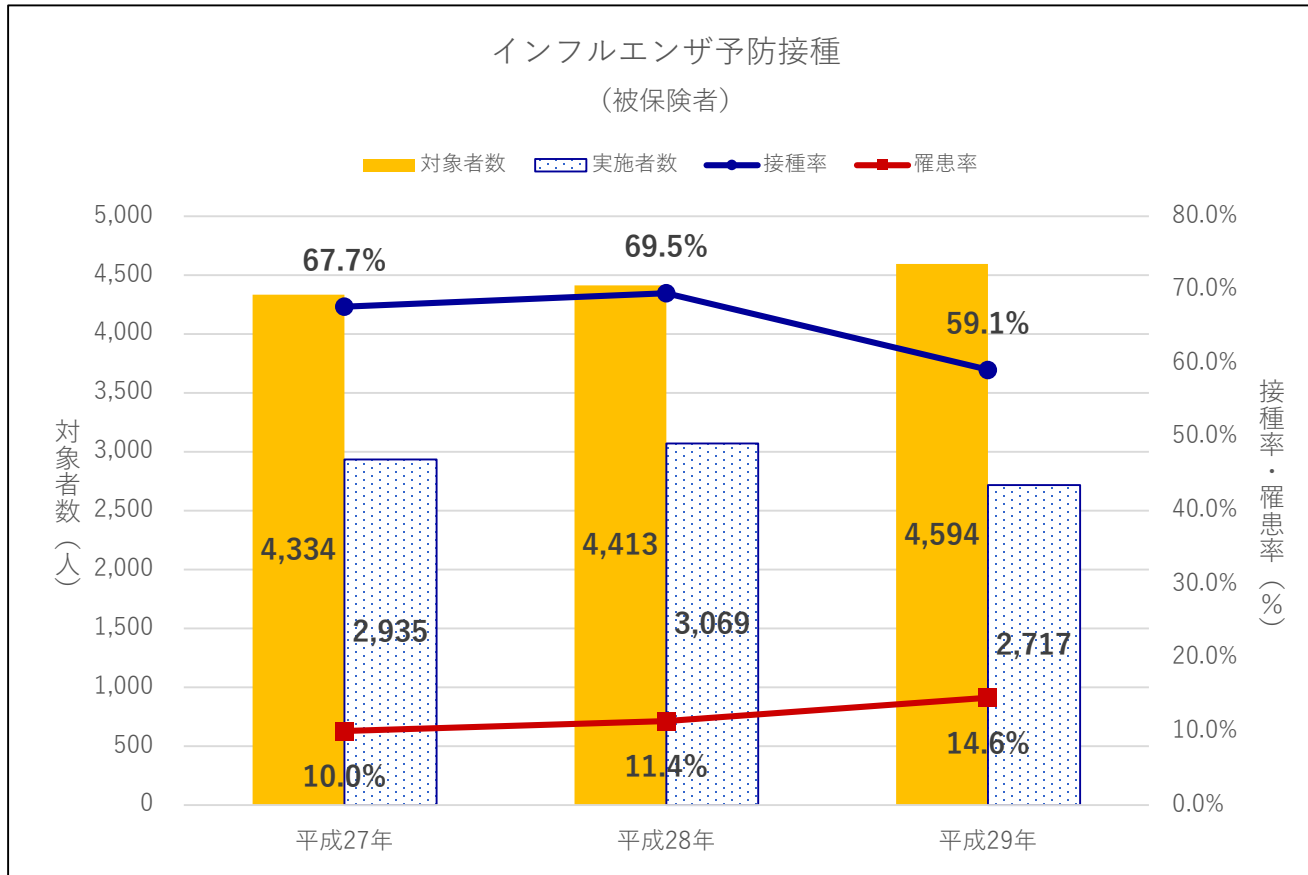
(H30年9月12日)



当健保の35～39歳の被保険者を対象とした生活習慣病健診は、平成28年度以降で90%以上を維持している。これは、全被保険者を対象として、健康Webに経年の健診結果を掲載するために結果を積極的に回収したことによるものと推測される。他健保平均と比較しても十分な実施率と評価できる。これにより、40歳以上になった後の健康増進にいい影響を及ぼすと考える。

# 被保険者 インフルエンザ予防接種実施率・罹患率

(H30年9月12日)

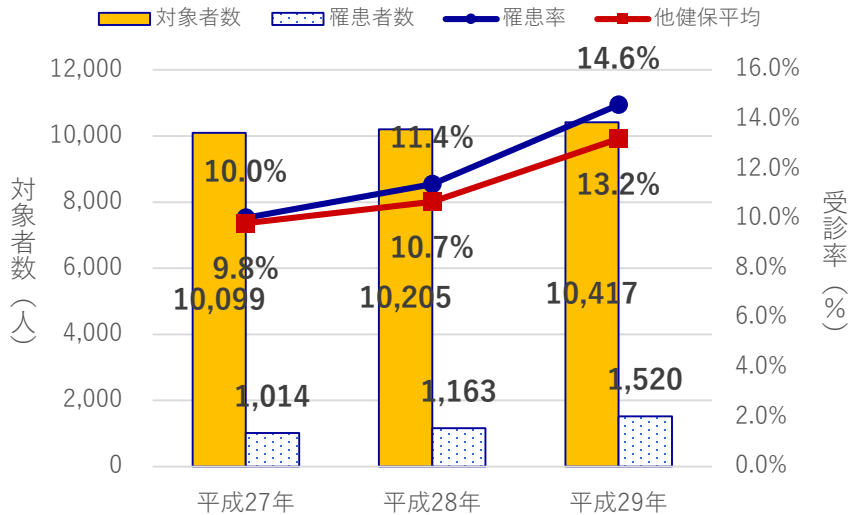


被保険者のインフルエンザ予防接種率は平成29年度に減少し、インフルエンザ罹患率は増加した。この傾向はH28年度と逆であり、この結果からはインフルエンザ予防接種の罹患予防効果についてまだ確認できない。

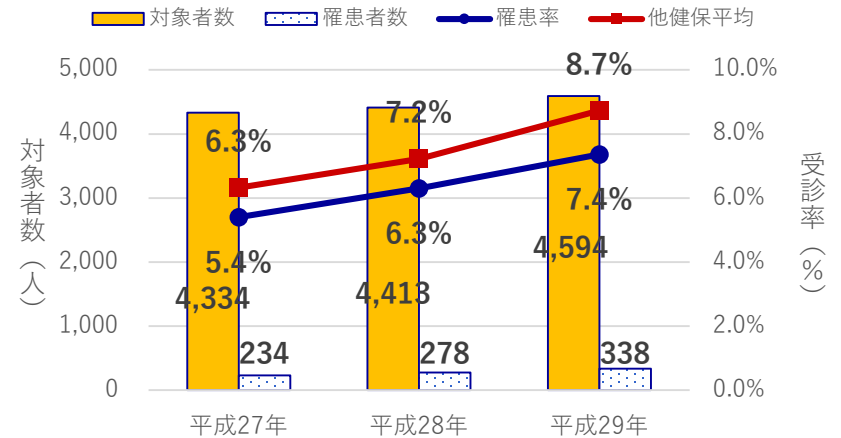
# インフルエンザ罹患率

(H30年9月12日)

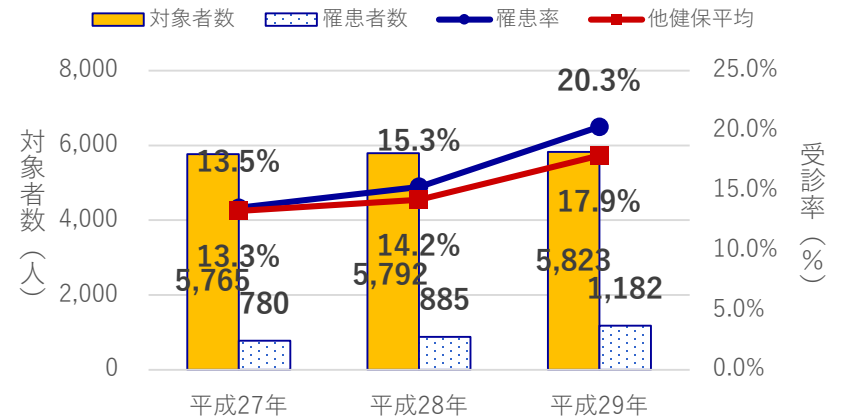
インフルエンザ罹患率  
(加入者全体)



インフルエンザ罹患率  
(被保険者)



インフルエンザ罹患率  
(被扶養者)



インフルエンザ罹患率は年々増加傾向にある。H29年度は、加入者全体の罹患率は他健保平均より1.4%大きい。被保険者は他健保平均より1.3%小さく、被扶養者は他健保平均より2.4%大きい。すなわち、被扶養者の罹患率が高いことが加入者全体の罹患率を大きくしている。

今後、被扶養者の罹患率を如何に減少させるかが課題であるが、現在、被保険者のみを対象としているインフルエンザ予防接種の補助を被扶養者へも展開すべきかの検討も進めていく。

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき課題
1	ア, イ	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。	➔	「内分泌、栄養及び代謝疾患」や「循環器系の疾患」は予防対策が可能であり、健診データからリスク者を把握できるため、今後は生活習慣病予防の対策を講じていく。比較的若い30代から患者数が増加していることをふまえ、早い段階からの対策が必要である⇒加入者への意識付け、重症化予防、特定保健指導等	✓
2	ア, イ	「腎尿路生殖器系の疾患」では腎不全が上位疾病で、他健保と比較して一人当たりの医療費が高い。	➔	腎不全の患者が多いことから、生活習慣病健診（35歳以上が対象）にクレアチニンの検査項目を追加して対策を講じる（平成27年度から実施予定）⇒重症化予防	
3	ウ	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。	➔	平成26年7月から実施している受診勧奨を今後も積極的に行う。⇒受診勧奨の推進	✓
4	エ	埋葬費の支給要因（死亡要因）の第一位（38%）が「悪性新生物（がん）」である。	➔	平成27年度より、自治体が行う各種がん検診を受けた場合、その費用を補助する⇒がんの早期発見	
5	オ	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。	➔	25年度までは18歳以上を対象にジェネリックの差額通知を行っていたが、26年度からは18歳未満も対象に通知を送付。27年度も若年層を含めて幅広く通知を行い、広報誌などで積極的にジェネリック医薬品のPRを行う⇒差額通知、広報活動の強化	

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の拠点が全国にある。</li> <li>30歳代後半から40歳代に加入者構成が偏っている。</li> <li>被保険者は、男性が87%を占めている。</li> <li>健保組合に医療専門職はいない。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所が全国に点在するため、健保組合が加入者に直接働きかけるには労力が必要である。そのため、事業主の協力を得ながら事業を運営することが重要である。</li> <li>将来の加入者構成を考えると、30代後半から40歳代の加入者に対するアプローチが重要である。</li> <li>被保険者は男性が大多数を占めるため、生活習慣病対策を重点的に行う必要がある。</li> <li>健保組合に医療専門職がいなかったが、新たに採用し、事業所の専門職や産業医、外部事業者と連携しながら業務を運営する。</li> </ul>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
-----	----	--	--------------

1

- ・被扶養者の特定健診受診率が低下傾向にある。
- ・特定保健指導の実施率が低い。
- ・人間ドック・PETの受診率が低く、受診者が固定化されている。
- ・電話相談の利用率が低い。
- ・機関誌を家に持ち帰らない社員がいる。



- ・被扶養者の特定健診受診に向けては、健保だけでなく事業主の協力を得ることが重要。26年度までは受診期間を1月末としていたが、27年度からは3月末までに延長する。また、事業所別・エリア別に受診状況を調査し、今後の対策を測る。
- ・27年度からは特定保健指導の対象者を増やして実施率を上げる。
- ・節目健診を推奨するなど、ドックの受診率向上の広報を強化して行う。
- ・電話相談の利用に向けた広報（ホームページ、機関誌等）を強化する。
- ・機関誌の内容を充実させ、持ち帰るように促す。

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

生活習慣病の発生を予防するため、生活習慣病のリスク保有者である特定保健指導対象者の割合を減少させる。

### 事業全体の目標

特定保健指導対象者の割合を10%以下にする。

## 事業の一覧

### 職場環境の整備

- 1 健康管理事業推進合同委員会
- 2 保健事業推進のための各事業所との個別会議

### 加入者への意識づけ

- 1 機関誌発行
- 2 健康保険パンフレットの配布
- 3 ホームページでの情報発信

### 個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
- 4 特定保健指導
- 5 ジェネリック利用促進の通知
- 6 医療費通知
- 7 受診勧奨通知（中・高リスク）
- 8 情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）
- 9 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
- 10 人間ドック
- 11 PET/CT（被保険者）
- 12 インフルエンザ予防接種
- 13 救急医薬品の送付
- 14 体育奨励
- 15 保養所利用補助
- 16 電話健康相談

## 【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進合同委員会		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。	
事業分類	1-ア			
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員	
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業			
実施計画 (平成29年度)	7月に開催する。この中で各事業所における保険事業推進の前年度評価、次年度計画を報告してもらい、全事業所間での意見交換を図る。			
事業目標	<b>アウトプット指標</b> 会議開催（【実績値】1回【目標値】平成29年度：1回）本会議を年1回以上開催。 <b>アウトカム指標</b> 会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)			

2	事業名	保健事業推進のための各事業所との個別会議		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。特に、事業所の個性に応じた議論の場とする。	
事業分類	1-ア			
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 一部の事業所 <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員	
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業			



実施計画 (平成29年度)	規模の大きい主たる 4 事業所と個別会議を開催し、保健事業を推進する基盤を構築する。
事業目標	
アウトプット指標	会議開催（【実績値】 - 【目標値】平成29年度：4事業所）主たる 4 事業所との個別会議を年1回以上開催する。
アウトカム指標	個別会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)

## 【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1 事業名	機関誌発行		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	<p>【目的】 情報発信、健康意識の向上</p> <p>【概要】 機関誌の発行（内容：健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等）</p>
事業分類	2-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>	健保日より発行件数（【実績値】4回【目標値】平成29年度：3回）毎年最低3回発行。		
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)		

2 事業名	健康保険パンフレットの配布		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	<p>【目的】 健康保険の理解促進</p> <p>【概要】 健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。</p>
事業分類	2-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続実施		
事業目標			

**アウトプット指標** 配布率（【実績値】100%【目標値】平成29年度：100%）保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配布する。

**アウトカム指標** 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

3 事業名		ホームページでの情報発信	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】情報発信、健康意識の醸成 【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。
事業分類	2-ア		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	健保HPだけで情報発信するには現状の機能が不足している。H28年度より、新たに健康Web/PepUpを開設し、Webにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>			
健康Webへのアクセス数（【実績値】1,770回【目標値】平成29年度：10,000回）従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月（加入者人数相当）を目指す。当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。			
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

## 【個別の事業】

1	事業名		特定健診（被保険者）
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため</p> <p>【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。（事業所が主体で実施）</p>
事業分類	3-ア		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p><b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		
実施計画 (平成29年度)	継続		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>	健診受診案内発信（【実績値】1件【目標値】平成29年度：1件）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。		
<b>アウトカム指標</b>	健診受診率（【実績値】91.8%【目標値】平成29年度：90.0%）健診受診率90%以上を今後も維持。		

2	事業名		特定健診（被扶養者）
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため</p> <p>【概要】被扶養者の特定健診費用を全額健保で補助し、健診機関窓口での支払いは扶養とする。また、受診促進のため、健保より対象者全員に特定健診案内を郵送し、案内に沿って特定健診を受診してもらう。</p>
事業分類	3-ア		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p><b>資格</b> 被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 全員</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	-		

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	健診受診案内（【実績値】100%【目標値】平成29年度：100%）全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。 受診勧奨（【実績値】0%【目標値】平成29年度：100%）年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により健診の受診勧奨を行う。
<b>アウトカム指標</b>	健診受診率（【実績値】41.1%【目標値】平成29年度：50.0%）健診受診率50%

<b>3事業名</b>	<b>生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）</b>		
<b>健康課題との関連</b>	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。 生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
<b>予算科目</b>	特定健康診査事業	<b>事業の目的 および概要</b>	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP（間接）、眼底検査（医師の指示があった場合）の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。
<b>事業分類</b>	3-ア		
<b>新規・既存区分</b>	既存	<b>対象者</b>	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～39 <b>対象者分類</b> 全員
<b>実施主体</b>	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		
<b>実施計画 (平成29年度)</b>	継続実施		

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	健診受診案内発信（【実績値】1件【目標値】平成29年度：1件）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。
<b>アウトカム指標</b>	健診受診率（【実績値】89.8%【目標値】平成29年度：90%）健診受診率90%以上を今後も維持。

<b>4事業名</b>	<b>特定保健指導</b>		
<b>健康課題との関連</b>	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。 生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
<b>予算科目</b>	特定保健指導事業	<b>事業の目的 および概要</b>	【目的】疾病予防及び健康改善のため 【概要】対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。
<b>事業分類</b>	4-ア		

新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	40～74	対象者分類	基準該当者
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	効果検証の上で継続実施											
事業目標												
<b>アウトプット指標</b> 特定保健指導実施率（【実績値】 - 【目標値】平成29年度：50%）特定保健指導実施率を50%以上にする。												
<b>アウトカム指標</b>												
特定保健指導対象者の割合（【実績値】25.9%【目標値】平成29年度：22.0%）特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させ、5年後には10%以下にする。H29年度は3.9%減の22.0%とする。												

5	事業名	<b>ジェネリック利用促進の通知</b>										
健康課題との関連	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。											
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進 【概要】薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。									
事業分類	8-ウ											
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	0～74	対象者分類	基準該当者
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	①通知発送時期を11月初旬とする。これは、風邪、インフルエンザが流行する直前に通知が届くことを狙ったものである。②効果額等を踏まえ、通知対象者の範囲を拡大する。通知送付基準を見直し、対象者の服薬時期を限定せず、通知直近の1年間に1度でも服薬した人の中で、差額が300円以上ある人を対象として通知する。これにより、通知対象者人数は従来に比べて約2倍に増加する。											
事業目標												
<b>アウトプット指標</b>												
ジェネリック医薬品使用者率（【実績値】43.6%【目標値】平成29年度：50.0%）差額通知の配布者のうちジェネリック医薬品使用者の割合（ジェネリック医薬品使用者率）50%以上。評価時期は年度末（3月）の値とする。												
<b>アウトカム指標</b> ジェネリック医薬品使用割合（【実績値】57.6%【目標値】平成29年度：80.0%）年度末（3月度）におけるジェネリック医薬品使用割合80%以上												

6	事業名	<b>医療費通知</b>										
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。											
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。									



事業分類	2-イ							
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女
実施主体	1. 健保組合		年齢	0～74	対象者分類	全員		
実施計画 (平成29年度)	継続							
事業目標								
<b>アウトプット指標</b> 医療費通知の配布（【実績値】4回【目標値】平成29年度：4回）医療費通知の配布（4回/年）								
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)								

7	事業名	<b>受診勧奨通知（中・高リスク）</b>						
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。							
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療 【概要】検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付（事業所経由または直接自宅に送付）					
事業分類	4-イ							
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者	対象事業所	一部の事業所	性別	男女
実施主体	1. 健保組合		年齢	18～74	対象者分類	基準該当者		
実施計画 (平成29年度)	継続							
事業目標								
<b>アウトプット指標</b>								
通知者の受診率（【実績値】15.3%【目標値】平成29年度：20.0%）健保より受診勧奨通知書を送付している受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率（治療率）を20%以上にする。								
<b>アウトカム指標</b>								
治療放置群の割合（【実績値】14.3%【目標値】平成29年度：10.0%）生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。治療放置群の割合を低減する。治療放置群の基準は、血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上とした。								

8	事業名	<b>情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）</b>						
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。							

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識をの向上 【概要】健診の検査項目が一定基準（低リスク）の該当者に対し、情報提供用紙を送付。H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebによる情報発信に切り替えた。
事業分類	2-ア, 4-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebにより情報発信した。対象は被保険者全員とした。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ、ウォーキングの歩数ランキング等。		

### 事業目標

<b>アウトプット指標</b>	
健康Webによる情報提供の実施（【実績値】 - 【目標値】平成29年度：1件）健康に対する意識向上のため、過去の健診結果、健康リスクに関する情報を提供する機会を設ける。H28年度では、健保HPとは別に、ICTを活用した健康Webを開設し、その中で健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ、ウォーキングの歩数ランキング等の健康情報を掲載し、全被保険者がいつでも自分だけの情報を見れるようにする。	
健康Webへのアクセス数（【実績値】 - 【目標値】平成29年度：10,000回）当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。	
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)

### 9 事業名 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）

健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、H28年度より新たに被保険者を対象にウォーキングイベントを開催したが、H29年度も継続実施する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。最終的には、健康リスクが減少することを期待する。
事業分類	8-ア, 8-イ		
新規・既存区分	新規	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～65 対象者分類 全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業		
実施計画 (平成29年度)	H29年3月から開始。ウォーキング・ラリーという名称で、参加者に日々歩いてもらい、6,000歩または8,000歩以上歩いた人にはインセンティブとして商品と交換できるポイントを付与する。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。歩数はICTを活用してWebに自動的に取り込むことで、手間をかけさせず、同時にルール違反も防止する。		

### 事業目標



### アウトプット指標

参加率（【実績値】 - 【目標値】平成29年度：30.0%）できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたいため、まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、H28年イベント開始からの累積参加率30%を目指す。健診の調査票で運動習慣のなかった人をできるだけ参加させるよう働きかけていく。

### アウトカム指標

特定保健指導対象者の割合（【実績値】25.9%【目標値】平成29年度：22.0%）特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させ、5年後には10%以下にする。H29年度は3.9%減の22.0%とする。

10	事業名	人間ドック	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気の早期発見及び予防 【概要】費用の一部を補助（35歳以上が対象）上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円
事業分類	3-才		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	広報活動の効果測定をした上で継続実施		

### 事業目標

#### アウトプット指標

受診率（【実績値】3.0%【目標値】平成29年度：-%）人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。

#### アウトカム指標

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

11	事業名	PET/CT（被保険者）	
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気の早期発見と予防 【概要】費用の一部補助（35歳以上の被保険者が対象）上限：40,000円
事業分類	3-才		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		

実施計画 (平成29年度)	継続
事業目標	
アウトプット指標	受診率（【実績値】0.3%【目標値】平成29年度：-%）PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。
アウトカム指標	最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)

12	事業名	インフルエンザ予防接種		
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。			
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】インフルエンザの予防 【概要】インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。	
事業分類	-			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成29年度)	効果検証の効果を踏まえて実施			
事業目標				
アウトプット指標	接種率（【実績値】68.0%【目標値】平成29年度：70.0%）予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果が不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。			
アウトカム指標	インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

13	事業名	救急医薬品の送付		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）			
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】病気、ケガの応急処置、健康意識の向上、健康保険組合に対する認知 【概要】健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を無償で提供	
事業分類	8-ア			
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員	
実施主体	1. 健保組合			
実施計画 (平成29年度)	継続実施			

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	送付率（【実績値】100%【目標値】平成29年度：100%）新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく医薬品の入った救急箱を無償で提供する。
<b>アウトカム指標</b>	目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)

14	事業名	<b>体育奨励</b>	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	体育奨励	事業の目的 および概要	【目的】従業員の体力づくり 【概要】会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助（年1回/一人当たり2,000円）
事業分類	8-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続実施		

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	参加者の割合（【実績値】4.6%【目標値】平成29年度：5.0%）会社でのスポーツイベントへの被保険者参加者を毎年5%以上確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年5.0%以上維持。
<b>アウトカム指標</b>	年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。 (アウトカムは設定されていません)

15	事業名	<b>保養所利用補助</b>	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。
事業分類	8-イ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 6～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続実施		

<b>事業目標</b>	
<b>アウトプット指標</b>	利用者の割合（【実績値】9.5%【目標値】平成29年度：10.0%）全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。
<b>アウトカム指標</b>	目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)

16	事業名	電話健康相談	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 こころと体の健康維持 【概要】 健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付
事業分類	6		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	利用率を見ながら継続実施		
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>			
健保HP・健保だより広報（【実績値】2件【目標値】平成29年度：2件）電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に広報する。健保HPへは常時掲載、健保だよりでは最低年1回広報。			
<b>アウトカム指標</b>			
最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

## STEP 4-1 事業報告

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

- 1 健康管理事業推進合同委員会
- 2 保健事業推進のための各事業所との個別会議

#### 加入者への意識づけ

- 1 機関誌発行
- 2 健康保険パンフレットの配布
- 3 ホームページでの情報発信

#### 個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
- 4 特定保健指導
- 5 ジェネリック利用促進の通知
- 6 医療費通知
- 7 受診勧奨通知（中・高リスク）
- 8 情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）
- 9 ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）
- 10 人間ドック
- 11 PET/CT（被保険者）
- 12 インフルエンザ予防接種
- 13 救急医薬品の送付
- 14 体育奨励
- 15 保養所利用補助
- 16 電話健康相談

## 【保健事業の基盤】職場環境の整備

1	事業名	健康管理事業推進合同委員会										
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>											
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち									
事業分類	1-ア	および概要	、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。									
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	0～74	対象者分類	全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	7月に開催する。この中で各事業所における保険事業推進の前年度評価、次年度計画を報告してもらい、全事業所間での意見交換を図る。											
振り返り	実施状況・時期	2017年7月に開催。全事業所の委員が集まり、保健事業推進に関する前年度評価、次年度計画を報告し、意見交換を図った。										
	成功・推進要因	会議に先立ち、評価、計画の必須事項を決め、統一様式での提出を要請した。										
	課題及び阻害要因	特になし。										
予算額	0千円	決算額	0千円	評価	5. 100%							
事業目標												
<b>アウトプット指標</b> 会議開催（【現行値】1回【計画値/実績値】平成29年度：1回/1回 【達成度】100%）本会議を年1回以上開催。[本会議では、すべての事業所が参加し、健康推進に関する前年度実績報告と新年度年間計画の報告を行い、議論した。]												
<b>アウトカム指標</b> 会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)												

2	事業名	保健事業推進のための各事業所との個別会議			
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>				

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	健診結果、レセプト等に基づき各事業所の健康状態を分析した結果について健康保険組合と事業所とが共通認識を持ち、両者が協力して改善のための施策を検討し、保健事業を推進しやすい環境基盤を構築する。特に、事業所の個別性に 応じた議論の場とする。									
事業分類	1-ア											
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b>	被保険者・被扶養者	<b>対象事業所</b>	一部の事業所	<b>性別</b>	男女	<b>年齢</b>	0～74	<b>対象者分類</b>	全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	規模の大きい主たる4事業所と個別会議を開催し、保健事業を推進する基盤を構築する。											
振り返り	<b>実施状況・時期</b>											
	2017年7月から順次4事業所と会議を開催。その後、さらに8事業所と開催。特に、特定保健指導の重要性について議論した。このうち被保険者全体の50%を占める2事業所については、頻繁に会議を開催した。											
	<b>成功・推進要因</b> H28年度から採用した健康保険組合専任の保健師によるマンパワー増強によるところが大きい。											
	<b>課題及び阻害要因</b> 特になし。											
予算額	0千円	決算額	0千円	評価	5. 100%							
事業目標												
<b>アウトプット指標</b>												
会議開催（【現行値】 - 【計画値/実績値】平成29年度：4事業所/12事業所 【達成度】100%）主たる4事業所との個別会議を年1回以上開催する。[遠方の2事業所とは年1回、被保険者全体の50%を占める2事業所とはそれぞれ複数回開催。その他、必要な事業所とも開催。]												
<b>アウトカム指標</b> 個別会議の成果については、各保険事業の成果で確認する。 (アウトカムは設定されていません)												



## 【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1事業名	機関誌発行		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的	【目的】 情報発信、健康意識の向上
事業分類	2-イ	および概要	【概要】 機関誌の発行（内容：健保の運営、収支、保健事業の案内、健康情報の提供等）
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続		
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 機関誌発行 年3回 全社員に会社経由で発行</p> <p><b>成功・推進要因</b> タイムリーな情報提供により健保が実施する保健事業の周知や医療費適正化に役立てている。特に、当組合主催のウォーキングに参加している加入者のインタビューや、持ち回りでの事業所活動紹介など、加入者に関連する記事を常時載せるようにした。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自宅へ持ち帰らない社員がおり、被扶養者の元へ渡らない。</li> <li>・ 広報誌が加入者にどのように受け止められているのかわからない。アンケートを実施しても回答が少ない。</li> <li>・ 有用性を評価する指標が設定しづらい。</li> </ul>		
予算額	2,520 千円	決算額	2,498 千円
		評価	4. 80%以上
事業目標	<p><b>アウトプット指標</b> 健保日より発行件数（【現行値】4回【計画値/実績値】平成29年度：3回/3回 【達成度】100%）毎年最低3回発行。[-]</p> <p><b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)</p>		

2事業名	健康保険パンフレットの配布		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的	【目的】 健康保険の理解促進
事業分類	2-イ	および概要	【概要】 健康保険の資格を取得した被保険者に、健康保険制度や給付内容を記載した冊子を配布。
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員



実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続実施				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	新入社員への発行を4月に行い、その他は随時実施。			
	<b>成功・推進要因</b>	パンフレットの内容を最近の健保状況に合わせて見直した。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	-			
予算額	12千円	決算額	12千円	評価	5. 100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
配布率（【現行値】100%【計画値/実績値】平成29年度：100%/100% 【達成度】100%）保険証発行と同時に、パンフレットを確実に配布する。[健保HPは誰もが閲覧しているとは限らないので、パンフレットは紙媒体で確実に送付することを継続する。]					
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)					

3	事業名	<b>ホームページでの情報発信</b>			
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的	【目的】情報発信、健康意識の醸成		
事業分類	2-ア	おおよび概要	【概要】医療保険制度、保健事業への取組を幅広く提供する。		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者・被扶養者	<b>対象事業所</b> 全て	<b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 0～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	健保HPだけで情報発信するには現状の機能が不足している。H28年度より、新たに健康Web/PepUpを開設し、Webにより情報発信とする。対象は被保険者全員とする。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ等。				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>				
	健保HPはインターネットにて継続公開中。これに加えて、H28年7月より新たに健康Web/PepUp（ペップアップ）を開設し、H29年度月平均のアクセス数が92,959回/月となり、目標の10,000回/月（全加入者数相当）を大きく超えた。				
	<b>成功・推進要因</b>				
健康情報Webでは、各自の健康診断結果、医療費通知、ジェネリック差額通知、ウォーキング・ラリーの歩数、ランキング、また健康に関するいろいろな記事を掲載した。					
<b>課題及び阻害要因</b>					
第一段階として、被保険者にWebに登録してもらう必要があるが、H28年度で約60%だった。また、アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。					

予算額	1,600 千円	決算額	1,019 千円	評価	5 . 100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
<p>健康Webへのアクセス数（【現行値】1,770回【計画値/実績値】平成29年度：10,000回/92,959回 【達成度】100%）従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。毎月の健康Webへのトータルアクセス回数を平均10,000回/月（加入者人数相当）を目指す。当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。[第一段階として、被保険者にWebに登録してもらう必要があるが、H28年度で約60%だった。また、アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。]</p>					
<b>アウトカム指標</b>					
<p>最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区分けが難しい。 (アウトカムは設定されていません)</p>					

## 【個別の事業】

1 事業名		特定健診（被保険者）	
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p> <hr/> <p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的	【目的】生活習慣病の早期発見と健康維持のため
事業分類	3-ア	および概要	【概要】事業主が行う定期健診と併せて実施。（事業所が主体で実施）
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		
実施計画 (平成29年度)	継続		
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> H29年度実績 対象者 2,690名 受診者 2,570名 受診率 95.5%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 事業所の一般健康診断と同時開催。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 現在の状況を維持。</p>		
予算額	887千円	決算額	159千円 評価 5. 100%
事業目標			
<b>アウトプット指標</b>			
健診受診案内発信（【現行値】1件【計画値/実績値】平成29年度：1件/3件 【達成度】100%）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。[事業所への案内を、文書、健保機関誌、健保HPの3通りで実施。]			
<b>アウトカム指標</b> 健診受診率（【現行値】91.8%【計画値/実績値】平成29年度：90.0%/95.5% 【達成度】100%）健診受診率90%以上を今後も維持。[-]			
2 事業名		特定健診（被扶養者）	

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため 【概要】被扶養者の特定健診費用を全額健保で補助し、健診機関窓口での支払いは扶養とする。また、受診促進のため、健保より対象者全員に特定健診案内を郵送し、案内に沿って特定健診を受診してもらう。
事業分類	3-ア	対象者	<b>資格</b> 被扶養者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 40～74 <b>対象者分類</b> 全員
新規・既存区分	既存(法定)		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	-		
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> H29年度実績 対象者 1,286名 受診者 571名 受診率 44.4%</p> <p><b>成功・推進要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診券送付後、一定期間受診のなかった方に対して受診勧奨のハガキを送付。</li> <li>・パート先等で健診を受診した場合、健診結果を送ってくれた人に対して粗品を贈呈。</li> <li>・事業主にも広報資料を配布して協力の呼びかけ。</li> </ul> <p><b>課題及び阻害要因</b> 特定健診受診の必要性を地道に訴えていくことが必要。これには、インセンティブの活用を検討する。</p>		
予算額	10,471 千円	決算額	4,449 千円
		評価	2. 40%以上
事業目標	<p><b>アウトプット指標</b></p> <p>健診受診案内（【現行値】100%【計画値/実績値】平成29年度：100%/100% 【達成度】100%）全被扶養者に対して健康診断案内を直接郵送。[開封してもらうために、封筒の色をピンクにし、健康保険組合名を大きく表示した。]</p> <p>受診勧奨（【現行値】0%【計画値/実績値】平成29年度：100%/100% 【達成度】100%）年度末2か月前までに、未受診者に対してはがきと電話により健診の受診勧奨を行う。[はがきに目を通してもらうために、デザインを工夫した。]</p> <p><b>アウトカム指標</b> 健診受診率（【現行値】41.1%【計画値/実績値】平成29年度：50.0%/44.4% 【達成度】88.8%）健診受診率50%[-]</p>		

3事業名	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）
------	---------------------

健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
	<p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の予防と医療費適正化のため
事業分類	3-ア		【概要】35歳以上の被保険者に対し、特定健診質問票、HbA1c、尿酸値、便潜血、胃部XP（間接）、眼底検査（医師の指示があった場合）の補助を実施。また、一部項目の再検査費用を健保が負担。
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～39 対象者分類 全員
実施主体	2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用		
実施計画 (平成29年度)	継続実施		
振り返り	<p><b>実施状況・時期</b> 【生活習慣病健診】（35～39歳） 対象者 634名 受診者 611名 受診率 96.4%</p> <p><b>成功・推進要因</b> 一般健康診断と一緒に受診できる。</p> <p><b>課題及び阻害要因</b> 現在の状況を維持。</p>		
予算額	19,430 千円	決算額	1,226 千円 評価 5. 100%
<b>事業目標</b>			
<b>アウトプット指標</b>			
健診受診案内発信（【現行値】1件【計画値/実績値】平成29年度：1件/1件 【達成度】100%）各事業所に対して健診受診率向上のための要請を行う。文書による通知とWebによる掲示を行う。[-]			
<b>アウトカム指標</b> 健診受診率（【現行値】89.8%【計画値/実績値】平成29年度：90%/96.4% 【達成度】100%）健診受診率90%以上を今後も維持。[-]			

4 事業名	<b>特定保健指導</b>		
健康課題との関連	<p>一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。</p> <p>「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。</p> <p>A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。</p>		
	<p>生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。</p>		
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】疾病予防及び健康改善のため
事業分類	4-ア		【概要】対象者を抽出後、事業所と連携を取りながら集団で保健指導を実施。

新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	40～74	対象者分類	基準該当者
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	効果検証の上で継続実施											
振り返り	<b>実施状況・時期</b>		<p>【動機付け支援】 対象者 243名 実施者数 130名 実施率 53.5%</p> <p>【積極的支援】 対象者数 372名 実施者数 225名 実施率 60.5%</p> <p>【全体】 対象者数 615名 実施者数 355名 実施率 57.7%</p>									
	<b>成功・推進要因</b>		<p>健保専属の保健師を1名配属し、特定保健指導の推進に注力させた。また、各事業所の経営トップ層、推進担当者を通じて対象者への働きかけを強化した。特に、各事業所の経営会議で人事部門責任者から特定保健指導の重要性を説明し、実施率の向上を働きかけたことが奏功した。</p>									
	<b>課題及び阻害要因</b>		<p>実施率をさらに向上を継続的に図ると共に、特定保健指導対象者を減少させることにも注力する。</p>									
予算額	14,158 千円	決算額	9,892 千円	評価	4. 80%以上							
<b>事業目標</b>												
<b>アウトプット指標</b>		<p>特定保健指導実施率（【現行値】 - 【計画値/実績値】平成29年度：50%/57.7% 【達成度】100%）特定保健指導実施率を50%以上にする。[-]</p>										
<b>アウトカム指標</b>		<p>特定保健指導対象者の割合（【現行値】25.9%【計画値/実績値】平成29年度：22.0%/19.6% 【達成度】100%）特定保健指導の効果により、特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させ、5年後には10%以下にする。H29年度は3.9%減の22.0%とする。[第一段階の成果として、特定保健指導の実施者のうち約70%の体重が減少し、約60%の腹囲が減少した。]</p>										

5事業名	<b>ジェネリック利用促進の通知</b>											
健康課題との関連	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。											
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的	【目的】ジェネリック医薬品の利用促進									
事業分類	8-ウ	および概要	【概要】薬の削減効果が一定額以上見込まれる対象者に、差額通知を送付。									
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	0～74	対象者分類	基準該当者
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	<p>①通知発送時期を11月初旬とする。これは、風邪、インフルエンザが流行する直前に通知が届くことを狙ったものである。②効果額等を踏まえ、通知対象者の範囲を拡大する。通知送付基準を見直し、対象者の服薬時期を限定せず、通知直近の1年間に1度でも服薬した人の中で、差額が300円以上ある人を対象として通知する。これにより、通知対象者人数は従来に比べて約2倍に増加する。</p>											



振り返り	<b>実施状況・時期</b>	H29年12月ジェネリック通知送付 通知対象者人数 2,085名 (H28年8月～H29年7月の薬品購入者で差額効果が300円以上の者) ①使用者／服薬者 H30年3月末：496人/1,102人 (使用率45.0%) ②ジェネリック使用割合 H30年3月末：74.9% ③通知者の削減額 (H29年12月～H30年3月) 4,255千円 (GE使用者当たり7,940円)
	<b>成功・推進要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通知対象者の抽出期間を1年間とし、対象者数を約2倍に増やした。</li> <li>・対象者の自宅宛に直接送付。</li> <li>・封筒に健保のメッセージを表示。</li> <li>・通知文書に「ジェネリックお願いシール」を同封し、診察券や保険証に貼ってもらうよう促した。</li> <li>・保険証発行の都度、お願いシールを同封。</li> </ul>
	<b>課題及び阻害要因</b>	使用割合は順調に増加。

予算額	800 千円	決算額	506 千円	評価	4. 80%以上
-----	--------	-----	--------	----	----------

### 事業目標

#### アウトプット指標

ジェネリック医薬品使用者率 (【現行値】43.6%【計画値/実績値】平成29年度：50.0%/45.0% 【達成度】90.0%) 差額通知の配布者のうちジェネリック医薬品使用者の割合 (ジェネリック医薬品使用者率) 50%以上。評価時期は年度末 (3月) の値とする。

[H28年度の評価対象通知発行時期としては、風邪が流行する前である12月とした。]

#### アウトカム指標

ジェネリック医薬品使用割合 (【現行値】57.6%【計画値/実績値】平成29年度：80.0%/74.9% 【達成度】93.6%) 年度末 (3月度) におけるジェネリック医薬品使用割合80%以上[H29年3月度のジェネリック医薬品使用率は、H26年3月度に比べ、17.3%増加。]

## 6 事業名 医療費通知

一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。  
「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。  
A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識の向上と不正請求の防止。 【概要】3ヶ月毎に世帯ごとの医療費を事業主を経由して送付。
事業分類	2-イ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 全員
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続		

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	年間概算発行数 被保険者向け3,663通×年4回発行=14,652通			
	<b>成功・推進要因</b>	-			
	<b>課題及び阻害要因</b>	事業所を経由して配布しているため、加入者の多い事業所は配布に時間がかかる。その結果、加入者にとっては数か月前の医療費情報が届くことになり、タイムラグが大きくなってしまう。			
予算額	350千円	決算額	366千円	評価	5.100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>	医療費通知の配布（【現行値】4回【計画値/実績値】平成29年度：4回/4回 【達成度】100%）医療費通知の配布（4回/年） [医療費通知は、従来の紙媒体に加えて、2017年11月よりWebでいつでも見れるようにした。]				
<b>アウトカム指標</b>	最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。 (アウトカムは設定されていません)				

7事業名	<b>受診勧奨通知（中・高リスク）</b>											
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。											
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の重症化予防と早期治療 【概要】検査項目が基準に該当した未治療者に対し、健保と事業所が連名で受診勧奨の文書を送付（事業所経由または直接自宅に送付）									
事業分類	4-イ		対象者	<b>資格</b>	被保険者	<b>対象事業所</b>	一部の事業所	<b>性別</b>	男女	<b>年齢</b>	18～74	<b>対象者分類</b>
新規・既存区分	既存											
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	継続											
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	対象者 20名 受診者 13名 受診率 65.0% 未受診者についても、健保所属保健師より電話で連絡を取り、次回健診後に受診することを約束した。										
	<b>成功・推進要因</b>	健保と事業所の連名で送付したため、強制力が強く働いた。また、健保所属保健師より電話でも受診勧奨した。										
	<b>課題及び阻害要因</b>	保健師からの電話で受診しなければならないことを理解してもらえが、すぐに受診してもらうまでには至っていない。事業所による強制的措置が必要。										
予算額	2,000千円	決算額	13千円	評価	4.80%以上							
事業目標												



### アウトプット指標

通知者の受診率（【現行値】15.3%【計画値/実績値】平成29年度：20.0%/65.0% 【達成度】100%）健保より受診勧奨通知書を発送している受診勧奨対象者に対して、受診勧奨通知後の受診率（治療率）を20%以上にする。[脂質異常の対象者は、受診しても医者からは経過観察とされることが多く、受診しても改善効果は疑問がある。むしろ、そういう対象者には保健指導を行った方がよいと考えられるため、H29年度からは脂質異常の対象者は特定保健指導の対象に位置づけた。]

### アウトカム指標

治療放置群の割合（【現行値】14.3%【計画値/実績値】平成29年度：10.0%/1.7% 【達成度】100%）生活習慣病の治療放置による重症化を防ぐ。治療放置群の割合を低減する。治療放置群の基準は、血糖：200mg/dl以上又はHbA1c8.0%以上、血圧：100又は160mmHg以上とした。[-]

8事業名	情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）				
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】健康意識をの向上		
事業分類	2-ア,4-イ		【概要】健診の検査項目が一定基準（低リスク）の該当者に対し、情報提供用紙を送付。H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebによる情報発信に切り替えた。		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 基準該当者		
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	H28年度より、紙媒体を止めて、ICTを活用しWebにより情報発信した。対象は被保険者全員とした。提供情報としては、健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ、ウォーキングの歩数ランキング等。				
振り返り	<b>実施状況・時期</b> H29年度はH28年度に引き続き健康Webを運営し、Web上で各自の健康状態を始め、種々の健康情報を発信した。H29年度における健康Webへの全アクセス数は、月平均92,959回/月で、目標の10,000回/月（全加入者数相当）を大きく上回った。				
	<b>成功・推進要因</b> 健診結果を経年でグラフ化。健康リスク度をポイント化して掲載するなど、わかりやすい内容にして送付。さらに、H29年11月より、医療費通知、ジェネリック差額通知、健康クイズも掲載を開始した。				
	<b>課題及び阻害要因</b> 健康Webへのアクセス数を維持するために、如何に内容を充実させ、飽きさせないかを常に考える必要がある。				
予算額	878 千円	決算額	437 千円	評価	4. 80%以上
事業目標					

### アウトプット指標

健康Webによる情報提供の実施（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：1件/1件 【達成度】100%）健康に対する意識向上のため、過去の健診結果、健康リスクに関する情報を提供する機会を設ける。H28年度では、健保HPとは別に、ICTを活用した健康Webを開設し、その中で健診結果（経年）、健康リスク、改善対策、健康年齢（健診結果を分かりやすく年齢で表したオリジナル指標）、健康に関する啓蒙記事、健保からのお知らせ、ウォーキングの歩数ランキング等の健康情報を掲載し、全被保険者がいつでも自分だけの情報を見れるようにする。[-]

健康Webへのアクセス数（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：10,000回/92,959回 【達成度】100%）当健保オリジナルの健康Webへアクセスしてもらうことが、被保険者のヘルスリテラシーを向上につながると考え、指標としては健康Webへの毎月のアクセス数（全アクセス数）とし、目標は月平均10,000回（全加入者数相当）とする。従来の健保HPだけでは、アクセス数が月平均1,500回程度。[第一段階として、被保険者にWebに登録してもらう必要があるが、H29年度末で61%だった。また、アクセス数は一過性では意味がなく、継続的に一定回数を確保できることが重要。H29年度における健康Webへの全アクセス数は、月平均92,959回/月を達成した。（全加入者数の9倍）]

### アウトカム指標

最終的な目的はヘルスリテラシーの向上であるが、その効果について他の事業との区別が難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

9 事業名	ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）				
健康課題との関連	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	体育奨励事業では運動習慣の定着が難しいため、H28年度より新たに被保険者を対象にウォーキングイベントを開催したが、H29年度も継続実施する。これにより、被保険者の運動習慣を身に着けるきっかけとしてもらうことを目的とする。最終的には、健康リスクが減少することを期待する。		
事業分類	8-ア,8-イ				
新規・既存区分	新規	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～65 <b>対象者分類</b> 全員		
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業				
実施計画 (平成29年度)	H29年3月から開始。ウォーキング・ラリーという名称で、参加者に日々歩いてもらい、6,000歩または8,000歩以上歩いた人にはインセンティブとして商品と交換できるポイントを付与する。参加者には無料で活動量計を配って参加者を募り、また日々歩いた者にはポイントを付与してウォーキング継続の推進力とする。歩数はICTを活用してWebに自動的に取り込むことで、手間をかけさせず、同時にルール違反も防止する。				
振り返り	<b>実施状況・時期</b>				
	H28年9月から開始。2年間の累積参加者数は1,390人（被保険者の31.1%）と順調な参加率であった。インセンティブとしての歩数に応じたポイント獲得率も、月平均50%以上確保され、半数以上の人が継続的にウォーキングしていることが確認された。				
	<b>成功・推進要因</b> インセンティブとして、無料で活動量計を支給し、また日々歩いた人にはポイントを付与したこと、Webを活用して記録に手間をかけさせずにできたことが成功要因と思われる。				
	<b>課題及び阻害要因</b> 今後さらに参加者を増やしていく。				
予算額	16,000 千円	決算額	4,166 千円	評価	5. 100%
事業目標					

**アウトプット指標**

参加率（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：30.0%/31.1% 【達成度】 103.7%）できるだけ多くの人に参加してもらい、生活習慣改善の行動変容の機会にしてもらいたいため、まず第一に参加者の確保が重要。目標としては、H28年イベント開始からの累積参加率30%を目指す。健診の調査票で運動習慣のなかった人をできるだけ参加させるよう働きかけていく。[今後、インセンティブの方法、イベントのルールに飽きさせない工夫が必要。また、不参加者を引き込むための工夫も必要。]

**アウトカム指標**

特定保健指導対象者の割合（【現行値】 25.9%【計画値/実績値】 平成29年度：22.0%/19.6% 【達成度】 100%）特定保健指導対象者の割合を前年度より減少させ、5年後には10%以下にする。H29年度は3.9%減の22.0%とする。[-]

10	事業名	<b>人間ドック</b>										
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。											
予算科目	疾病予防	事業の目的	【目的】 病気の早期発見及び予防									
事業分類	3-オ	および概要	【概要】 費用の一部を補助（35歳以上が対象）上限：被保険者25,000円、被扶養配偶者20,000円									
新規・既存区分	既存	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	35～74	対象者分類	全員
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	広報活動の効果測定をした上で継続実施											
振り返り	実施状況・時期	対象者数 5,057名 受診者数 161名 受診率 3.2%										
	成功・推進要因	-										
	課題及び阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診率が低く、新規受診者も少ない。</li> <li>今後、ABC検診後の内視鏡検査実施と合わせて、人間ドックを年齢の節目で行う制度を検討していく。</li> </ul>										
予算額	9,500 千円	決算額	3,575 千円			評価	5. 100%					

**事業目標****アウトプット指標**

受診率（【現行値】 3.0%【計画値/実績値】 平成29年度：-/3.2% 【達成度】 -%）人間ドックは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。[希望者に補助は行うが、受診の促進は行わなかった。]

**アウトカム指標**

最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。  
(アウトカムは設定されていません)

11	事業名	<b>PET/CT（被保険者）</b>
----	-----	---------------------

健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 病気の早期発見と予防 【概要】 費用の一部補助（35歳以上の被保険者が対象） 上限：40,000円
事業分類	3-オ		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 35～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続		
振り返り	<b>実施状況・時期</b> 対象者数 3,430名 受診者数 16名 利用率 0.5%  <b>成功・推進要因</b> -  <b>課題及び阻害要因</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率が低い。</li> <li>・費用が高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭である。現状維持で十分。</li> </ul>		
予算額	6,000 千円	決算額	640 千円 <b>評価</b> 5. 100%
<b>事業目標</b>			
<b>アウトプット指標</b>			
受診率（【現行値】0.3%【計画値/実績値】平成29年度：-/0.5%【達成度】-%）PET/CTは高額であり、また費用に対する疾病予防効果も不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しい。[希望者に補助は行うが、受診の促進は行わなかった。]			
<b>アウトカム指標</b> 最終的な目的は疾病予防であるが、その評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

12 事業名	<b>インフルエンザ予防接種</b>		
健康課題との関連	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖器系の疾患」が他の健康保険組合より高い。 「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。 A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 インフルエンザの予防 【概要】 インフルエンザ予防接種を受けた被保険者に対し、上限2,000円まで補助金を支給。
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
実施主体	1. 健保組合		

実施計画 (平成29年度)	効果検証の効果を踏まえて実施		
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	被保険者数 4,406名 接種者 2,722名 利用率 61.8%	
	<b>成功・推進要因</b>	人数の多い事業所では勤務時間内に集団接種を実施しており、利用しやすい状況であった。	
	<b>課題及び阻害要因</b>	インフルエンザ予防接種による費用対効果ははっきりとわからない。他の予防措置として、罹患時の就業制限徹底、うがいの励行、マスク着用励行等があり、これらは事業所が既に実施している。	
予算額	12,000 千円	決算額	8,166 千円
		評価	5 . 100%
<b>事業目標</b>			
<b>アウトプット指標</b>			
接種率（【現行値】68.0%【計画値/実績値】平成29年度：70.0%/59.1% 【達成度】84.4%）予防接種時のリスクに対して、疾病予防効果が不明瞭であるため、受診率の目標値を設定するのは難しいが、目安として予防接種の接種率70%以上を目標にする。[今後も接種率70%維持を目標とする。]			
<b>アウトカム指標</b> インフルエンザ罹患者の減少、インフルエンザ拡大の防止を図るのが目的であるが、予防手段として予防接種だけでは不十分なため評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)			

13事業名	<b>救急医薬品の送付</b>		
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 病気、ケガの応急処置、健康意識の向上、健康保険組合に対する認知 【概要】 健康保険の資格取得者に医薬品の入った救急箱を無償で提供
事業分類	8-ア	対象者	<b>資格</b> 被保険者 <b>対象事業所</b> 全て <b>性別</b> 男女 <b>年齢</b> 18～74 <b>対象者分類</b> 全員
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	継続実施		
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	配布者 283名	
	<b>成功・推進要因</b>	-	
	<b>課題及び阻害要因</b>	-	
予算額	380 千円	決算額	877 千円
		評価	5 . 100%
<b>事業目標</b>			
<b>アウトプット指標</b>			
送付率（【現行値】100%【計画値/実績値】平成29年度：100%/100% 【達成度】100%）新たに健康保険の資格取得者になった者に漏れなく医薬品の入った救急箱を無償で提供する。[-]			
<b>アウトカム指標</b> 目的は健康意識の向上と健保の認知であるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)			



14	事業名	体育奨励			
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）				
予算科目	体育奨励	事業の目的 および概要	【目的】従業員の体力づくり 【概要】会社で行われる運動会等のスポーツイベントに対する費用補助（年1回/一人当たり2,000円）		
事業分類	8-イ	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続実施				
振り返り	実施状況・時期 対象者 4,406名 実施者 461名 利用率 10.5%				
	成功・推進要因 従業員の体力づくりだけでなく、従業員同士の交流にもなっている。				
	課題及び阻害要因 運動会自体の開催が少ないため、例年利用率が低い。				
予算額	3,000 千円	決算額	461 千円	評価	5. 100%
事業目標					
アウトプット指標					
参加者の割合（【現行値】4.6%【計画値/実績値】平成29年度：5.0%/10.5% 【達成度】210.0%）会社でのスポーツイベントへの被保険者参加者を毎年5%以上確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年5.0%以上維持。[現状のスポーツイベントは、年に1度程度の単発的なものなので、運動習慣の定着の目的にはそぐわない。むしろ、この目的はメンタルのリフレッシュと位置づける。運動習慣の定着は、他の事業に委ねる。]					
アウトカム指標 年に1回程度のイベント参加で運動習慣等の定着にはなりにくい。むしろ、他の事業で評価する。 (アウトカムは設定されていません)					

15	事業名	保養所利用補助			
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）				
予算科目	直営保養所	事業の目的 および概要	【目的】加入者の心身のリフレッシュ 【概要】日本国内の保養所を利用した場合、年度内1回に限り費用を補助。		
事業分類	8-イ	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 6～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	継続実施				

振り返り	<b>実施状況・時期</b>	対象者 9,862名 利用者 1,221名 利用率 12.4%			
	<b>成功・推進要因</b>	全国すべての宿泊施設が対象となる。リピーターが多い。補助金の制度について周知が不足していると考え、H29年1月発行の健保だよりから保険事業一覧表（補助金額も記載）を大きく掲載することにした。これにより、利用率が若干増加した。			
	<b>課題及び阻害要因</b>	補助金が支給されることを知らない人がいるため、周知のために、継続的に健保だよりに保険事業一覧表を掲載する必要がある。			
予算額	4,200 千円	決算額	4,237 千円	評価	5 . 100%
事業目標					
<b>アウトプット指標</b>					
利用者の割合（【現行値】9.5%【計画値/実績値】平成29年度：10.0%/12.4% 【達成度】124.0%）全加入者に対する利用者の割合を毎年一定数確保し、心身のリフレッシュを図ってもらう。毎年10.0%以上維持。[加入者全体の1割以上の人に利用してもらえれば十分と考える。]					
<b>アウトカム指標</b>					
目的は、加入者の心身のリフレッシュであるが、本事業による単独評価は難しい。 (アウトカムは設定されていません)					

16	事業名	<b>電話健康相談</b>										
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）											
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 ころと体の健康維持 【概要】 健康・介護・育児など心身に関わる悩みを電話やメール等で相談受付									
事業分類	6	対象者	資格	被保険者・被扶養者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	0～74	対象者分類	全員
新規・既存区分	既存		実施主体	1. 健保組合								
実施計画 (平成29年度)	利用率を見ながら継続実施											
振り返り	<b>実施状況・時期</b>	からだの相談件数 80件 こころの相談件数 59件										
	<b>成功・推進要因</b>	健保だよりやホームページ等で相談窓口の広報をした。										
	<b>課題及び阻害要因</b>	相談件数が多ければよいというわけではないが、まだまだ需要はあると思うので、H28年1月以降の健保だよりに保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図った。										
予算額	2,800 千円	決算額	1,123 千円	評価	4 . 80%以上							
事業目標												

#### アウトプット指標

健保HP・健保だより広報（【現行値】2件【計画値/実績値】平成29年度：2件/2件 【達成度】100%）電話健康相談を有効に活用してもらうため、健保HP・健保だより等で定期的に広報する。健保HPへは常時掲載、健保だよりでは最低年1回広報。[H28年1月以降の健保だよりに保険事業一覧表を掲載し、他の保険事業と合わせて周知を図った。]

#### アウトカム指標

最終的な目的は疾病の防止にであるが、電話相談の直接的な目的は健康上の問題に対して適切な助言を受けてもらうことにあり、その効果について他の事業との区別が難しい。  
(アウトカムは設定されていません)



## STEP 4-2 期末評価

### 事業全体の目的と目標の確認

事業全体の目的	生活習慣病の発生を予防するため、生活習慣病のリスク保有者である特定保健指導対象者の割合を減少させる。
事業全体の目標	特定保健指導対象者の割合を10%以下にする。

### 健康課題ごとの振り返り

1	一人当たり医療費は、予防対策が可能なもので「内分泌、栄養及び代謝疾患」が特に高く、続いて「循環器系の疾患」が高い。また、「腎尿路生殖系系の疾患」が他の健康保険組合より高い。「内分泌、栄養及び代謝疾患」を詳しくみると、「代謝障害」「糖尿病」が上位に。「循環器系の疾患」では「高血圧」が上位に。A～Dのグラフで医療費の高い生活習慣病の実患者数を年齢別・男女別にみると、当健保では総じて男性の実患者数が多く、30代～40以降になるにつれて実患者数が増加している。
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	総医療費、加入者一人当たり医療費のいずれも、H29年度では増加が抑制された。診療報酬改定、加入者の高齢化が進む中、この結果は評価できる。成功要因としては、H28年度より、特定保健指導の積極実施、健康情報Webサイトの開設、ウォーキングイベントの開催等を上げることができる。
対策の達成度	A	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	健康管理事業推進合同委員会	会議開催	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
2	保健事業推進のための各事業所との個別会議	会議開催	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
3	機関誌発行	健保日より発行件数	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
4	健康保険パンフレットの配布	配布率	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
5	ホームページでの情報発信	健康Webへのアクセス数	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
6	特定健診（被保険者）	健診受診案内発信	-%	100%	100%	健診受診率	-%	100%	100%
7	特定健診（被扶養者）	健診受診案内	-%	100%	100%	健診受診率	-%	84.0%	88.8%
		受診勧奨	-%	100%	100%				
8	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）	健診受診率	-%	100%	-	治療放置群の割合	-%	78.7%	-
		健診受診案内発信	-%	-	100%	健診受診率	-%	-	100%
9	特定保健指導	特定保健指導実施率	-%	100%	100%	治療放置群の割合	-%	78.7%	-
						特定保健指導対象者の割合	-%	-	100%
10	医療費通知	医療費通知の配布	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
11	情報提供用紙（ポピュレーション・アプローチ）	情報提供の実施	-%	100%	-	設定なし	-	-	-
		健康Webへのアクセス数	-%	100%	100%				
		健康Webによる情報提供の実施	-%	-	100%				
12	人間ドック	受診率	-%	-%	-%	設定なし	-	-	-
13	PET/CT（被保険者）	受診率	-%	-%	-%	設定なし	-	-	-
14	インフルエンザ予防接種	接種率	-%	100%	84.4%	設定なし	-	-	-

2	「腎尿路生殖系系の疾患」では腎不全が上位疾病で、他健保と比較して一人当たりの医療費が高い。
---	-----------------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	ICD10分類における腎尿路生殖系系の疾患に関しては、H28年度以降、医療費が他健保平均を下回ることができた。また、医療費ワーストワンである、呼吸器系疾患、消化器系疾患、内分泌・栄養及び代謝疾患において、いずれも健保平均を下回ることができた。成功要因としては、H28年度より、特定保健指導の積極実施、健康情報Webサイトの開設、ウォーキングイベントの開催等を上げることができる。
対策の達成度	A	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度		
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度

3	生活習慣病における治療放置群の割合が他の健保と比較して3.3%高い。
---	------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	生活習慣病における治療放置群の割合を1.4%まで下げることができ、他健保平均と同程度までとなった。また、健康リスク分析の結果、当健保の正常者の割合は他健保より多く、かつ生活習慣病、重症化の割合は逆に少ない状態を達成できた。これは、健保から対象者への受診勧奨通知の発行、また、健康管理事業推進合同会議等を通じて、事業所の健康管理担当部門より積極的に受診勧奨することを推進した結果と考えられる。
対策の達成度	A	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	健康管理事業推進合同委員会	会議開催	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
2	保健事業推進のための各事業所との個別会議	会議開催	-%	100%	100%	設定なし	-	-	-
3	特定健診（被保険者）	健診受診案内発信	-%	100%	100%	健診受診率	-%	100%	100%
4	特定健診（被扶養者）	健診受診案内	-%	100%	100%	健診受診率	-%	84.0%	88.8%
		受診勧奨	-%	100%	100%				
5	生活習慣病健診（35歳以上の被保険者）	健診受診率	-%	100%	-	治療放置群の割合	-%	78.7%	-
		健診受診案内発信	-%	-	100%	健診受診率	-%	-	100%
6	特定保健指導	特定保健指導実施率	-%	100%	100%	治療放置群の割合	-%	78.7%	-
						特定保健指導対象者の割合	-%	-	100%
7	受診勧奨通知（中・高リスク）	通知者の受診率	-%	100%	100%	治療放置群の割合	-%	78.7%	100%
8	ウォーキングイベント（ポピュレーション・アプローチ）	参加率	-%	58.3%	103.7%	治療放置群の割合	-%	78.7%	-
						特定保健指導対象者の割合	-%	-	100%

4	埋葬費の支給要因（死亡要因）の第一位（38%）が「悪性新生物（がん）」である。
---	-----------------------------------------

健康課題の解決度	C	評価理由	がんの要因を生活習慣病の発生と捉えて、生活習慣病予防のための活動に重点をおいて進めてきたが、がん予防の成果については評価するのが難しい。一方、がん予防のための施策としては、H30年度よりがん検診としてABC検診、内視鏡検査の推進を開始した。成果の評価には時間がかかるが、継続的にモニタリングを進める予定である。
対策の達成度	C	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度		
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度

5	年代別のジェネリック医薬品利用率（数量ベース）では、20代以下の被扶養者の利用率が低い。
---	----------------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	H29年度での月毎のジェネリック医薬品利用率をMax.77.1%まで向上させることができた。これは、ジェネリック医薬品差額通知書の送付対象者の割合を段階的に拡大し、最終的に加入者の20%まで増やしたことで、また、被保険者宛に医療費通知と共にEメールで配信するなど、ジェネリック利用に関心をもってもらう施策が功を奏したと考えられる。
対策の達成度	A	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	ジェネリック利用促進の通知	ジェネリック医薬品利用者率	-%	84.5%	90.0%	ジェネリック医薬品使用割合	-%	89.1%	93.6%

## 健康課題と紐付いていない事業一覧

該当なし（これまでの経緯で実施する事業）									
番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	救急医薬品の送付	送付率	-%	100%	100%	設定なし		-	-
2	体育奨励	参加者の割合	-%	90.0%	210.0%	設定なし		-	-
3	保養所利用補助	利用者の割合	-%	100%	124.0%	設定なし		-	-
4	電話健康相談	健保HP・健保だより広報	-%	100%	100%	設定なし		-	-

該当なし									
番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度

## 第1期のデータヘルス計画への取り組みに対する振り返り

No	設問	回答		評価理由（成功要因や阻害要因など）
		←全くなかった	よくできた→	
1	STEP1-3基本分析において、自組合集団としての健康状態を客観的に可視化出来たか？			健保専属の保健師を採用し、健診結果、レセプトデータを分析できるアプリケーションを導入することで健康状態をビジュアル化することができた。
2	STEP2健康課題の抽出において、適切に健康課題を抽出することが出来たか？			試行錯誤しながらではあるが、現在の増強されたリソースで可能な限りの健康課題を抽出することができた。
3	STEP2健康課題の抽出において、優先すべき健康課題や対策の方向性を的確に定めることが出来たか？			当組合の分析結果と他健保との意見交換により、優先すべき課題を抽出できた。
4	STEP3 保健事業の実施計画において、事業全体の目的や目標を適切に掲げることが出来たか？			当組合の分析結果と他健保との意見交換により、目的、目標を決定することができた。
5	STEP3 保健事業の実施計画において、「保健事業の基盤」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？			事業所とのコラボヘルスは非常に重要で、そのための基盤として、健康管理事業推進合同委員会の開催を推進の中心と位置付けた。
6	STEP3 保健事業の実施計画において、「個別の事業」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？			基本分析に基づき、直接的に健康増進に影響を及ぼす事業を優先的に行うよう考慮した。
7	STEP4-1 事業報告において、年次の事業進捗やアウトプット、アウトカムを評価することが出来たか？			健康増進に直接影響を及ぼす事業にはアウトカムを設定し、そうでないものについては設定しなかった。ただし、複数の事業のアウトカムが同じ場合、それらを区別することは今後の課題である。
8	STEP4-1 事業報告を理事会や組合会での報告に活用し、次年度の事業計画に活用することが出来たか？			保健事業については、理事会、特に組合会で報告し、議論により健保の事業計画の適切な方向性について定めることができた。

## 事業全体の達成状況に関する総括（自由記述）

第1期データヘルス計画は試行錯誤の連続であった。平成28年度頃より、厚生労働省、健保連等からの指針、提案により、ICTを活用した健康情報の提供や、ポピュレーションアプローチとしてウォーキングイベントを盛大に開催するなど、ヘルスリテラシーの向上に役立つ種々の事業をコラボヘルスで開催することができた。また、健保専属の保健師を1名採用することにより、平成29年度から本格的に特定保健指導を実施することができ、大きな成果が得られた。これと並行して、平成29年度には事業所本体がホワイト500の認定を受け、事業所全体に一気に健康増進の機運が広がったことが、各種保健事業の活性化につながったと考えられる。平成30年度以降の第2次データヘルス計画では、保健事業をさらに活発に行うことで、より良い成果を期待している。